

朕陸軍軍吏部現役下士補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年九月二日

勅令第百八十七號(官報 九月三日)

陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍軍吏部現役下士補充條例

- 第一條 陸軍軍吏部現役下士ノ補充ハ步騎砲工輜重兵科ノ上等兵中軍吏部下士出身志願ノ者ヲシテ軍隊ニ於テ三箇月間會計事務ヲ見習ハシメ該隊軍吏適當ト認メタル者ヲ近衛師團監督部長ニ上申シ部長試験ヲ行ヒ合格者ノ内ヨリ一箇年間所要ノ人員ヲ採リ更ニ二箇月間當該監督部若クハ司計部ノ事務ヲ見習ハシメタル者ヲ以テス
- 第二條 近衛師團監督部長ハ前條監督部若クハ司計部ノ事務ヲ見習ハシメタル者ノ優劣順序ヲ定メ軍吏部下士候補名簿ヲ製シ之ヲ陸軍省經理局長ニ呈スヘシ
- 第三條 經理局長ハ前條ノ候補名簿ヲ審査シ軍吏部下士決定候補名簿ヲ製シ之ヲ近衛師團監督部長ニ下付スヘシ但決定候補名簿ニ登載ノ上等兵ハ再服役ヲ請願スルコトヲ得ス
- 第四條 近衛師團監督部長ハ其管區内軍吏部下士ノ缺員アル毎ニ決定候補名簿ノ順序ニ從ヒ三等書記ニ任ス
- 第五條 軍吏部下士ノ兵役期限ハ入隊ノ日ヨリ起算シ現役四年豫備役三年後備役五年トス
- 第六條 陸軍各兵科現役下士補充條例第二條第二項第八條乃至第十一條第十三條ハ本條例ニ於テ之ヲ適用ス
- 第七條 陸軍各兵科現役下士補充條例第八條第九條第十條ニ當ル者ハ聯隊長獨立隊長又ハ直屬ノ

長官ヨリ當該監督部長ニ移シ監督部長ハ經理局長ノ認可ヲ請ヒ現役若クハ兵役ヲ免ス但經理局管理ノモノニアリテハ局長之ヲ處分ス

第八條 軍吏部下士ニシテ刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ハ若クハ官職ヲ免シタル者ハ前兵科ニ復シ兵卒トナシ服役年月ヲ通算シ其年數ニ從ヒ現役豫備役後備役ニ服セシム

附則

第九條 現任ノ軍吏部下士服役年期ハ從前定ムル所ニ依ル

第十條 第八條ニ該當スル軍吏部下士ニシテ前兵科ナキ者ハ歩兵科ニ編入ス

第十一條 屯田兵所屬軍吏部下士ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ依ル

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年九月二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第百八十八號 (官報 九月三日)

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例

第一條 陸軍軍吏部豫備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一 各兵科上等兵中現役免除ノ際軍吏部下士ニ任セラレタル者

第二 各兵科豫備役上等兵中軍吏部下士適任證書ヲ所持スル者

第三 服役七箇年ニ滿タスシテ現役ヲ退キタル軍吏部下士

第二條 各監督部長ハ軍吏部豫備下士ヲ補充スル爲メ毎年軍吏部下士志願ノ上等兵中軍吏部下士現役補充條例ニ揭クル所ノ試験合格者ニシテ軍吏部下士候補名簿ニ登錄セル者現役滿期ニ至ル

トキハ共陸三等書記ニ任シ其他ノ者現役滿期ニ至ルトキハ軍吏部下士適任證書ヲ附與スヘシ

第三條 陸軍軍吏部後備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一 軍吏部下士ノ豫備役ヲ終リタル者

第二 各兵科後備役上等兵中軍吏部下士適任證書ヲ所持スル者

第三 服役七年以上十二年未滿ニシテ現役ヲ退キタル軍吏部下士

第四條 第一條第二及第三條第二ノ上等兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ軍吏部下士ノ缺員ニ應ジ監督部長之ヲ三等書記ニ任ス

第五條 豫備後備ノ軍吏部下士ハ任官後現役下士ノ進級停年ニ等シキ年數ヲ超ムルトキハ特ニ進級ノ爲ニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ査閱シ進級セシムルコトヲ得其方法ハ陸軍進級令ニ依ル

第六條 豫備後備ノ軍吏部下士及口軍吏部下士適任證書ヲ所持スル上等兵ハ志願ニ依リ服役期限ヲ延スコトヲ得

第七條 禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及ヒ逃亡

失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年九月四日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第百八十九號 (官報 九月五日)

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年九月 勅令 第百八十九號

附則

第十八條 本條例施行前ヨリ陸地測量部ニ出仕スル准士官及各兵下士ハ當分使用スルコトヲ得
○ 朕島嶼所屬名稱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年九月九日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第九十號 (官報 九月十日)

東京府管下小笠原島南南西沖北緯二十四度零分ヨリ同二十五度三十分東經百四十一度零分ヨリ同百四十一度三十分ノ間ニ散在スル三島嶼ヲ小笠原島ノ所屬トシ其中央ニ在ルモノヲ硫黃島ト稱シ其南ニ在ルモノヲ南硫黃島其北ニ在ルモノヲ北硫黃島ト稱ス

御名 御璽

明治二十四年九月十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第九十一號 (官報 九月十五日)

技術官タルノ資格ヲ有スル者ハ實務練習ノ必要ナシト認ムル場合ニ限り直チニ本官ニ任用スルコトヲ得

御名 御璽

明治二十四年九月十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義
逓信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第九十二號 (官報 九月十五日)

東京郵便電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ文官普通試験及事務練習ヲ要セス直ニ郵便電信ニ關スル判任官ニ任用スルコトヲ得
但本令ニ依リ任用セラレタルモノハ普通試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得

御名 御璽

明治二十四年九月十四日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第九十三號 (官報 九月十五日)

明治二十三年勅令第七十一號砲兵方面條例第四條中「三等軍吏」ヲ「軍吏」ニ改ム

〔參照〕

勅令第七十一號砲兵方面條例(明治二十三年八月十五日官報)抄録
第四條 砲兵方面ニ左ノ職員ヲ置ク
本條

提理	砲兵大中佐	一八
副提理	砲兵少佐	一八
醫員	砲兵大中尉	二八
二等軍吏		一八
支隊	砲兵少佐或ハ砲兵大尉	一八
支隊長	砲兵大中尉	一八

朕陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年九月十四日

勅令第九十四號 (官報九月十五日)

陸軍定員令中ノ通改正ス

第九條第一項中「各滿期ノ日ヲ明治二十四年十一月三十日ニ改ム

附表第十一號子砲兵方面定員表左ノ如ク改ム

陸軍大臣子爵高島鞆之助

砲兵方面定員表

水	部	階級	長		醫員		軍吏
			一	二	一	二	
提理	一	大(中)佐	一	一	一	一	一
副提理	一	馬 少 佐	一	一	一	一	一
醫員	一	大尉	一	一	一	一	一
二等軍吏	一	馬中尉	一	一	一	一	一
支隊長	一	馬少尉	一	一	一	一	一
支隊	一	准士官	一	一	一	一	一
砲兵大尉	一		一	一	一	一	一

考	備
(一)第三方面設置ニ至ル迄第一第二各方面本署ニ准士官一名下士五名ヲ増加ス	
(二)支隊ノ准士官下士定員中東京支隊ハ一名大阪支隊ハ三名ヲ減ス	
(三)特ニ某衛戍地ニ支隊ヲ置クトキハ其位置ニ依リ大(中)尉ヲ以テ其長トシ醫員ハ置カサルコトアル(シ)	
(四)武庫附准士官下士ノ内一名ハ隊附下士ヲ以テ兼務セシムルモノトス	

附表第十一號甲東宮武官定員表左ノ如ク改ム

東宮武官定員表

中將	少將	乘馬	大佐	中佐	少佐	乘馬	大尉	中尉	少尉	乘馬
東宮武官長	一	三	東宮武官	一	二	東宮武官	三	三	三	三
備考	佐官及尉官各一名ヲ參謀官トス									

附表第十二號庚陸地測量部定員表左ノ如ク改ム

陸地測量部定員表

水	部	階級	大		中		少		下士
			一	二	一	二	一	二	
部長	一	大佐	一	一	一	一	一	一	一
事務官	一	少佐	一	一	一	一	一	一	一
	二	大尉	一	一	一	一	一	一	一
事務官	一	中尉	一	一	一	一	一	一	一
	二	少尉	一	一	一	一	一	一	一
材料主管	一	准士官	一	一	一	一	一	一	一
	二	下士	一	一	一	一	一	一	一

附表第十三號甲備成病院定員表東京ノ區畫中「五ヲ六ニ四ヲ三ニ改メ其備考中「函館備成」以下二十六字ヲ削ル
附表第十四號甲陸軍大學校定員表左ノ如ク改ム

陸軍大學校定員表

區分	階級		計	備考
	大佐	中佐		
本部	長一	二	三	將校同相當官並陸地測量師 六九 將校乘馬 二二二 從前陸地測量部ニ出仕スル准士官ハ當分ノ内下士並判任文官定員中ニ於テ勤續セシムルコトヲ得
	二	一	三	
區分	相當官	並	陸軍教授	陸軍大學校定員表左ノ如ク改ム
	陸軍教授	陸軍教授	陸軍教授	
判任文官	下士	並	校醫	
陸軍大學校	陸軍大學校	陸軍大學校	陸軍大學校	

部	官	數	備考
兵學教官	官	一一二	陸軍大學校定員表左ノ如ク改ム
陸軍教授	官	七一	陸軍大學校定員表左ノ如ク改ム
陸軍教授	官	八一	陸軍大學校定員表左ノ如ク改ム
陸軍教授	官	九	陸軍大學校定員表左ノ如ク改ム
計		六〇	陸軍大學校定員表左ノ如ク改ム

〔參照〕

勅令第二百六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報)抄錄
第九條 左ニ掲グルモノハ當分ノ内從前ノ規定ニ依リ各左ノ期日限り之ヲ廢止ス
一 跡繼工 各滿期ノ日
第十一號子

砲兵方面定員表

區分	階級		計	備考
	大(中)	佐		
本部	提理一	二	三	砲兵方面定員表
	副提理一	二	三	
區分	長	二	三	砲兵方面定員表
	副長	二	三	
支署	署長	一	一	砲兵方面定員表

武庫

備 (一)東京支署ニ在テハ下士二名ヲ増加ス (二)第三方面設置ニ至ルマテ第一第二方面各本署ニ
准士官一名下士五名ヲ増加ス (三)特ニ某衛戍地ニ支署ヲ置クトキハ其位置ニ依リ大(中)尉ヲ
以テ其長トシ署員ヲ置カサルコトアルヘシ

第十二號甲

東宮武官定員表

陸軍佐官	乘馬	陸軍尉官	乘馬
一	二	三	三

備考 佐官及尉官各一名ヲ參謀官トス

第十二號庚

陸地測量部定員表

三角科	本部部長	區分	階級	大佐	中佐	少佐	陸地測量部 大尉	陸地測量部 中尉	陸地測量部 少尉	陸地測量部 准士官	陸地測量部 准士官下	陸地測量部 學生
長	二						一	一	一	一	一	一
二							一	一	一	一	一	一
二												
一九												
五												
二六七												

第十三號甲

衛戍病院定員表

計	將校同相當官	陸地測量部	六九	將校馬	二二
地形科	長	一	二		
製圖科	長	一	二		
修技所	幹事	一	四		
	數官				三
					七
					一七
					五
					六三五

衛戍病院定員表

位置	階級	東	長	官	乘馬	士	官	下	士
		京	長	一(一)等軍醫正	二	二(一)等軍吏 二(二)等軍吏 二(三)等軍醫 二(四)等軍醫 二(五)等藥劑官	四	一五二	三七

備考 (一)横須賀ヨリ小倉ニ至ル十四箇ノ病院長ノ所在地歩兵(要塞砲兵)聯隊附二等軍醫正之ヲ派
ス(二)本表定員ノ外ニ神奈川分遣砲兵隊ノ爲ニ二(三)等軍醫一名一(一)(二)等看護長一名ヲ
東京衛戍病院ニ函館衛戍病院ノ爲ニ二(三)等看護長一名ヲ青森衛戍病院ニ伏見衛戍病院
ノ爲ニ二(一)(二)(三)等看護長一名ヲ大阪衛戍病院ニ長崎分遣砲兵隊ノ爲ニ二(三)等軍醫一名一
二(四)等看護長一名沖繩分遣歩兵隊ノ爲ニ二等軍醫一名一(一)(二)(三)等看護長一名ヲ熊本衛
戍病院ニ増加ス

陸軍大學校定員表

階級	分	本部		官數		學部		計
		長	二	陸軍教授	兵學教官	陸軍教授	學生	
大佐	相	1	2					3
佐	當							3
中佐	官							3
少佐	位							3
大尉	陸							3
中尉	軍							3
少尉	教							3
尉	授							3
大士	判							3
中士	任							3
少士	文							3
尉	官							3
下士	校							3
校	馬							3
計								3

陸軍大學校定員表

御名 御璽

明治二十四年九月二十五日

勅令第百九十五號 (官報 九月二十六日)

大藏大臣 伯耆松方正義

海軍大臣 子爵樺山資紀

明治二十三年勅令第三十四號鎮守府造船材料資金會計規則中左ノ通改正ス
 第五條 貯蓄材料ノ原價ハ購入代價ヲ以テ計算スヘシ但造船法ノ改良市價ノ低落又ハ毀損等ニ依リ其實價減少シタルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ
 第六條 貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ
 第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前前年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ定ム

〔參照〕

- 勅令第三十四號鎮守府造船材料資金會計規則(明治二十三年三月二十日)抄録
- 第五條 貯蓄材料ノ價格ハ總テ購入及改製代價ヲ以テ計算スヘシ
- 第六條 貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ購入代價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ
- 第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度ノ損減高ニ基キテ之ヲ定ム

朕府縣參事會ノ職務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年九月二十九日

内閣總理大臣兼大藏大臣 伯耆松方正義

内務大臣 臣子爵品川彌二郎

勅令第百九十六號 (官報 九月三十日)

第一條 土地收用法第二十九條土地收用審査委員ノ事務ハ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣

參事會之ヲ行フヘシ

第二條 所得稅法第二十條及第二十一條府縣常置委員會ノ事務ハ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣參事會之ヲ行フヘシ

(參照)

法律第十九號土地收用法(明治二十二年七月三十一日官報)抄錄

第二十九條 土地收用審査委員ハ府縣常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故除アルトキハ上府高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕様ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

勅令第五號所得稅法(明治二十年三月二十三日官報)抄錄

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此稅法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

朕將校演習旅行條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十月六日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

勅令第百九十七號(官報 十月七日)

將校演習旅行條例

第一章 總則

第一條 將校演習旅行ヲ分テ參謀演習旅行及幹部演習旅行ノ二種トス

第二條 參謀演習旅行ハ參謀總長、幹部演習旅行ハ監軍ノ管知スル所トス

第三條 參謀演習旅行ノ目的ハ大部隊ノ作戰ヲ實地ニ講究シ之ヲ行フ將校ヲシテ迅速ニ現時ノ戰況ヲ判斷シ區處ヲ決定シ之カ實施ノ方法ヲ計畫スル等總テ戰時高等指揮官竝ニ參謀將校ノ要務ヲ習得セシムルニ在リ故ニ其講究ハ軍隊ノ動止、分合ノミニ止ラス間々給養、經理ノ事ニ及フモノトス

第四條 幹部演習旅行ノ目的ハ主トシテ戰術上ノ問題ヲ實地ニ講究シ之ヲ行フ將校ヲシテ部隊ノ運用即チ行軍、駐軍、戰鬪等ノ事ヲ練習セシムルニ在リ故ニ其講究ハ軍隊後方ノ諸勤務又ハ戰略上ノ諸問題ニ及ハサルヲ常トス

但騎兵大隊ノ幹部演習旅行ニ在テハ同時ニ自己乘馬ノ持久力ヲモ經驗スルモノトス

第二章 參謀演習旅行

第五條 參謀演習旅行ハ分テ左ノ二種トス

其一 參謀本部ノ參謀演習旅行

其二 近衛師團ノ參謀演習旅行

第六條 參謀本部ノ參謀演習旅行ハ參謀總長ノ指命ヲ以テ參謀本部ノ參謀將校ヲシテ之ヲ行ハシメ總長自ラ之ヲ統裁シ或ハ次長若クハ特ニ指名スル者ヲシテ統裁セシム
此他近衛師團若クハ官廨 學校ニ屬スル佐官一名及參謀將校若干名並ニ監督部衛生部將校相當官各一名ヲシテ此演習旅行ニ參列セシムルコトアルヘシ但近衛師團ニ屬スル將校ハ參謀總長ノ指名ニ由リ其他ハ參謀總長ヨリ陸軍大臣又ハ監軍ニ商議シテ參列セシムヘキモノヲ定メ當該長官之ヲ命ス

第七條 參謀本部ノ參謀演習旅行ハ毎年一回之ヲ施行シ旅行日數ハ參謀總長之ヲ定ム可シト雖モ通常往復日數共三週日間トス

第八條 參謀本部ノ參謀演習旅行終レハ參謀總長ハ官廨學校ニ屬スル將校監督部及衛生部ノ將校相當官ノ伎倆成績ヲ陸軍大臣又ハ監軍ニ通知ス

第九條 近衛師團ノ參謀演習旅行ハ都督、師團長ノ指名ヲ以テ近衛若クハ師團ノ將校ヲシテ之ヲ行ハシメ當該參謀長之ヲ統裁ス此演習旅行ヲ行フヘキ將校左ノ如シ但參謀總長ハ所要ニ從ヒ之ヲ増減スルコトヲ得

- 近衛若クハ師團ノ參謀將校 悉皆
 - 各步兵旅團將校 五名
 - 騎兵大隊將校 一名
 - 野戰砲兵聯隊將校 一名
 - 工兵大隊將校 一名
 - 監督部ノ將校相當官 一名
 - 衛生部ノ將校相當官 一名
- 内凡ソ四名ハ佐官ニシテ殘餘ノ三分二ハ大尉三分一ハ中尉タルヘシ
- 都督、師團長ハ其司令部或ハ要塞砲兵聯隊或ハ輜重兵大隊ノ將校一名ヲ限リ此演習ニ參列セシム

ムルコトアルヘシ然ルトキハ步兵旅團ノ將校ヲ減シ以テ此演習ヲ行フ將校ノ總員ヲシテ十八名ヲ超過セサルシムルヲ要ス

近衛都督ハ監軍ノ要求ニ依リ監軍部及諸學校ニ屬スル將校二名ヲシテ此演習ニ參列セシムルモノトス然ルトキハ步兵旅團ノ將校ヲ減シテ四名トナス

第十條 近衛師團ノ參謀演習旅行ハ概ネ隔年ニ一回之ヲ施行シ其日數ハ往復ヲ除キ十四日間トス但參謀總長ハ所要ニ從ヒ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第十一條 近衛師團ノ參謀演習旅行ハ通常近衛ハ第一師管內各師團ハ當該師管內ニ於テ行フモノトス但都督、師團長ハ參謀總長ノ認可及演習旅行ヲ施行セント欲スル地方師團長ノ承認ヲ得テ他師管內ニ於テスルコトヲ得

第十二條 近衛師團ノ參謀演習旅行終レハ都督、師團長ハ參謀長ヲシテ演習ヲ行ヒタル將校ノ伎倆、成績ニ關シ單簡ナル報告書ヲ作ラシメ之ヲ參謀總長ニ進達ス參謀總長ハ監軍部及諸學校ノ將校ニ關スルモノハ監軍ニ監督部及衛生部ノ將校相當官ニ關スルモノハ陸軍大臣ニ移ス

第十三條 幹部演習旅行ハ分テ左ノ二種トス
其一 步兵旅團ノ幹部演習旅行

其二 騎兵大隊ノ幹部演習旅行

第十四條 步兵旅團ノ幹部演習旅行ハ各步兵旅團ニ於テ旅團中ノ佐尉官ヲシテ之ヲ行ハシメ旅團長自ラ之ヲ統裁ス但其人ハ師團ニ在テハ佐官五名、大尉六名、中尉三名、近衛ニ在テハ佐官四名、大尉五名、中尉二名トス

都督、師團長ハ騎兵及工兵大隊ヨリ各一名、野戰砲兵聯隊ヨリ二名ノ將校ヲシテ此演習ニ參列セシムルコトアルヘシ
但此演習人員ハ所要アレハ都督、師團長之ヲ増減スルコトヲ得

ノ内國船ニ積載シ直ニ外國ニ航行スルノ特許ヲ與フルコトヲ得

第二條 前條ノ特許ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 本令ハ明治二十四年十月二十一日ヨリ施行ス

朕陸軍各兵科現役士官補充條例中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十月二十日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百一號(官報十月二十一日)

陸軍各兵科現役士官補充條例中左ノ通追加ス

第二十七條ニ左ノ但書ヲ加フ

但見習士官所屬ノ中隊長ニシテ保證書ヲ記載シタル者ハ選舉報告ヲ爲スノ限ニアラス

第二十八條第一項中「報告書」ノ下並ニ順序ヲ定メタル連名簿ノ十二字ヲ加フ

〔參照〕

勅令第九十二號陸軍各兵科現役士官補充條例(明治二十二年七月十日官報)抄録

第二十七條 將校會議ハ見習士官ヲ將校ト爲スノ可否ヲ議決スル所トス故ニ各將校ハ可否ノ答ヲ自ら選舉報告書ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署スヘシ

第二十八條第一項

將校會議ニ於テ將校ノ答者可ナル者ハ聯(大)隊長ハ其選舉報告書ヲ添ヘ少尉ノ資格ヲ備フルコトヲ都督師團長ハ兵ハ故ニ上申ス都督師團長ハ之ヲ陸軍ニ進達シ陸軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

朕理事及理事試補服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十月二十日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百一號(官報十月二十一日)

理事及理事試補服制中左ノ通改正ス

一 理事ノ服制圖例中外套ノ袖章ヲ除ク外套任四等以下ニ係ル規定ヲ廢シ且ニ等以上ニ及四等以下ノ文字ヲ削ル

一 理事試補ノ服制圖例中「四等以下」ヲ「委任」ニ改メ但書ノ下「帽ノ横章ハ黒絨幅一寸七分ノモノヲ用ヒ」ノ十八字ヲ削ル

一 第二種帽ノ下横章ノ區畫及製式ノ區畫ヲ左ノ如ク改ム

横	章	製	式
金線幅七分		下部高サ一寸七分強金線二條其線ノ間隔ハ三分頂端線ハ濃紺絨幅一分五厘ヲ喰出ニ附ス	
同		但下部ノ金線一條トス	

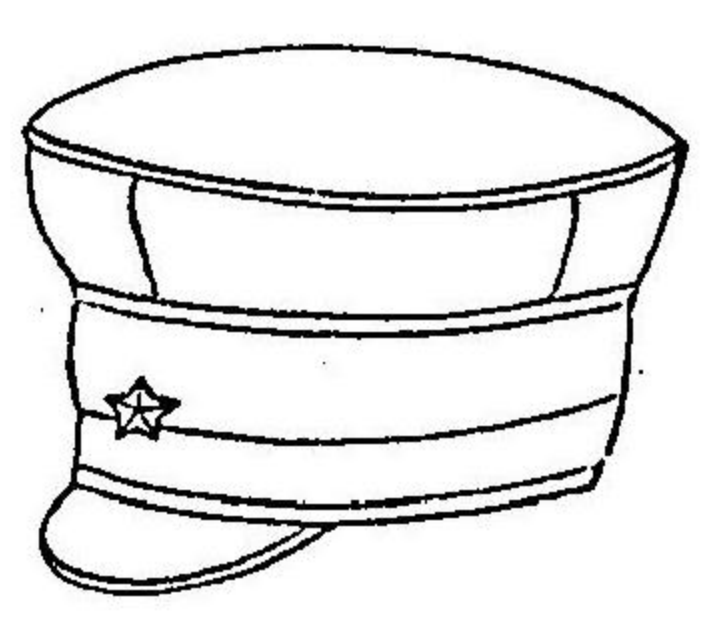
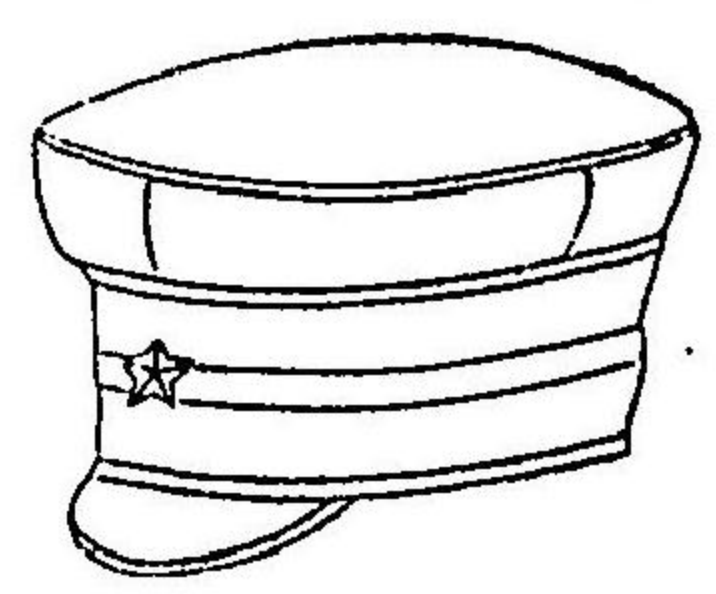
一 衣ノ下品質ノ區畫中「平織」ノ二字ヲ削ル

一 外套ノ下袖章ノ區畫中委任三等以上ニ係ル規定ヲ廢ス

- 一 服制圖中奏任四等以下ニ係ル規定ヲ廢シ且ニ三等以上及「四等以下」ノ文字ヲ削リ「奏任」ノ下ニ「官」ノ字ヲ加フ
- 一 同第二種帽ノ圖ヲ左ノ如ク改ム

勅任官

奏任官



朕官有森林原野及産物特別處分規則中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治三十四年十月二十八日
 勅令第二百二號（官報十月二十九日）

農商務大臣陸奥宗光

明治二十三年四月勅令第六十九號官有森林原野及産物特別處分規則中左ノ通改正追加ス
 第一條第十七中「木竹」ヲ「主副産物」ニ改ム
 第五條 農商務大臣ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ付シ地元人民ニ森林ノ副産物ヲ

無料ニテ採取セシムルコトヲ得
 第六條 農商務大臣ハ森林手入ノ爲メ採取シタル産物ノ全部又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得

〔參照〕

勅令第六十九號官有森林原野及産物特別處分規則（明治二十三年四月五日官報）抄録
 第一條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有森林原野及其産物ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣却スルコトヲ得
 十七 見積代價金貳百圓ニ超ヘサル木竹ヲ賣拂フトキ

朕度量衡器ノ制限、其ノ製作、修覆及販賣ノ免許並其ノ檢定ニ關スル規則中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月五日

内閣總理大臣 伯耆松方正義
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百三號 (官報十一月六日)
明治二十四年勅令第七十七號第九條度量衡檢定料量器表中左ノ通追加ス

槍	五「デシリットル」以下	一、五
銀	二「リットル」以下	二、〇
錫	五「リットル」	三、〇
錫	十「リットル」	四、〇
錫	二十「リットル」	六、〇
鐵	五「デシリットル」以下	三、五
鐵	二「リットル」以下	五、〇
鐵	五「リットル」	四、〇
鐵	十「リットル」	六、〇
鐵	二十「リットル」	八、〇
鐵	五「デシリットル」以下	一、五
鐵	二「リットル」以下	二、〇
鐵	五「リットル」	三、〇
鐵	十「リットル」	四、〇
鐵	二十「リットル」	六、〇
鐵	五「デシリットル」以下	三、五
鐵	二「リットル」以下	五、〇
鐵	五「リットル」	四、〇
鐵	十「リットル」	六、〇
鐵	二十「リットル」	八、〇

朕帝國大學及文部省直轄諸學校教官俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年十一月七日

勅令第二百四號(官報十一月九日)

帝國大學及文部省直轄諸學校教官ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ年俸等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

内閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣伯爵大木喬任

朕岐阜愛知二縣下震災地方人民ノ非常ナル不幸ヲ救済スルカ爲メニ又破壊セル河川堤防ノ工事緊急ヲ要スルカ爲メニ内閣ノ上奏ニ依リ茲ニ臨時支出ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年十一月十一日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義
文部大臣伯爵大木喬任
外務大臣伯爵榎本武揚
遞信大臣伯爵後藤象二郎
海軍大臣伯爵樺山資紀
陸軍大臣陸奥宗光
農商務大臣伯爵高島綱之助

司法大臣 臣子曾田中不二郎
內務大臣 臣子曾品川彌二郎

勅令第二百五號

一金百五十萬圓

一金七拾五萬圓

岐阜縣

愛知縣

右金額ハ非常要急ノ需用タルニ依リ明治二十三年年度歲計剩餘金ヨリ支出ス

朕貴族院事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十二日

勅令第二百六號(官報十一月十三日)

内閣總理大臣伯爵松方正義

貴族院事務局官制中左ノ通改ム

第一條中屬ノ次ニ左ノ職員ヲ加フ

守衛長 一人

守衛番長 一人

第五條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第六條 守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス

第七條 守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

朕衆議院事務局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百七號(官報十一月十三日)

衆議院事務局官制中左ノ通改ム

第一條中屬ノ次ニ左ノ職員ヲ加フ

守衛長

守衛長

守衛番長

一八

第五條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第六條 守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス

第七條 守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

朕貴族院及衆議院守衛待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義

勅令第二百八號(官報十一月十三日)

貴族院及衆議院ノ守衛ハ判任官ヲ以テ待遇ス

朕砲兵工廠條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十二日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百九號(官報十一月十三日)

砲兵工廠條例中左ノ通改正ス

第一條 砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造修理シ及海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所トス

第二條中 砲具製造所ノ次ニ目黒火藥製造所ノ七字ヲ加フ

第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理

副提理

檢査官

製造所長

所員

軍醫

技師

技師試補

コトヲ得

第五條 第四條ニ掲クル職員ノ外屬技手ヲ置ク但當分ノ内砲兵上等監護及砲兵科下士ヲ混用スル

第九條 製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任シ所員ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス

第十條中「砲兵上等監護」ノ六字ヲ削ル

第十二條 軍用制式ノ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但海軍
造兵廠長ヨリ要求スル火藥並砲兵會議議長ヨリ試驗用ノ爲メ要求スルモノハ此限リニアラス

第十三條 但書削除

附則

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第七十二號砲兵工廠條例(明治二十三年八月十五日官報)抄録

- 第一條 砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造及修理スル所トス
- 第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置キ其製造所ヲ設クルコト左ノ如シ
 - 東京砲兵工廠
 - 小銃製造所
 - 銃包製造所
 - 火具製造所
 - 砲具製造所
 - 板橋火藥製造所
 - 岩鼻火藥製造所
 - 大阪砲兵工廠
 - 火砲製造所
 - 砲架製造所
 - 彈丸製造所
 - 火具製造所
 - 砲具製造所
- 第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 陸軍大臣
 - 主任 砲兵大佐
 - 副主任 砲兵少佐
 - 検査官 東京砲兵工廠 砲兵大佐 一人
 - 大阪砲兵工廠 砲兵大佐 一人
 - 製造所長 砲兵大尉若クハ技師 一人
 - 一等軍醫 工務部砲兵工廠ニ在リテハ砲兵 五六 人
 - 工務部砲兵工廠ニ在リテハ砲兵 八 人
 - 技師若クハ技師候補 四人

第九條 第四條ニ掲ケル職員ノ外砲兵上等監護及技手厨若干ヲ置ク但技手ニ限リ當分ノ内砲兵科下士ヲ混用スルコトヲ得

第十條 製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任ス

第十一條 技師及砲兵上等監護技手厨ハ上官ノ命ヲ受ケ其事務ヲ分掌ス

第十二條 凡テ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但砲兵會議議長ヨリ試驗ノ材料模範等ヲ要求スルトキハ此限ニアラス

第十三條 官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依頼スルトキ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得但軍用制式ノ製造ハ必ズ陸軍大臣ノ許可ヲ經ヘシ

朕陸軍會葬式ヲ廢シ陸軍會葬式及喪式制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

陸軍大臣子爵高島綱之助

明治二十四年十一月十四日

勅令第二百十號(官報十一月十六日)

陸軍會葬式及喪式

第一章 陸軍會葬式

第一條 陸軍會葬式ハ陸軍現役軍人並ニ召集中ニ係ル陸軍豫備役後備役軍人及海軍現役將官並ニ

勳三等 實冠章佩用者ヲ 以上ノ死亡者ニ對スル禮遇ニシテ其式左ノ如シ

其一 儀仗兵發差

其二 弔銃齊發

其三 總代會葬

其二其二三ハ海軍現役將官及勳三等以上ノ者ニ施行セス

第二條 陸軍會葬ノ式ハ死者ノ團隊附軍人ナルトキハ該團隊長之ヲ管理シ其他ノ軍人ニ在テハ其地衛戍司令官之ヲ管理ス

海軍現役將官及勳三等以上ノ者ノ送葬ヲ執行スルトキハ遺族ヨリ其地衛戍司令官ニ儀仗兵發差ノ事ヲ請求スヘシ

第三條 將校竝ニ同相當官准士官ノ柩ハ黒布ヲ以テ之ヲ覆ヒ其上ニ本人生前所用ノ勳章記章褒章正衣袴肩章第一種帽前立飾緒飾帶刀(劔)及正緒ヲ排置ス而シテ乘馬本分ノ者ハ乘馬ヲ柩後ニ牽カシメ其馬具ハ黒布ヲ以テ總テ之ヲ覆フヘシ

下士兵卒ノ柩ハ黒布ヲ以テ之ヲ覆ヒ勳章記章褒章ヲ其上ニ排置ス

第四條 陸軍會葬式ヲ施行スルハ一回ニ限ル後日改葬スルコトアルモ再ヒ之ヲ行フコトナシ禁錮ノ刑ニ處セラレ其刑期中死亡ノ軍人ニ在テハ此會葬式ヲ施行スルコトナシ

其一 儀仗兵發差

第五條 儀仗兵ノ發差ハ陸軍將校竝ニ同相當官及戰役ニ從事シ若クハ勳章ヲ有スル陸軍各兵科曹長一二等軍曹上等兵一二等卒海軍現役將官及勳三等以上ノ者ノ送葬ニ之ヲ行フ

第六條 儀仗兵ハ喪家ノ門前ヨリ葬祭場迄ノ間途上柩ノ前後ニ列シ護衛ヲナスモノトス

第七條 儀仗兵ノ兵員及編制ハ死者ノ官階ニ依リ其區別左ノ如シ

第一項 大中將ニハ步兵一大隊ニシテ大佐又ハ中佐之ヲ指揮ス

第二項 少將ニハ步兵一大隊ニシテ佐官之ヲ指揮ス

第三項 少將相當官及大中佐ニハ步兵一中隊ニシテ少佐之ヲ指揮ス

第四項 大中佐相當官及少佐ニハ步兵一中隊ニシテ大尉之ヲ指揮ス

第五項 少佐相當官及大尉ニハ步兵一小隊ニシテ中尉之ヲ指揮ス

第六項 大尉相當官及中少尉竝ニ同相當官ニハ步兵一小隊ニシテ少尉又ハ曹長之ヲ指揮ス

第七項 曹長ニハ二等軍曹一名上等兵二名兵卒十六名ニシテ一等軍曹之ヲ指揮ス

第八項 一等軍曹ニハ上等兵二名兵卒十二名ニシテ二等軍曹之ヲ指揮ス

第九項 二等軍曹ニハ兵卒十名ニシテ上等兵之ヲ指揮ス

第十項 上等兵ニハ卒六名ニシテ故參ノ卒之ヲ指揮ス

第十一項 一二等卒ニハ卒四名ニシテ故參ノ卒之ヲ指揮ス

第十二項 海軍大中將及大勳位ニ敍セラレタル者ニ在テハ第一項ニ海軍少將及勳一等ニ敍セラレタル者ニ在テハ第二項ニ勳二等ニ敍セラレタル者ニ在テハ第三項ニ勳三等ニ敍セラレタル者ニ在テハ第四項ニ同シ

儀仗兵ハ步兵ニ限ラス場合ニ依リ他兵(野戰砲兵)ヲ用ユルコトヲ得但乘馬隊ハ徒歩編成トス

第八條 軍隊ノ長タル將官佐官及大尉ノ送葬ニハ儀仗兵ニ列スルモノヲ除キ該地屯在ノ部下軍隊悉皆便宜柩ノ通過スル道途ニ於テ其兩側ニ堵列シ其葬ヲ送ルモノトス

前項送葬ノ爲メ堵列スル軍隊ハ總テ死者次級ノ者之ヲ指揮ス

乘馬隊ハ徒歩編成トス

第九條 步兵聯隊長タル大佐或ハ中佐ノ送葬ニハ儀仗兵ハ軍旗ヲ樹ツ

第十條 一小隊以下ノ儀仗兵ニ在テハ喇叭手一名ヲ附スルモノトス

第十一條 儀仗兵ノ服裝ハ正装トス

第十二條 儀仗兵ハ儀仗服務中ハ柩ニ對スルノ外總テ敬禮ヲ行フコトナシ

第十三條 儀仗兵ハ同國隊若クハ同衛戍地ニ於テ充足スル能ハサルトキハ第七條各項ノ隊數若クハ兵員ヲ減スルコトヲ得

第十四條 衛戍兵ノアラサル地方ニ於テ葬儀ヲ爲ストキハ儀仗兵ヲ出サス又半日行程(三里)以外ノ地ニ埋葬スルトキハ儀仗兵ヲ出スコトナシ

第十五條 儀仗兵ハ先ツ喪家ニ至リ門外ニ整列シ柩ノ出ルトキ其死者官階相當ノ敬禮ヲ爲シ喇叭手ハ低濁ノ音調ヲ以テ命ヲステ、吹奏ス而シテ其隊(一小隊以)ヲ二分シテ柩ノ前後ニ備ヘ側面縱隊ニテ行進シ銃ヲ臂下ニ執ル

葬祭場ニ著スレハ指揮官ハ橫隊ヲ制リ葬祭ノ間ハ立銃葬祭ヲ終レハ敬禮ヲナシメ喇叭手ハ低濁ノ音調ヲ以テ命ヲステ、吹奏ス而シテ弔銃齊發ノ後退場ス但弔銃齊發ヲ施行セサレハ敬禮終テ直チニ退場ス

第十六條 送葬ノ爲メ出場スル軍隊ノ堵列スヘキ場所ハ喪家及葬祭場近傍道路ノ廣狹及該軍隊ヲ出スヘキ兵隊ノ屯營ト喪家又ハ葬祭場トノ距離ノ遠近ヲ斟酌シ衛戍司令官又ハ國隊長之ヲ定ム但隊列ノ位次ハ柩ノ來ルカヲ上トス

第十七條 送葬ノ爲メ堵列スル軍隊ハ柩ノ通過スルトキ其死者官階相當ノ敬禮ヲナシ軍樂隊及喇叭手ハ低濁ノ音調ヲ以テ命ヲステ、吹奏ス右終テ指揮官ハ喇叭手ヲシテ解散ノ語ヲ吹カシメ各隊ヲシテ解散セシム

其二 弔銃齊發

第十八條 弔銃齊發ハ弔禮ノ爲メ小銃ヲ齊發スルモノニシテ將官並ニ隊附佐尉官ノ送葬ニ限り之ヲ行フ

第十九條 弔銃齊發ハ葬祭ノ告詞終ルノ際儀仗兵隊長ノ號令ニ依リ行フモノトス其回數ハ死者ノ官階ニ依リ其區別左ノ如シ

- 一 將官 三回
- 二 佐官 二回
- 三 尉官 一回

其三 總代會葬

第二十條 總代會葬ハ陸軍軍人一般送葬ノ時死者ト同官等以下ノモノヲシテ其葬儀ニ會同セシムルモノニシテ其總代ノ人員ハ死者ノ官階ニ依リ其區別左ノ如シ

- 第一項 將官並ニ同相當官ノ送葬ニハ將官又ハ同相當官及上長官士官各階級毎ニ各一人
- 第二項 上長官士官ノ送葬ニハ上長官士官各階級毎ニ各一人
- 第三項 准士官ノ送葬ニハ准士官及下士各階級毎ニ各三人
- 第四項 下士兵卒職工士官候補生諸生徒ノ送葬ニハ下士兵卒職工士官候補生諸生徒各階級毎ニ各四人

同國隊若クハ同衛戍地ニ於テ總代ノ人員ヲ充足スル能ハサルトキハ前各項ノ人員ヲ減スルコトヲ得

第二十一條 總代ノ服裝ハ正装トス

第二十二條 總代ハ途上柩ノ左右ニ隨行シ葬祭場ニ在テハ親族ノ次ニ列スルモノトス

第二章 陸軍表喪式

- 第二十三條 陸軍表喪式ハ軍隊及軍人喪章ヲ附シ其喪ヲ表スルノ式トス
- 第二十四條 喪章ハ黒布ヲ以テ軍旗喇叭樂器刀(劔)及衣ノ左袖ヲ蓋フ
- 第二十五條 聯隊長ノ喪ニハ軍旗ハ後任者拜命迄部下將校竝ニ同相當官ハ一箇月間刀(劔)ニ喪章ヲ附ス
- 第二十六條 大隊長及中隊長ノ喪ニハ其部下將校竝ニ同相當官ハ一箇月間刀(劔)ニ喪章ヲ附ス
- 第二十七條 將校竝ニ同相當官ハ宮中喪ノトキ參内スルニハ其時々ノ命令ニ從ヒ喪章ヲ附ス
- 第二十八條 將校竝ニ同相當官准士官ハ親族ノ喪ニ居ルトキハ一定ノ喪期間ハ衣ノ左袖ニ喪章ヲ附スヘシ但除服本務ニ服スルトキハ之ヲ除去スルモノトス
- 第二十九條 陸軍會葬式ニ依リ發差スル軍隊ハ軍旗喇叭樂器ニ喪章ヲ附ス其將校及總代タル將校竝ニ同相當官准士官見習士官ハ刀(劔)ニ喪章ヲ附ス
- 第三十條 喪章ノ製式ハ左ノ如シ
 - 第一項 軍旗ノ喪章 幅二寸長四尺ノ黒布ヲ旗竿ノ上端ニ附ス
 - 第二項 喇叭ノ喪章 幅二寸長二尺ノ黒布ヲ前身ト後身ニ附ス
 - 第三項 樂器(大小太鼓)ノ喪章 黒布ヲ以テ太鼓ノ全體ヲ蓋フ
 - 第四項 刀(劔)ノ喪章 幅二寸長二尺ノ黒布ヲ柄ニ附ス
 - 第五項 衣ノ左袖ニ附スル喪章 幅二寸ノ黒布ヲ左腕ニ卷リ

朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十四日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百十一號(官報十一月十六日)
陸軍給與令第八十五條第一項中參謀ヲ「將校演習」ニ第二十二表中馬糧ノ區畫藥ノ定量「賣買百匁ヲ八百匁」ニ改ム

附則

本令中第二十二表ノ改正ハ明治二十四年十二月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

- 勅令第六十七號陸軍給與令(明治二十三年三月三十一日官報抄録)
- 第八十五條 左ノ各項ニ該ル者ハ前各條ニ依ラス第三十二表ノ旅費定額内ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得
- 一 參謀旅行實施ノ爲メ作業地内旅行スル者

朕中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當リ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十四日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百十二號(官報十一月十六日)
中央備荒儲蓄金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ賣却スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕茲ニ會計検査院屬定員ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年十一月十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義

勅令第二百十三號(官報十一月十六日)

會計検査院屬ハ百六十八ヲ以テ定員トス

朕鐵山監督署官制施行期限變更ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百十四號(官報十一月十六日)

明治二十四年七月勅令第四百四十五號鐵山監督署官制ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

朕茲ニ文武高等官官職等級表ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年十一月十四日

内閣總理大臣伯耆松方正義

勅令第二百十五號(官報十一月十六日)

技 術 官	帝國大學
	文部省直轄諸 學校及東京圖 書館

明治二十四年十一月 勅令 第三百十一

附則

附則

附則

明治二十四年十一月十六日
勅令第二百十六號(官報十一月十七日)
師範學校令中左ノ通改正ス

朕師範學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年十一月十六日
勅令第二百十六號(官報十一月十七日)

文部大臣伯爵大木喬任

師範學校令中左ノ通改正ス

第四條中但書ヲ削除ス

第五條 尋常師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條中「募集ノ上ニ定員並ニ三字ヲ加フ

附 則

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第十三號師範學校令(明治十九年四月十日官報)抄録

第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ但尋常師範學校ノ附屬小學校ノ經費ハ地方稅ヨリハ授業料ヲ以テ支辨スヘシ授業料ノミヲ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ附屬學校ヲ除クノ外尋常師範學校經費ヨリ支辨スヘシ

第五條 尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方稅ノ額ハ府知事縣令其豫算ヲ調整シ文部大臣ノ認可ヲ受ケハシ

第八條 師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

朕尋常師範學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年十一月 勅令 第二百十六號 第二百十七號

御名 御璽

明治二十四年十一月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義
文部大臣伯爵大木喬任

勅令第二百十七號(官報十一月十七日)

尋常師範學校官制

第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

助教諭

舍監

訓導

書記

第二條 教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭ノ中一人ハ特ニ委任文

官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條 校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス

第七條 舍監ハ校長ノ命ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第九條 書記ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十條 教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

第十一條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

附則

朕市町村立小學校長及教員名稱及待遇改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十六日

文部大臣伯爵大木喬任

勅令第二百十八號(官報十一月十七日)

市町村立小學校長及教員名稱及待遇

第一條 市町村立小學校長及教員ノ名稱左ノ如シ

一 小學校長

二 訓導 小學校ノ正教員タル者ノ名稱トス

三 准訓導 小學校ノ准教員タル者ノ名稱トス

第二條 市町村立小學校長及正教員ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

朕陸軍軍醫學校條例中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百十九號(官報十一月十七日)

明治二十四年十一月 勅令 第二百十八號 第二百十九號

陸軍軍醫學校條例中第十六條ヲ削除ス

〔参照〕

勅令第九十七號陸軍軍醫學校條例(明治二十一年十二月二十八日官報)抄録
第十六條 召集醫官ノ旅費ハ本校ニ於テ之ヲ給シ俸給請給ハ本人ノ所屬部隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ本校ニ於テ之ヲ受
授ヲ爲スモノトス

朕陸軍蹄鐵學舎條例中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

陸軍蹄鐵學舎條例中第十一條第二項ヲ削除ス

〔参照〕

勅令第四十二號陸軍蹄鐵學舎條例(明治二十一年六月七日官報)抄録
第十一條第二項
旅費ハ學舎ニ於テ支給シ被服食料ハ原隊ヨリ支給シ雜具ハ學舎ニ於テ貸與ス且其俸給ハ前月中ニ原隊ヨリ學舎ニ交付シ
學舎ニ於テ之ヲ授受ヲナスモノトス

朕陸軍被服工長學舎條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十六日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百二十一號(官報十一月十七日)
陸軍被服工長學舎條例中左ノ通改正ス

第十二條 學生ハ舍内ニ居住セシメ修業用品ハ之ヲ貸與或ハ支給ス
豫備役後備役ノ籍ニ在ル者ハ糧食被服及手當金ヲ給ス

〔参照〕

勅令第三十號陸軍被服工長學舎條例(明治二十三年三月十九日官報)抄録
第十二條 學生ハ舍内ニ居住セシメ諸給與及ヒ修業用品ハ總テ學舎ニ於テ之ヲ支給ス但現役ノ者ハ俸給食料被服ヲ原隊ヨ
リ學舎ニ送附セシム

朕郵便及電信局郵便爲替貯金管理所電信建築署電話交換局官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第二百二十二號(官報十一月十七日)

郵便及電信局郵便爲替貯金管理所電信建築署電話交換局官制中左ノ通改正ス
郵便及電信局官制第十二條中二千八百七十六人ヲ三千五十五人ニ第十三條中九百四十七人ヲ千
百五十八人ニ改ム

郵便爲替貯金管理所官制第七條中五百八十七人ヲ六百十二人ニ改ム
電信建築署官制第六條中七十六人ヲ八十四人ニ改ム

電話交換局官制第六條中十八ヲ十四人ニ改ム

附 則

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

勅令第四百四十七號郵便及電信局官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄録

第十二條 書記書記補ハ二千八百七十六人ヲ以テ定員トス

第十三條 技手ハ九百四十七人ヲ以テ定員トス

勅令第四百四十八號郵便爲替貯金管理所官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄録

第七條 書記書記補ハ五百八十七人ヲ以テ定員トス

勅令第五百五十一號電信建築監督官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄録

第六條 書記技手ハ七十六人ヲ以テ定員トス

勅令第五百五十二號電話交換局官制(明治二十四年七月二十七日官報)抄録

第六條 書記技手ハ十八人ヲ以テ定員トス

御 名 御 璽

明治二十四年十一月十六日

勅令第二百二十三號(官報十一月十七日)

震災ニ付人民救済及堤防工事監督ノ爲メ要スル旅費雜給應費並水害ニ係ル土木工事監督ノ爲メ要スル旅費ハ明治二十四年度歳出豫算中第一線備金ヲ以テ補充スルコトヲ得

朕明治二十四年度歳出豫算中第一線備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏大臣伯爵松方正義

陸軍砲工學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年十一月十七日

勅令第二百二十四號(官報十一月十八日)

陸軍砲工學校條例中左ノ通改正ス

第一條中「中少尉」ノ「中」ノ字ヲ削ル

第二條削除以下逐次線上

第三條職員ヲ左ノ通改メ八員ハ總テ之ヲ削ル

校長

砲兵若クハ工兵大佐

副官

砲兵若クハ工兵大尉同中尉

教官

參謀佐官若クハ大尉砲兵科佐官若クハ大尉

軍吏

工兵科佐官若クハ大尉砲兵大尉陸軍教授

第五條削除以下逐次線上

第六條中「庶務及器具圖書ノ事ヲ分掌シ」ヲ「校中ノ庶務ヲ掌リ」ニ改メ「若干員」ノ三字ヲ削ル

第八條削除以下逐次線上

第九條中「若干員」ノ三字ヲ削ル

第十二條中「名簿」ヲ「兵籍」ニ改ム

第十三條中「而シテ」以下三十五字ヲ削ル

陸軍大臣子爵高島綱之助

第十四條中「各自以下ヲ」所要ノ書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシニ改ム
 第十五條中「伎倆」ハ總テ「修得」ニ改ム
 第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
 第十三條 學生所要ノ馬匹ハ陸軍士官學校繋蓄ノモノヲ以テ供用セシム

〔參照〕

- 勅令第七十六號陸軍砲工學校條例(明治二十二年六月一日官報抄録)
- 第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵中少尉ニシテ二箇年以上隊務ニ慣熟シタル者ヲ分遣シテ學生トナシ以テ各本科專門ノ勤務ニ必要ナル學術ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ以テ目的トス
 - 第二條 本校ニ概テ所要ノ馬匹ヲ備フ
 - 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長 砲兵若クハ工兵大佐 一人
 - 次長 砲兵若クハ工兵中佐 一人
 - 副官 砲兵若クハ工兵大尉一人 同中尉二人
 - 教官 砲兵若クハ工兵大尉一人 同中尉二人
 - 庶長 砲兵若クハ工兵大尉一人 同中尉二人
 - 軍吏 砲兵若クハ工兵大尉一人 同中尉二人
 - 獸醫 砲兵若クハ工兵大尉一人 同中尉二人
 - 第五條 次長ハ校長ヲ補佐シテ其事務ニ從フ
 - 第六條 副官ハ庶務及器具圖書ノ事務ヲ分掌シ其下ニ砲工兵科下士若クハ陸軍屬若干員ヲ置ク
 - 第八條 庶長ハ該職一切ノ事務ヲ統轄ス其下ニ砲兵科下士若クハ陸軍屬若干員ヲ置ク
 - 第九條 軍吏ノ下ニ書記若干員ヲ置ク
 - 第十二條 學生分道ノ普通アルハ近衛師團師團長ハ入校期十日以前ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘテ砲工學校長ニ送達スヘシ

第十三條 學生ノ願願其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ關スル而シテ其條給ハ原所管ヨリ 毎月初メニ該校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受渡ラナス

第十四條 學生ハ校外ニ居住セシム而シテ各自ノ學用品ハ授業ニ要スル書籍ノ外一切自辦タルヘシ但器具等ノ内閣々貸與スルモノアルヘシ

第十五條 毎學年ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ伎倆證明書ヲ作ラシム但伎倆證明書ニハ當該教官署名捺印スルモノトス

校長ハ伎倆證明書ニ意見ヲ加ヘ署名捺印シテ野戰砲兵ノ學生ハ野戰砲兵監ニ要索砲兵ノ學生ハ要索砲兵監ニ工兵科學生ハ工兵監ニ送達シ監ハ之ヲ監軍ニ呈ス又別ニ一本ヲ製シ都督師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交付スヘシ

朕陸軍士官學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百二十五號(官報十一月十八日)
 陸軍士官學校條例第二十九條左ノ通改正ス
 第二十九條 本校ノ馬匹ハ砲工學校及幼年學校ノ所要ニ兼用ス

〔參照〕

勅令第八十一號陸軍士官學校條例(明治二十二年六月十一日官報抄録)

第二十九條 本校ニ於テ校馬全數ノ使用ヲ要セザルトキハ他ノ學校等ノ使用ニ供スルコトアルヘシ

朕陸軍幼年學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百二十六號(官報十一月十八日)

陸軍幼年學校條例中左ノ通改正ス

第三條中「及材料ヲ備フニテハ士官學校ノ馬匹ヲ兼用ス」ニ改ム

第八條中「馬術ノ教練ニ任シテ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理」ノ二十字ヲ削ル

(參照)

勅令第八十二號陸軍幼年學校條例(明治三十二年六月十一日官報)抄録

第三條 本校ニ所要ノ馬匹及材料ヲ備フ

第八條 馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ニ任シ兼テ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下士若干員ヲ屬シ

朕陸軍戸山學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百二十七號(官報十一月十八日)

陸軍戸山學校條例中左ノ通改正ス

第一條中「内外ノ下戰術ヲ圖ニ於ケル各科」ニ改メ「知悉シ」ノ下「歩兵」ノ三字ヲ削ル

第二條中「學生」ノ二字ハ總テ之ヲ削ル

第三條職員中「次長歩兵中佐若クハ少佐」ノ十一字ヲ削リ「教官」ノ下「歩兵少佐」ヲ「歩兵中少佐」ニ改メ人員ハ總テ之ヲ削ル

第五條削除以下逐次繰上

第七條中「分擔」ヲ「擔任」ニ改ム

第九條中「大隊附」ヲ「副官」ニ改ム

第十條中「二等軍曹若干員」ノ七字ヲ削ル

第十一條中「及卒若干員」ノ五字ハ總テ之ヲ削ル

第十三條中「教官ヲ育成ス」ヲ「ノ學理及銃ノ用法ヲ詳カニシ射撃ノ教育ヲ完全ナラシム」ニ改メ「士官及」ノ下「歩兵要塞砲兵」ノ七字ヲ加ヘ「ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選拔シテ」ヲ「ヲ以テ」ニ改ム又末文ニ「但時宜ニ依リ騎兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ」ノ二十五字ヲ加フ

第十四條中「教官ヲ育成ス」ヲ「ノ原理ヲ詳悉シ其技術ヲ練磨セシム」ニ改メ「少尉及」ノ三字ヲ削リ「ニシテ體格學術共ニ之ニ適當ト認ムル者ヲ選拔シテ」ヲ「ヲ以テ」ニ改ム

第十五條中左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外教導大隊ニハ歩兵曹長同一二等軍曹ヲ配置シ校内ニ居住シ隊務ヲ分掌セシム

第十八條中第十二條乃至第十四條ヲ「第十一條乃至第十三條」ニ改メ「名簿」ヲ「兵籍」ニ改ム

第十九條第二項中「貸與」以下十七字ヲ「貸與又ハ支給スルコトアルヘシ」ニ改ム

同條第三項中「雜具」以下二十字ヲ「器具」ハ之ヲ携帶セシム」ニ改ム

同條第四項削除

第二十一條削除以下逐次繰上

第二十二條中「卒業」ヲ「修得」ニ改ム

第二十三條 第一項中但書ヲ削ル
 第二十四條 第一項中「學生」下「士」ノ教授ヲ補助セシメ之ニ若干ノ増俸ヲ給シ「ノ二十三」字ヲ削ル
 第二十五條 中「大隊」下「ニ」ハ「分遣」ノ三字ヲ加ヘ「六月」若クハ「七月」ヲ「四月」若クハ「五月」ニ改ム
 第二十六條 中「教導大隊」ノ上「ニ」各聯隊ヨリ分遣スル「ノ九」字期アル「ノ下」者若クハ「二」箇年以上服役セシムヘキ見込アル「ノ二十」字ヲ加ヘ「分遣」ノ二字ヲ削リ「ヘシ」ノ二字ヲ加ヘ「而シテ」以下四十七字ヲ削ル
 第二十七條 中「九箇月」ヲ「七箇月」ニ改ム
 第二十八條 中「大隊」ノ下「分遣」ノ二字ヲ加フ
 第二十九條 中「大隊」ノ下「分遣」ノ二字ヲ加ヘ「隨テ諸給與ハ原隊ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨シ且」ノ二十字ヲ削リ「背囊」ヲ「器具」ニ改メ「其旅費以下十七」字ヲ削ル
 第三十條 中「本校」ノ經費ヲ以テ「ノ八」字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第五十四號陸軍戸山學校條例明治二十年十月十九日官報抄録
 第一條 陸軍戸山學校ハ隊附將校下士ヲ分遣シ學生ト爲シ步兵戰術射擊體操位ニ劍術ノ原理ヲ研究セシメ且其演習ニ關スル數則ヲ一定ナラシメ常ニ内外戰術進歩ノ形況ヲ知悉シ步兵ノ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス
 第二條 本校ニ戰術科學射擊科學體操科學及教導大隊ヲ置ク
 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長 步兵大佐 一人
 次長 步兵中佐若クハ少佐 一人
 副官 步兵大尉 一人 步兵中尉 一人
 教官 步兵少佐 三人 步兵大尉 十二人 步兵中尉 十二人 一等軍醫 一人

軍醫 二人
軍吏 三人

第五條 次長ハ校長ヲ輔佐シ專ラ教育ノ事ニ任シ兼テ校中ノ庶務及經理事務ヲ監視ス
 第七條 教官ハ各科ノ教授ヲ分擔シ教導大隊ノコトヲ兼攝ス
 第九條 教導大隊ノ大隊長ハ戰術科學長大隊附中隊長及中隊附士官ハ教官ヲ以テ之ヲ兼シム但學生ヲ以テ其幹部ノ一部ニ充トルコトアルヘシ
 第十條 教官ノ下ニ教官補曹長(准士官)及助教曹長(一等軍曹)二等軍曹若干員ヲ置ク
 第十一條 軍吏ノ下ニ書記及卒若千員軍醫ノ下ニ看護長及卒若干員ヲ置ク
 第十三條 射擊科ハ射擊教官ヲ育成スルヲ目的トシ步兵士官及下士ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選抜シテ其學生ト爲ス
 第十四條 體操科ハ體操及劍術教官ヲ育成スルヲ目的トシ步騎砲工輜重兵科ノ少尉及下士ニシテ體操學術共ニ之ニ適當ト認ムル者ヲ選抜シテ其學生ト爲ス
 第十五條 教導大隊ハ學生訓練ノ用ニ供スルモノトス其下士兵卒ハ步兵各聯隊ヨリ之ヲ分遣セシム
 第十八條 學生分遣ノ旨達アレハ近衛都督鎮西司令官ハ部下ノ聯隊長 團立 中隊長 大隊長ヲシテ士官下士中身強壯品行方正勤務勤勵ノ者ニシテ第十二條乃至第十四條ノ目的ニ適スヘキ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前述ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ戸山學校長ニ送達スヘシ
 第十九條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム
 學生所要ノ兵器書籍器具消耗品ハ貸與スルモノアリ又支給スルモノアリ
 其下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ食料ハ原隊ヨリ之ヲ支給セシム
 學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス
 第二十一條 學生ノ俸給ハ原隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス
 第二十二條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ例外トス

第三十三條第一項
學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ優得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ都督 師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交付スルモノトス但成績優等ノ者ハ別ニ褒賞ヲ與ルコトアルヘシ

第三十四條第一項
學生下士ノ中學術優等ノ者ヲ選抜シテ員外助教ヲ命ジ學生下士ノ教授ヲ補助セシメ之ニ若干ノ増俸ヲ給シ校內ニ居住セシム

第二十五條
教導大隊ノ下士及兵卒ハ六月若クハ七月ニ於テ其一年ヲ階級セシメ十一月ニ於テ之ヲ補充ス

第二十六條
教導大隊ノ下士ハ常備現役尙ホ二箇年以上ノ期アルニ至ルニ至テ勤務勳勵身軀強壯行狀方正學術優等ノ者ヲ選抜分遣セシム而シテ教導大隊ニ於テ應分ノ教育ヲ受ケ原隊ニ復歸ノ後其教育ヲ隊中ニ及ホスヘキ見込アルモノタルヘシ

第二十七條
教導大隊ノ兵卒ハ常備現役尙ホ一年九箇月ノ期アル上等兵及二等卒ニシテ勤務勳勵行狀方正身軀強壯ノ者ヲ選抜分遣セシム

第二十八條
教導大隊ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ於テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス

第二十九條
教導大隊ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名籍ハ原隊ニ之ヲ存シ隨テ給與ハ原隊ノ經費ヲ以テ支辨シ且武器裝備ハ之ヲ携帶セシムヘシ其旅費宿料品ハ本校ニ於テ之ヲ支給ス

第三十條
教導大隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ本校ノ經費ヲ以テ特別ノ徴収ヲ附著ス

陸軍乘馬學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百二十八號(宣稱十一月十八日)

陸軍乘馬學校條例中左ノ通改正ス

第三條職員ヲ左ノ通改メ人員ハ總テ之ヲ削ル

- 校長 騎兵佐官
- 副官 騎兵大中尉
- 教官 騎兵大中尉
一 二等歌聲
- 調馬手長 騎兵中少尉
- 軍吏
- 軍醫
- 獸醫

第五條削除以下逐次繰上

第六條中「下士若干員」ヲ「陸軍屬」ニ改ム

第七條中「分擔」ヲ「擔任」ニ改ム

第八條中「同一等軍曹同一等軍曹若干員」ノ十二字ヲ削ル

第九條 調馬手長ハ校長ニ隸シ馬匹ノ調教其他校厩一切ノ事ヲ統轄ス

第十條 調馬手長ノ下ニ調馬手ヲ置キ陸軍技手ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條中「若干員」ノ三字及看護卒若干員ノ七字ヲ削ル

第十四條中「領事司令官」ヲ「師團長」ニ名簿ヲ「兵籍」ニ改ム

第十五條中「官廳附騎兵科」ヲ「教導團騎兵砲兵輜重兵生徒隊附」ニ改ム

第十七條中「卒業」ヲ「修得」ニ改ム

第十八條中「但書」ヲ削ル

第十九條 削除以下逐次線上
第二十二條 第二十三條 削除
第二十四條 第二十條 トス

〔參照〕

勅令第十三號陸軍乘馬學校條例(明治二十一年三月二十二日官報抄録)
第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 騎兵大佐一人
 - 副官 騎兵大尉一人
 - 教官 騎兵少佐一人 騎兵大尉二人 騎兵中尉四人
 - 庶長 一等獸醫一人 二等獸醫一人
 - 調馬手長 騎兵大尉一人
 - 軍吏 騎兵中少尉二人
 - 軍醫 一人
 - 獸醫 二人
- 第五條 校長ハ選擧權並ニ校附官僚學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト騎隊長ニ同シ
第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士若干員ヲ置ク
第七條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔ス
第八條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ騎兵曹長同一等軍曹若干員ヲ以テ之ニ充ツ
第九條 庶長ハ馬匹ノ調教其他校務一切ノ事ヲ統轄ス
第十條 調馬手長ハ庶長ニ隸シ馬匹ノ調教ニ任シ其下ニ調馬手ヲ置キ騎兵曹長同一等軍曹陸軍團若干員ヲ以テ之ニ充ツ
第十一條 軍吏ノ下ニ書記若千員軍醫ノ下ニ看護長及看護卒若千員ヲ置ク

- 第十四條 學生分道ノ旨達アレハ近衛都督總監司令官ハ部下ノ騎兵大隊長ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ乘馬學校長ニ送達スヘシ
- 第十五條 第一條ニ掲ケル學生ノ外時宜ニ依リ官附騎兵科士官下士及野戰砲兵隊重兵隊ノ士官下士ヲ分道シテ學生トナスコトアルヘシ
- 第十七條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サズ疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニアラス
- 第十八條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印シテ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ都督師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交付スルモノトス又別ニ一本ヲ製シ之ヲ騎兵監ニ呈ス但成績優等ノ者ニハ別ニ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ
- 第十九條 學生ノ中學後等ノ者若干員ヲ選拔シ次ノ學期ノ終リ迄修學セシムルコトアルヘシ
- 第二十二條 學生ノ俸給ハ原所管ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス
- 第二十三條 學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス

朕陸軍砲兵射的學校條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年十一月十七日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百二十九號(官報十一月十八日)

陸軍砲兵射的學校條例中左ノ通改正ス

第一條 中學校ハ「下野戰」ノ二字ヲ加ヘ「大中尉」ノ下及「下士」ノ三字ヲ削リ「學生トナシ」ノ下「野戰砲兵」ノ「五」字ヲ加ヘ「及」ノ下「砲兵」ノ二字ヲ削リ「一定ヲラシメ」ノ下「常ニ野戰」ノ四字ヲ加ヘ「研究」ノ下「砲兵」ノ「三」字ヲ削リ「改良」ノ下「進歩」ノ二字ヲ加フ

第三條 職員中「副官大中尉」中ノ字ヲ削リ人員ハ總テ之ヲ削ル
 第四條 中隊長ハ「下野戰」ノ二字ヲ加フ
 第五條 削除以下逐次繰上
 第六條 中「若干員」ノ三字ヲ削ル
 第七條 中「分擔」以下二十二字ヲ「擔任」野戰砲兵ノ射撃術及用法ヲ調査研究シ且副官若クハ教導中隊長教導中隊附ヲ兼ネシムニ改ム
 第八條 削除以下逐次繰上
 第九條 中「若干員」ノ三字「獸醫」ノ下ニ「踏鐵工若干員」ノ十一字ヲ削ル
 第十條 學期ハ毎年二回トシ第一學期ハ概ネ十一月下旬ニ始リ翌年二月ニ終リ第二學期ハ三月ニ始リ五月ニ終ルモノトス
 第十一條 中「告達ス」ノ下「但時トシテ少佐ヲ以テ學生ニ換ヘ研究セシムルコトヲ得」ノ二十五字ヲ加フ
 第十二條 中「部下」ノ下「野戰」ノ二字ヲ加ヘ「及下士」ノ三字「行狀方正」ノ四字ヲ削リ「名簿ヲ兵籍」ニ改ム
 第十四條 中「卒業ヲ修得」ニ改ム
 第十五條 中「伎倆ヲ修得」ニ改メ「捺印」ノ下ニ「野戰砲兵監」ニ呈シ又別ニ一本ヲ製シ近衛都督師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附「ノ三十七字ヲ加ヘ但書ヲ削ル
 第十六條 中「其下士ハ校内ニ」ノ七字ヲ削ル
 第十八條 第十六條教導中隊ノ下士兵卒ハ野戰砲兵各聯隊ヨリ分遣セシム
 前項ノ外教導中隊ニハ砲兵曹長同一二等軍曹ヲ當置シ校内ニ居住シ隊務ヲ分掌セシム
 第十九條 削除以下逐次繰上

第二十條 各聯隊ヨリ分遣スル教導中隊ノ下士ハ現役尙ホ一箇年以上ノ期アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵行狀方正學術優等ノ者ヲ選拔セシム其在校期ハ十一月下旬ヨリ五月マテトス
 第二十一條 中「一等卒」ヲ「二等卒」ニ改メ「技藝熟達」ノ四字ヲ削リ「近衛」以下三十七字ヲ「選拔分遣セシム」ニ改ム
 第二十一條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ以下逐次繰下
 第十九條 教導中隊兵卒ノ交換ハ毎年六月ニ於テ其全員凡三分二ヲ各聯隊ヨリ分遣シ在校兵卒ハ悉皆歸隊セシメ十一月ニ至テ殘餘三分一ヲ補充セシム
 第二十二條 中「隊」ノ下ニ「分遣」ノ二字「兵卒」ノ上ニ「下士」ノ二字ヲ加フ
 第二十三條 中「隊」ノ下ニ「分遣」ノ二字「兵卒」ノ上ニ「下士」ノ二字ヲ加ヘ隨テ諸給與ハ原隊ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨シ且「ノ二十字ヲ削リ」背囊ヲ「裝具」ト改メ「其旅費」以下十七字ヲ削ル
 第二十四條 中「本校ノ經費ヲ以テ」ノ八字ヲ削ル

〔參照〕

勅令第七十一號陸軍砲兵射撃學校條例(明治三十年十二月二十七日官報抄録)

第一條 陸軍砲兵射撃學校ハ砲兵隊ノ大中尉及下士ヲ分遣シテ學生トナシ射撃術及砲兵用法ヲ訓練シ且其演習ニ關スル數則ヲ一定ナラシメ砲兵ノ射撃術及戰術ヲ研究シ砲兵ノ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

- 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
- | | |
|----|---------------|
| 校長 | 砲兵大中尉一人 |
| 副官 | 砲兵大中尉一人 |
| 教官 | 砲兵少佐一人 砲兵大尉二人 |
| 軍吏 | 砲兵中尉四人 |
| 軍醫 | 一人 |

歌登

一人

- 第四條 校長ハ砲兵監ニ兼シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ實ニ任ス
- 第五條 校長ハ懲罰權並校附官僚學生ノ休暇付與權ヲ有スルコト聯隊長ニ同シ
- 第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲兵上等監護及下士若干員ヲ置ク
- 第七條 教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ教導中隊ノ中隊長及中隊附士官ヲ兼ネシム
- 第八條 教官ノ下ニ助教ヲ置キ砲兵曹長同一等軍曹同二等軍曹及火工下長若干員ヲ以テ之ニ充テ教導中隊ノ中隊附ヲ兼ネシメ校内ニ居住セシム
- 第九條 軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長獸醫ノ下ニ鑄鐵工若干員ヲ置ク
- 第十條 學期ハ毎年概テ十二月ニ始リ翌年三月ニ終ルモノトス
- 第十一條 學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス
- 第十二條 學生分遣ノ旨達アレハ近衛督督練司令官ハ部下ノ砲兵聯隊長ヲシテ大中尉及下士中身體強壯行狀方正勸導勉勵ニシテ學術ニ適當ト認ムル者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其名簿ニ考科表ヲ添ヘ砲兵射的學校長ニ送達スヘシ
- 第十三條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニ在ラス
- 第十四條 學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ優備證明書ヲ作り校長之ニ署名捺印スルモノトス但成績優等ノ者ニハ別ニ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ
- 第十五條 學生士官ハ校外ニ其下士ハ校内ニ居住セシム
- 第十六條 學生ノ俸給ハ原隊ヨリ前月中ニ本校ニ交付シ同校ニ於テ之カ受授ヲ爲スモノトス
- 第十七條 學生ノ旅費ハ士官下士ヲ論セス總テ本校ニ於テ之ヲ支給ス
- 第十八條 學生下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ食料ハ原隊ヨリ之ヲ支給ス
- 第十九條 教導中隊ノ兵卒ハ現役尙ホ一前年以上ノ期アル上等兵及一等卒ニシテ身體強壯行狀方正勸導勉勵技藝進歩ノ者ヲ近衛及師團ノ各砲兵聯隊ヨリ選抜分遣シ毎年七月ニ於テ之ヲ交換セシムルモノトス

隊林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守制服並ニ帶劔ノ制追加改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月十七日

農商務大臣陸奥宗光

勅令第二百三十號(官報十一月十八日)

明治二十四年勅令第四十四號及其圖表中林務官ノ次ニ總テ「大林區署技師」ノ六字ヲ追加ス
 表中林務官帽ノ部縱橫章裝式ノ欄内但書奏任四等以下ノ六字ヲ「大林區署技師」ト改ム
 同上衣ノ部袖章裝式ノ欄内奏任官三等以上ノ七字ヲ「林務官」ト改メ「奏任四等以下六等迄」ノ九字ヲ「大林區署技師」ト改ム
 圖中袖章ノ部「奏任三等以上」ノ六字ヲ「林務官」ト改メ「同四等以下」ノ五字ヲ「大林區署技師」ト改ム

御名 御璽

朕屯田兵移住給與規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十四年十一月十九日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百三十一號(官報十一月二十日)

屯田兵移住給與規則中左ノ通改正ス

第一條但書ヲ削除ス

第二條左ノ如ク改ム

第二條 旅費日當及駄賃ノ給與方ハ左ノ各項ニ依ル

一 一日ノ里程ヲ十里計トシテ計算ス但十里以下ノ端里數ニシテ二里未滿ハ實費三里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス十里以上ノ端里數ニシテ一里以上六里未滿ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス

二 海路及鐵道ニ依ル費用ハ官費トス但陸路ト雖モ北海道内ハ實費ヲ給スルコトアルヘシ

第三條中左ノ一項ヲ追加ス

扶助年限中火災其他天災等ニテ家宅家具農具ヲ亡失若クハ破損シ其用ニ堪ヘサルトキハ更ニ之ヲ支給スルコトヲ得

第四條中左ノ一項ヲ追加ス

七 燈具

第六條へ左ノ但書ヲ加ヘ九十三項改正追加ス

但風土ニ由リ農業ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

九 「三十枚」ヲ「十枚」ニ改ム

十 籠籠ノ下「竊」ヲ「竊」ニ改ム

十三 春井 毎五月一箇

第七條中左ノ但書ヲ追加ス

但其土地ニ適セサルモノアルトキハ他品ヲ換給シ又時宜ニ由リ代金ヲ以テ支給スルコトヲ得

第八條中「三箇年間人員ニ應シ」ヲ「移住地到着ノ翌日ヨリ起算シ滿三箇年間」ニ改メ「支給ス」ノ下ニ

「但毎月一日ノ現貨ニ應シ前渡ヲ爲スコトヲ得」ノ二十字及一項二項「米」ノ上ニ「玄」ノ一字ヲ

加ヘ更ニ左ノ一項ヲ加フ

移住地到着ノ際各自ニ於テ炊爨ヲ爲シ能ハサル場合ニ在テハ著日ヨリ五日以内扶助米及鹽菜

料ノ支給ヲ止メ一日一人金三拾錢ハ半額ヲ目途トシ現賄ヲ給シ又時宜ニ依リ著後三十日以

内ハ玄米七合五勺ヲ白米六合五勺ニ玄米五合ヲ白米四合五勺ニ玄米三合ヲ白米二合五勺ニ換

へ支給スルコトヲ得

第九條中二項三項ヲ左ノ如ク改ム

二 糧食及食料ヲ受クルトキ並軍隊旅行演習旅行其他旅費ヲ給スルトキハ其日ノ扶助米及鹽

菜料ヲ給セズ

三 家族中仕官又ハ疾病其他止ムヲ得サル事故アリ召募ノ際居殘リ他日移住スル者ハ夜具扶

助米鹽菜料トモ支給ス但扶助米及鹽菜料ハ該戶主扶助滿限ノ日ヲ以テ終期トス

第十條中一項ヲ左ノ如ク改ム

一 事業場四棟所要ノ器具ヲ屬ス

第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十三條 家族中仕官又ハ疾病其他止ムヲ得サル事故アリ召募ノ際居殘リ他日移住スル者ハ其

住所ヨリ移住地迄第一條二項及第二條ノ例ニ依リ旅費日當ヲ支給ス

(参照)

勅令第七十六號 屯田兵移住給與規則(明治二十三年五月十二日官報)抄録

第一條 屯田兵移住ノトキハ支度料旅費日當賦貸トシテ左ノ金額ヲ支給ス
但海路竝ニ鐵道ニ據ル費用ハ官費トシ變災ノ爲メ滞留スルトキハ實費ヲ給ス

- 一 支度料
 - 金貳圓
 - 金壹圓
 - 旅費日當
 - 金三拾錢
 - 賦貸
- 二 旅費日當
 - 十五歳以上一人分
 - 十五歳未満一人分
 - 七歳以上一人分七歳未満ハ此半ヲ給ス
- 三 賦貸
 - 金貳圓六拾錢
 - 一月一日馬二匹ノ割
- 第二條 旅費日當賦貸ノ給與方ハ左ノ各項ニ依ル
 - 一 一日ノ里程ハ十里計ヲ以テ算ス
 - 二 十里以下ノ端里數ニシテ三里未満ハ實費三里以上六里未満ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス
 - 三 十里以上ノ端里數ニシテ一里以上六里未満ハ半額六里以上ハ全額ヲ給ス
- 第三條 屯田兵移住シタルトキハ家宅家具農具農具種物扶助米及鹽菜料ヲ支給ス
- 第四條 家具ハ現品ヲ以テ一月ニ付左ノ如ク支給ス
 - 一 鍋 大小 各一箇
 - 二 茶碗 五箇
 - 三 椀 五箇
 - 四 手桶 一荷
 - 五 小桶 一組
 - 六 擔桶 一荷
- 第六條 農具ハ現品ヲ以テ一月ニ付左ノ如ク支給ス
 - 一 鐵 大小 各一挺
 - 二 唐鉞 大小 各一箇
 - 三 鋤 中 各一箇
 - 四 山刀 一挺
 - 五 鐵 一挺
 - 六 鋤 大小 各一挺
 - 七 鋤 大小 各一挺
 - 八 鋤 大小 各一挺
 - 九 鋤 大小 各一挺
 - 十 鋤 大小 各一挺
 - 十一 鋤 大小 各一挺
 - 十二 鋤 大小 各一挺

- 第七條 種物ハ現品ヲ以テ一月ニ付左ノ如ク支給ス
 - 一 麻種子 一斗
 - 二 大麥 一斗
 - 三 小麥 一斗
 - 四 大豆 一斗
 - 五 小豆 一斗
 - 六 馬鈴薯 四斗
 - 七 蠶卵紙 四枚半
- 第八條 扶助米及鹽菜料ハ三箇年間人員ニ應ジ左ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス
 - 一 米七合五勺
 - 二 米五合
- 第十五歳以上及六十歳未満ノ者一人一日分
- 六十歳以上及十五歳未満七歳迄同上

考 備		既	
(一)本表定員ノ外ニ連發銃及海岸砲創製中各工廠ニ佐官一名ヲ置ク此佐官大中佐ナルトキハ乘馬二頭 少佐ナルトキハ乘馬一頭トス(二)判任文官ニハ當分ノ内砲兵上等監護及砲兵科下士ヲ混用スルコトヲ 得(三)東京砲兵工廠附軍醫ハ砲兵工科學舎附軍醫之ヲ兼ヌ		砲火彈砲火 製造所	所長(大尉(技師)四 中尉(技師)一)
		計	五
陸軍砲工學校定員表 第十四號乙		將校同相當官並技師二 技師試補二 將校馬一〇	三 四九

階 級		部 本		部 官 教	
大佐	乘馬	長	一	參謀官	一
中佐	少佐	副官	一	騎兵科	一
大尉	乘馬	軍吏	二	砲兵科	六
中尉	乘馬	副官	一	工兵科	五
少尉	乘馬	副官	一	陸軍教授	一
下士	並	判任文官	一		
計					九

陸軍戸山學校定員表

階 級		部 本		部 官 教		學 生	
大佐	乘馬	長	一	教官	二	中隊	長
中佐	少佐	副官	一	教官	三	副官	一
大尉	乘馬	軍吏	一	教官	九	軍醫	一
中尉	乘馬	副官	一	教官	七	軍醫	一
少尉	乘馬	副官	一	教官	一	軍醫	一
下士	並	判任文官	一	教官	一	軍醫	一
計							六

陸軍乘馬學校定員表

階級	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准尉	兵卒	校馬
本部長	一											
副官			二									
軍醫				一								
獸醫				一								
軍吏					六							
調馬手長					八							
教官												
學生									二			
計									二			
備考	將校同相當官一〇ヶ二 將校馬一二 教官六ノ内二ハ本部附獸醫之ヲ兼ヌ											

陸軍砲兵射的學校定員表

階級	大	中	少	大	中	少	大	中	少	准	兵	卒	校馬
本部長	一												
副官			二										
軍醫				一									
獸醫				一									
軍吏					三								
教官													
學生													
計													
備考	將校同相當官一〇ヶ六 將校馬八 備考 (一)ケハ兼務ヲ示ス (二)准士官下士二三ノ内七位ニ兵卒一二三ハ本隊ヨリ分遣ス												

〔參照〕

勅令第二六六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報)抄録 第十號附

參謀本部定員表

階級	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准尉	兵卒
總長	一										
次長		一									
副官部											
第一局長				長一	長二	長三	長一	長二	長三		
第二局長				長一	長二	長三	長一	長二	長三		
第三局長				長一	長二	長三	長一	長二	長三		
課長											
課員											
計											

陸軍砲兵射的學校定員表
第十四號庚
陸軍砲兵射的學校定員表
第十四號庚
陸軍砲兵射的學校定員表
第十四號庚

學生	計	將校同相當官三五	將校馬二四	六〇
學士	計	將校同相當官三五	將校馬二四	六〇
區分	階級	大佐 乘馬 中佐 少佐 乘馬 大 中 尉 乘馬 中 尉 乘馬 少 尉 乘馬 少 尉 乘馬 准士官 下士官 兵卒		
本部	部長 一 二 次長 一 軍醫 一 軍醫 一 軍醫 一			
教部	教官 三 教官 一三 教官 二			
本部	長 一 副官 一 副官 一 副官 一			
大隊	大隊附 一 軍醫 一 中隊長 一 軍醫 一 軍醫 一			
隊中	中隊長 一 軍醫 一 軍醫 一 軍醫 一			
學生	計	將校馬九	將校馬九	九〇
備	考	(一)クハ業務ヲ示ス(二)教官一三ノ内一ハ本部附軍醫之ヲ兼ヌ(三)准士官下士官並判任教官		

陸軍砲兵射的學校定員表
第十四號庚
陸軍砲兵射的學校定員表
第十四號庚
陸軍砲兵射的學校定員表
第十四號庚

學生	計	將校同相當官一六	將校馬二〇	二二
學士	計	將校同相當官一六	將校馬二〇	二二
區分	階級	大 中 佐 乘馬 少 佐 乘馬 大 中 尉 乘馬 中 尉 乘馬 少 尉 乘馬 少 尉 乘馬 准士官 下士官 兵卒		
本部	部長 一 二 次長 一 軍醫 一 軍醫 一 軍醫 一			
教部	教官 二 教官 二 教官 二 教官 四			
本部	副官 一 副官 一 副官 一 副官 一			
大隊	大隊附 一 軍醫 一 中隊長 一 軍醫 一 軍醫 一			
隊中	中隊長 一 軍醫 一 軍醫 一 軍醫 一			
學生	計	將校馬二〇	將校馬二〇	九八
備	考	(一)クハ業務ヲ示ス(二)教官一三ノ内一ハ本部附軍醫之ヲ兼ヌ(三)准士官下士官並判任教官		

計	將校同相當官一ニヤ七	將校馬一〇	長	一	二	三	四
			軍醫	一	一	一	一
學生			獸醫	一	一	一	一
計				二〇	二〇	二〇	二〇

備考 (一)ケハ兼務ヲ示ス(二)兵卒ハ本隊ヨリ分遣ス

朕屯田兵給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月二十日

陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百三十三號(官報十一月二十二日)

屯田兵給與令中左ノ通改正ス

第十五條中「陸軍給與令」ノ下ニ「第十一條但書」ノ九字ヲ加フ

第十六條へ左ノ一項ヲ加フ

前項宅料ハ每月下旬ニ於テ之ヲ給ス

第二十二條中第一第二ヲ左ノ如ク改メ第三ヲ削ル

一 曹長ニシテ在職中准士官タル者及外宿加俸ヲ受クル下士兵卒ノ被服ハ現品及代金ヲ給ス共員數及金額ハ第五表第七表ニ依ル

二 各隊下士兵卒ノ被服ハ現品ヲ給シ見習士官ノ被服ハ被服料ヲ給ス其員數及金額ハ第六表第七表ニ依ル其下士兵卒ハ定員ニ應シ地質ト金額トヲ以テ交付シ見習士官ハ現員ニ應シ定額ヲ交付ス而シテ其經理ヲ該隊ニ委任ス但地質ノ定尺及金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十三條中「現員」ヲ「定員」ニ「第六表」ヲ「第七表」ニ改ム

第二十四條中「大隊本部中隊」分屯隊ノ過番ニ要スル寢具及病室ヲ「各隊宿番及病室所要」ニ改メ「第七表」ノ三字ヲ削ル

第二十六條中「士官及」ノ三字ヲ削ル

第二十七條へ左ノ一項ヲ加フ

前項飼養料ハ每月下旬ニ於テ之ヲ給ス

第二十八條中「定馬數」ヲ「現馬數」ニ改ム

第五表乃至第八表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表)

區分	品名	稱	給與供用		與	區別	
			員數	期限			
大	第一種帽	歩兵下副官	一箇	三年			
	前立		初度一箇ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス				
	第二種帽		五箇	七年			初度二箇ヲ給シ爾後滿二年毎ニ一箇ヲ給ス
	正衣袴		一組	五年			初度一組ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス
	軍衣袴		五組	七年			初度二組ヲ給シ爾後滿二年毎ニ一組ヲ給ス
被	同	同	同	同	同	同	

第六表		品名	給與員數	供用期限	給與區別
大	第二種帽	歩騎砲工兵下士	三箇	七年	初度二箇ヲ給シ現役滿期ノトキ尙一箇ヲ給ス
		歩騎砲工兵下士	二箇	七年	初度二箇ヲ給ス
大	第一種衣袴	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	四箇	七年	初度一箇ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	二箇	七年	初度一箇ヲ給ス
大	夏衣袴	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	五組	七年	自七月至九月間ハ日勤ノ職務ニ就キタルトキニ給ス其期外ハ七月ニ於テ之ヲ給シ爾後滿二年毎ニ一組ヲ給ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	一箇	七年	初度一箇ヲ給ス
大	外 傘	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	一箇	三年	日勤ノ職務ニ就キタルトキ一箇ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	一箇	七年	初度一箇ヲ給ス
大	第二種衣袴	歩騎砲工兵兵卒	二組	七年	初度二組ヲ給ス
		歩騎砲工兵兵卒	二箇	七年	初度二箇ヲ給ス
大	織 布	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	七箇	七年	日勤ノ職務ニ就キタルトキ一箇ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一箇ヲ給ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	三組	七年	初度一組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
大	冬種袴下	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	七組	七年	自甲午十月至乙未六月間ハ日勤ノ職務ニ就キタルトキ一組ヲ給ス其期外ハ十月ニ於テ之ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	三組	七年	初度一組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
大	夏種袴下	歩騎砲工兵下士兵卒	三組	七年	夏季ニ至リ初度一組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス但テ預備役トナリタルモノニハ之ヲ給セス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	七組	七年	自七月至九月間ハ日勤ノ職務ニ就キタルトキ一組ヲ給ス其期外ハ七月ニ於テ之ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
大	水筒	歩騎砲工兵下士兵卒	二箇	七年	初度二箇ヲ給ス
		歩騎砲工兵下士兵卒	二箇	七年	初度二箇ヲ給ス

一 外宿加俸ヲ受クル隊附騎兵下士ニハ乘馬用トシテ木綿製手袋製脚絆及拍車各一組ヲ貸與ス

第六表		品名	給與員數	供用期限	給與區別
小	第一種衣袴	歩騎砲工兵兵卒	一組	七年	初度一組ヲ給ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	四組	七年	日勤ノ職務ニ就キタルトキ一組ヲ給ス其期外ハ七月ニ於テ之ヲ給シ爾後滿二年毎ニ一組ヲ給ス
小	夏衣袴	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	二組	七年	夏季ニ至リ初度二組ヲ給ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	五組	七年	自七月至九月間ハ日勤ノ職務ニ就キタルトキニ給ス其期外ハ七月ニ於テ之ヲ給シ爾後滿二年毎ニ一組ヲ給ス
小	外 傘	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	一箇	三年	日勤ノ職務ニ就キタルトキ一箇ヲ給シ爾後供用期限ニ照シ交換ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	一箇	七年	初度一箇ヲ給ス
小	第二種衣袴	歩騎砲工兵兵卒	二組	七年	初度二組ヲ給ス
		歩騎砲工兵兵卒	二箇	七年	初度二箇ヲ給ス
小	織 布	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	七箇	七年	日勤ノ職務ニ就キタルトキ一箇ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一箇ヲ給ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	三組	七年	初度一組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
小	冬種袴下	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	七組	七年	自甲午十月至乙未六月間ハ日勤ノ職務ニ就キタルトキ一組ヲ給ス其期外ハ十月ニ於テ之ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	三組	七年	初度一組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
小	夏種袴下	歩騎砲工兵下士兵卒	三組	七年	夏季ニ至リ初度一組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス但テ預備役トナリタルモノニハ之ヲ給セス
		歩騎砲工兵日勤下士上等兵	七組	七年	自七月至九月間ハ日勤ノ職務ニ就キタルトキ一組ヲ給ス其期外ハ七月ニ於テ之ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス
小	水筒	歩騎砲工兵下士兵卒	二箇	七年	初度二箇ヲ給ス
		歩騎砲工兵下士兵卒	二箇	七年	初度二箇ヲ給ス

被	短靴	麻製脚絆	革製脚絆	靴	拍車		作樂衣袴	屯田兵手服	背襖	被	襪	手袋	具
					騎兵下士兵卒	騎兵下士兵卒							
歩騎砲工兵日勤下士上等兵	歩騎砲工兵下士兵卒	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	騎兵下士兵卒	歩騎砲工兵日勤下士上等兵	騎兵下士兵卒	騎兵下士兵卒	騎砲工兵兵卒	歩砲工兵下士兵卒	歩砲工兵下士兵卒	歩砲工兵下士兵卒	歩砲工兵下士兵卒	歩砲工兵下士兵卒	歩砲工兵下士兵卒
七組	六組	十四組	二組	七組	二組	四組	十三組	九組	七十組	一組	一組	一組	一組
七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年	七年
日勤ノ職務ニ就キタルトキ一組ヲ給シ 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度ニ組ヲ給ス 爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス

第七表

具	名	稱	甲額	乙額	名	稱	月額
靴	歩砲工兵下士兵卒	一箇	七圓	初度一箇ヲ給ス			
靴	歩砲工兵下士兵卒	一箇	七圓	初度一箇ヲ給ス			
靴	歩砲工兵下士兵卒	一箇	七圓	初度一箇ヲ給ス			
靴	歩砲工兵下士兵卒	一箇	七圓	初度一箇ヲ給ス			

第八表

名	稱	甲額	乙額	名	稱	月額
歩砲工兵下士兵卒	小被服六圓壹錢	五圓四拾三錢	歩兵科見習士官被服料壹圓六拾六錢			
歩砲工兵下士兵卒	大被服六圓六拾四	八圓八拾錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	小被服五圓六錢	三圓三錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	大被服五圓貳拾壹	八圓拾三錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	小被服五圓六錢	三圓三錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	大被服五圓貳拾壹	八圓拾三錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	小被服五圓六錢	三圓三錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	大被服五圓貳拾壹	八圓拾三錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	小被服五圓六錢	三圓三錢	被服修理料三			
歩砲工兵下士兵卒	大被服五圓貳拾壹	八圓拾三錢	被服修理料三			

一大小被服ハ初度甲額ヲ給シ爾後大被服ハ一箇年毎ニ小被服ハ四箇月毎ニ各乙額ヲ給シテ新調保藏セシム
一小被服及被服料ノ定額中ニハ被服修理料被服手入具新調費及其水糲料ヲ包含ス

品目	供用期限	歩兵中隊		歩兵分屯隊		騎砲工兵隊		病室用
		額	目	額	目	額	目	
本部厚毛布	十六年	四拾四錢	三	拾五錢	一	四拾四錢	三	五
包入蒲團	八年							五
入蒲團	六年							五
敷布	四年							五
敷布	二年							五
紗	十五年							五
紗	六年							五
單病衣	二年							五
紗病衣	四年							五
綿病衣	四年							五
襪衣	二年							五
帶	二年							五
防寒用本部厚毛布	十六年	四拾四錢	三	拾五錢	一	四拾四錢	三	五

(參照) 勅令第二百一號屯田兵給與令(明治二十三年九月六日官報)抄録
第十五條 陸軍給與令第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條ハ本令ニ之テ適用ス

第十六條 兵科ハ在職士官以上及ヒ外宿加俸ヲ受クル現役下士兵卒ニ給ス其月額ハ陸軍給與令第八表ニ依ル
第二十二條 被服ハ士官以上自辦トシ見習士官以下下士以下ハ官給トス其給與ノ區別ハ左ノ各項ニ依ル
一 曹長ニシテ在職中准士官タル者ノ被服ハ現品及代金ヲ給ス其員數ト金額ハ陸軍給與令第十二表第十五表申歩兵下副官ニ同シ
二 各隊下士兵卒及見習士官ノ被服ハ現品ヲ給ス其員數下士兵卒ハ第五表ニ依リ定員ニ應シ地質ト金額トヲ以テ交付シ見習士官ハ陸軍給與令第十二表申歩兵科士官候補生ニ準シ現員ニ應シ金額ヲ以テ交付シ該隊ニ經理ヲ委任ス其地質ノ定尺及金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム
三 外宿加俸ヲ受クル下士兵卒ノ被服ハ現品及代金ヲ給ス其員數ト金額トハ陸軍給與令第十二表第十五表ニ依ル
第二十三條 各隊ニ於テハ被服修理料及被服手入具水糲料トシテ其定額ヲ下士兵卒ノ現員下士兵卒ヲ除クニ應シ之ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其金額ハ第六表ニ依ル
第二十四條 大隊本部中隊分屯隊ノ週番ニ要スル膠具及病室ノ被服ハ初度現品ヲ備付ケ爾後毎月水糲料ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其員數及金額ハ第七表第八表ニ依ル
第二十六條 騎兵及砲兵ノ馬匹ハ移住ノ初度之ヲ給ス但士官及外宿加俸ヲ受クル下士ニハ貸與ス
前項給與ノ馬匹廢棄シタルトキハ下士兵卒現役中ニ限リ之ヲ換給ス
第二十七條 騎兵砲兵隊ノ下士兵卒ニハ現役中飼養料ヲ給ス其金額ハ第九表ノ乙額ニ依ル但外宿加俸ヲ受クル下士ニハ甲額ヲ給ス
第二十八條 騎兵及砲兵隊現役下士兵卒ノ馬匹ニハ裝蹄料トシテ定馬數ニ應シ定額ヲ交付シ該隊ニ其經理ヲ委任ス其金額ハ第九表ニ依ル
騎兵及砲兵隊ニハ裝蹄器備ヲ初度現品ニテ備付ケ爾後裝蹄料ノ内ヲ以テ之ヲ保續セシム

第五表

區分	品目	名稱	服役中給與員數
大	前立	第一種帽	下士兵卒
			一

第一種	小 被 服														
	軍	演	山	靴	脚	短	手	夏	冬	器	演	外	夏	第一	第二
第一種	演習	足袋	下	下	靴	靴	套	襪	襪	布	襪	襪	襪	種	種
手服	服	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴	袴
下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒
一	一	二	二	二	二	二	二	三	三	二	一	一	一	一	二

履具	具														
	水筒	飯盒	背負袋	具 入 手 服 被											
				煉	絲	錐	櫛	塗	圓	磨	靴	被			
器	針	卷	鏡	墨	器	鏡	口	袋	板	刷	刷				
下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒	下士兵卒
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

一 屯田兵出身日勤下士ハ陸軍給與令第十二表中歩兵科下士ノ給與ニ準ス但洗濯刷毛盛刷毛ハ之ヲ除キ山足袋背負袋ハ水袋ノ長數ヲ給ス
 二 靴下ノ給與ハ時宜ニ依リ草鞋草鞋掛ニ換給スルコトアルヘシ

名	稱	被服修理料月額	被服手入具永綴料月額
下士兵卒	三	錢	錢

第七表

品目	保存期限	大隊本部		中隊		隊分屯隊	
		額	錢	額	錢	額	錢
品目	保存期限	額	錢	額	錢	額	錢
襪	四	二	二	二	二	二	二
本部厚毛布二枚	十六	二	二	二	二	二	二
包布	八	二	二	二	二	二	二
敷布二枚	二	二	二	二	二	二	二
枕	三	二	二	二	二	二	二
蚊帳	十五	二	二	二	二	二	二
補助用本部厚毛布	十	二	二	二	二	二	二
永綴料	月額	三	拾	三	拾	三	拾
總額	月額	三	拾	三	拾	三	拾

一蚊帳ハ實際所要ノ場所ニ限リ備付ルモノトス

第八表

品目	保存期限	員數
品目	保存期限	員數
襪	四	五

品目	保存期限	大隊本部		中隊		隊分屯隊	
		額	錢	額	錢	額	錢
品目	保存期限	額	錢	額	錢	額	錢
本部厚毛布二枚	十六	二	二	二	二	二	二
包布	八	二	二	二	二	二	二
蒲團	四	二	二	二	二	二	二
敷布二枚	二	二	二	二	二	二	二
枕	三	二	二	二	二	二	二
蚊帳	十五	二	二	二	二	二	二
單病衣	二	五	五	五	五	五	五
給病衣	四	五	五	五	五	五	五
給入病衣	四	五	五	五	五	五	五
襪	二	五	五	五	五	五	五
永綴料	月額	六	拾	六	拾	六	拾
總額	月額	六	拾	六	拾	六	拾

本表ノ員數ハ最上限トス

朕海軍將官會議條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月二十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第二百三十四號(官報十一月二十四日)

明治二十二年五月勅令第七十五號海軍將官會議條例第一條ヲ改正スルコト左ノ如シ
第一條 海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於ケル重要ノ事項ヲ審議スル所トス

〔參照〕

勅令第七十五號海軍將官會議條例(明治二十二年五月二十九日官報抄録)
第一條 海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於テ創設改良スヘキ重要ノ事項ヲ審議シ及海軍高等武官ノ進級候補名簿及進等名簿ヲ議定スル所トス

朕海軍服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月二十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第二百三十五號(官報十一月二十四日)

海軍服制將校以下服制表中大禮服肩章ノ欄大佐大尉少尉及各相當官ノ部ヲ左ノ通改正ス

大佐ノ部

大尉ノ部

少尉ノ部

寸法少將ニ同シ總サ座ニ銀ノ
鍔ヲ附シ肩當ニ赤色五三ノ桐
一箇ト銀ノ小櫻花ニ箇ヲ附ス
總サハ圓形ヲ用フ

少佐ニ同シ但肩當ニ五三ノ桐
ヲ附セス銀ノ小櫻花一箇ヲ附
ス

大尉ニ同シ但銀ノ小櫻花及總
サヲ除ク

機關大監
大技監ノ部
軍醫大監
主計大監
總サ座ニ金ノ小櫻花一箇ヲ附
シ肩當ニ赤色五三ノ桐一箇ト
金ノ小櫻花ニ箇ヲ附ス餘ハ同
上

大機關士
大技醫士ノ部
大藥劑官
主計官
肩當及總サ座ニ金ノ小櫻花一
箇ヲ附ス餘ハ同上

少機關士
少技醫士ノ部
少藥劑官
主計官
同上但肩當ニ金ノ小櫻花及總
サヲ除ク

朕明治二十三年十月勅令第二百六十二號中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十一月二十四日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百二十六號(官報十一月二十五日)

明治二十三年十月勅令第二百六十二號中肥前國福江ノ下ニ「豐前國門司」ノ五字ヲ加ヘ「兩」ノ字ヲ三
ノ字ニ改ム

〔參照〕

勅令第二百六十二號(明治二十三年十月二十三日官報)
大藏大臣ハ郵便物、内地廻漕品及旅客運送ノ爲メ外國通航ノ郵船ヲ長門國下ノ關肥前國福江ノ兩港ニ廻船スルノ特許ヲ與ル
コトヲ得

朕郡區長府縣參事官典獄警視特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十四年十一月二十六日

内閣總理大臣伯爵松方正義
内務大臣子爵品川彌二郎

勅令第二百二十七號(官報十一月二十七日)

第一條 明治三十三年二月勅令第九號第一條ニ依リ郡區長ニ任用スル判任官ハ現ニ五級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限ル

第二條 明治三十三年十月勅令第二百二十七號第一條ニ依リ府縣參事官並典獄ニ任用スル判任官ハ現ニ四級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限ル

第三條 明治三十四年四月勅令第二百二十七號第一條ニ依リ警察署長ニ補スヘキ警視ニ任用スル判任官ハ現ニ四級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限ル

〔參照〕

勅令第九號(明治二十三年二月五日官報)抄録

第一條 郡區長ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官五等以上ノ現職ニ在ルモノニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス郡區長試験委員長ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

勅令第二百二十七號府縣參事官典獄特別任用令(明治三十三年十月十一日官報)抄録

第一條 府縣參事官並典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官三等以上ノ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス高等試驗委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

勅令第二百二十七號(明治三十四年四月二日官報)抄録

第一條 警察署長ニ補スヘキ警視ハ五箇年以上警部ニ奉職シ判任官三等以上ノ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ内試験ヲ要セス高等試驗委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

朕造幣規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十四年十二月一日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百三十八號(官報十二月二日)

造幣規則中左ノ通改正ス

第十二條 精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應ジ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但其地金千分中金銀七百五十分以上ヲ含有セサルトキハ需ニ應セス

精製スヘキ地金
精製料

一千分中金銀九百五十分以上	純金拾オンス「トロイ」ニ付	金六拾參錢
同	純銀拾オンス「トロイ」ニ付	金拾七錢
同	同	金六拾九錢
同	同	金拾九錢
同	同	金七拾六錢
同	同	金貳拾貳錢
同	同	金八拾四錢
同	同	金貳拾六錢
同	同	金九拾參錢
同	同	金參拾壹錢

附 則

本令ハ明治二十四年十二月七日ヨリ施行ス

〔參照〕

太政官第十五號布達遺傳規則(明治十六年五月二十六日)抄録

第十二條 精製分析ヲ要スル地金ヲ輸入シタルトキハ其地金ノ種類ニ應シ左ノ精製分析料ヲ收入スヘシ但其地金千分中銀七百五十分以上ヲ含有セサルトキハ幣ニ應セス

不純雜金地金	純金拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓
千分中銀九百分以上	同	金壹圓拾貳錢七厘
同 金八百五十分以上	同	金壹圓貳拾五錢四厘
同 金八百分以上	同	金壹圓三拾八錢壹厘
同 金七百五十分以上	同	
不純雜銀地金	純銀拾ヲンス、トロイニ付	金貳拾六錢三厘
千分中銀九百分以上	同	金貳拾九錢
同 銀八百五十分以上	同	金三拾壹錢七厘
同 銀八百分以上	同	金三拾四錢四厘
同 銀七百五十分以上	同	
金銀混合地金	純金拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓
千分中銀九百分以上	純銀拾ヲンス、トロイニ付	金貳拾六錢三厘
同 金銀八百五十分以上	純金拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓拾貳錢七厘
同 金銀八百分以上	純銀拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓貳拾五錢四厘
同 金銀七百五十分以上	純金拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓三拾八錢壹厘
	純銀拾ヲンス、トロイニ付	金貳拾六錢三厘
	純金拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓拾貳錢七厘
	純銀拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓貳拾五錢四厘
	純金拾ヲンス、トロイニ付	金壹圓三拾八錢壹厘
	純銀拾ヲンス、トロイニ付	金貳拾六錢三厘

朕貴族院並衆議院守衛懲罰ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年十二月三日

内閣總理大臣 伯耆松方正義

勅令第二百二十九號(官報十二月四日)

貴族院並衆議院守衛ノ懲罰ハ巡查懲罰例ニ依ル

朕稅關監吏及監吏補服制表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十四年十二月九日

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第二百四十號(官報十二月十日)

稅關監吏及監吏補服制表中監吏及監吏補官等俸給ノ欄ヲ左ノ通改正ス

自	至	自	至	自	至	自	至
一	二	一	二	一	二	一	二
級	俸	級	俸	級	俸	級	俸
俸	至	俸	至	俸	至	俸	至
十	三	十	三	十	三	十	三
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五	十五
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

〔參照〕

勅令第二百十四號(明治二十三年九月三十日官報)抄録

稅關監吏及監吏補服制表中

監	吏	監	吏	補
自判任	二等	自判任	三等	上判
至判任	至判任	至判任	至判任	下判
				六等
				級

朕近衛司令部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十二月十二日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百四十一號 (官報十二月十四日)

近衛司令部條例中左ノ通改正ス

- 一 近衛ノ下ニ師團ヲ加ヘ「都督」ヲ「近衛師團長」ニ改ム
- 一 第一條中「諸隊」ヲ削リ第二條中「權限ハ」ノ下ニ「他」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第四十六號近衛司令部條例(明治二十三年三月二十六日官報抄録)
 第一條 都督ハ大中将ヲ以テ之ニ補シ直ニ
 天皇陛下ニ奏シ近衛諸隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス
 第二條 都督ハ主トシテ陛下ノ殿衛ニ任ス其他地方ニ係ル事件及裁判事件ヲ除クノ外其職務權限ハ師團長ト異ナルコトヲ
 ク總テ師團司令部條例ノ規定ニ依ル

朕陸軍定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十二月十二日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

勅令第二百四十二號 (官報十二月十四日)

陸軍定員令中左ノ通改正ス

- 一 附表第十一號甲近衛司令部編制表ヲ廢ス
- 一 附表第十一號乙師團司令部編制表備考ヲ左ノ如ク改ム
 (一) 近衛師團長ハ大將ヲ以テ補スルコトヲ得
 (二) 近衛師團ニハ法官部ヲ置カス
 (三) 第一師團ニ於テハ理事二名録事四名第四師團ニ於テハ理事一名ヲ增加ス又各師團共ニ理事試補録事見習一名ヲ置クコトヲ得
 (四) 軍醫部部員ノ内一名ハ藥劑官トス
 (五) 本表定員ノ外當分ノ内電信技手四名ヲ置ク

〔參照〕

勅令第二百六十七號陸軍定員令(明治二十三年十一月四日官報抄録)
 第十一號甲

階級	區分		本
	都督	參謀部	
大將	一	四	副官部
中將	一	長	副官部
乘馬	一	參謀	副官部
大佐	一	參謀	副官部
中佐	一	副官	副官部
少佐	一	副官	副官部
大尉	一	副官	副官部
中尉	一	副官	副官部
少尉	一	副官	副官部
下士	一	副官	副官部

附則

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス但既設ノ尋常中學校ニシテ本令ノ規程ニ依リ難キ場合ニ於テハ明治二十六年三月三十一日迄其施行ヲ延期スルコトヲ得
第九條中ニ掲クル郡ハ郡制ヲ施行シタルモノニ限ル

〔參照〕

勅令第十五號中學校令(明治十九年四月十日官報)抄錄

第六條 尋常中學校ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ設置スルコトヲ得但其地方税ノ支辨又ハ補助ニ係ルモノハ各府縣一箇所ニ限ルヘシ

第九條 尋常中學校ハ區町村費ヲ以テ設置スルコトヲ得ス

朕公立中學校專門學校技藝學校職員名稱待遇及任免ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十二月十二日

内閣總理大臣伯爵松方正義
文部 大臣伯爵大木喬任

勅令第二百四十四號(官報十二月十四日)

公立中學校專門學校技藝學校職員名稱待遇及任免

第一條 公立中學校專門學校技藝學校職員ノ名稱左ノ如シ

學校長

助教諭

舍 監 寄宿舎ノ設アル學校ニ限ル

書記

第二條 學校長助教諭舍監書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但學校ノ等位種類等ニ依リ學校長及教諭一名ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ文部大臣之ヲ奏薦宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ府縣知事之ヲ專行ス

朕登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十二月十六日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百四十五號(官報十二月十七日)

政府ニ納ムヘキ手数料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得但其種目ハ主務大臣之ヲ定ム

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

朕第三師管下本年徵集新兵補缺ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十二月二十五日

海軍大臣子爵樺山資紀
陸軍大臣子爵高島綱之助

勅令第二百四十六號(官報十二月二十六日)

第三師管下本年徵集新兵ノ缺員ハ來明治二十五年一月十五日迄ニ之ヲ補ヒ入營セシムルコトヲ得

朕茲ニ愛知岐阜富山福岡四縣土木費補助トシテ明治二十四年度豫算外支出ノ件ヲ裁可ス

御名 御鹽

明治二十四年十二月二十六日

內閣總理大臣兼大藏大臣	伯耆松方正義
文部大臣	伯耆大木喬任
外務大臣	臣子爵榎本武揚
逓信大臣	臣伯爵後藤象二郎
海軍大臣	臣子爵樺山資紀
農商務大臣	臣陸奥宗光
陸軍大臣	臣子爵高島綱之助
司法大臣	臣子爵田中不二麿
內務大臣	臣子爵品川彌二郎

勅令第二百四十七號
愛知岐阜富山福岡四縣ノ土木費補助ニ充ツル爲左ノ金額ヲ支出ス
一金百拾六萬四千六百八拾貳圓九拾六錢六厘
一金貳百八萬五千五百五拾四圓九拾七錢
一金六拾七萬六千三百五拾四圓九拾九錢
一金三拾五萬二千九百貳拾八圓拾壹錢四厘
愛知縣震災費補助
岐阜縣震災費補助
富山縣水害費補助
福岡縣水害費補助

朕府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御鹽

明治二十四年十二月二十八日

文部大臣伯耆大木喬任
內務大臣子爵品川彌二郎

勅令第二百四十八號(官報十二月三十日)

第一條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

第二條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣ノ負擔ハ府縣制又ハ地方稅ノ制ヲ施行セサル地方ニ於テハ地方經濟ニ屬スル費用ノ負擔トシ市町村ノ負擔ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區町村公費ノ負擔トス

第三條 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十六條第二項ノ納金ハ國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ノ學校長正教員ノ俸給ニ對シテハ之ヲ納ムルコトヲ要セス

第四條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ規定スル府縣ノ負擔ハ府縣内ニ在ル島嶼ト本地ト經濟ヲ異ニスルトキハ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣文部大臣ノ認可ヲ得テ其島嶼ノ分擔額ヲ定ムヘシ
前項ノ規定ニ依リ難キ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣文部大臣ノ認可ヲ得テ該島嶼ノ爲ニ別ニ小學校教員恩給基金ヲ備ヘ總テ其負擔ヲ本地ト分別スルトコトヲ得

〔參照〕

法律第九十一號府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法(明治二十三年十月三日官報)抄録
第十六條第二項

府縣市町村ハ其府縣立師範學校及公立中學校長正教員ノ俸給百分ノ一二當ル金員ヲ毎年國庫ニ納ムヘシ

朕茲ニ文武判任官等級表ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十四年十二月二十八日

勅令第二百四十九號(官報十二月三十日)

內閣總理大臣 伯爵松方正義

警視廳巡查本部警部	同	七十五圓
警視廳同分署	同	六十五圓
警視廳同分署	同	五十四圓
各渠治監及股留監	一級俸	
北海道集治監	二級俸	
警視廳警察監	同	
警視廳警察監	同	
警視廳監獄	同	
看守長	五十圓	
看守長	二級俸	
看守長	二級俸	
收稅屬	同	
收稅屬	同	
郡區書記	同	
郡區書記	同	
札幌農學校助教授	同	
貴族院	同	
貴族院守衛長	同	
貴族院守衛長	同	
貴族院守衛長	同	
貴族院守衛長	同	
各技手	同	

明治二十四年十二月 勅令 第三

法令全書

閣令

○閣令第一號

明治十六年三月太政官第十七號達金銀木杯金圓賜與手續中左ノ通追加ス

第三條及第四條中勅奏任官ノ下ニ奏任官以上ノ待遇ヲ受クル者ノ十二字及華族ノ戶主ノ下ニ其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻ノ十四字ヲ加フ

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條 外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀褒詞ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ内國人ノ例ニ準スト

雖モ公使館員及常室ノ貴賓ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申牒シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ

明治二十四年二月二十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

○閣令第二號
行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ノ權利ニ關スル恩給局裁決手續左ノ通定ム

明治二十四年六月十三日

内閣總理大臣伯爵松方正義

第一條 行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者恩給局ノ裁決ヲ請ハントスルトキハ其事由ヲ文書ニ認メ身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ之ニ證據書類ヲ添ヘ内閣恩給局長ニ差出スヘシ

前項ノ書類ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第二條 恩給局ニ於テ前條ノ申立理由アリト認ムルトキハ其書類ヲ當該官廳ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ヲ添ヘテ之ヲ恩給局ニ差出サシムヘシ

第三條 恩給局ニ於テ必要ト認ムルトキハ請求者又ハ當該官廳ノ官吏ヲ召喚シ口頭陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 恩給局ニ於テ裁決シタルトキハ裁決書二通ヲ作り請求者及當該官廳ニ交付スヘシ

○閣令第三號

明治二十一年勅令第七十八號鐵道所屬電信電話線公衆ノ通信取扱規則第三條ニ依リ同年閣令第二十號ヲ以テ定メタル遞信省ヨリ鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ交付スヘキ手数料金額ノ割合左ノ通改正ス

明治二十四年六月二十四日

内閣總理大臣伯爵松方正義

一 鐵道所屬ノ電信電話線ノミヲ用テ傳送シタルモノハ其電報料ノ全額又遞信省ノ電信電話線ヲ混用シテ傳送シタルモノハ其電報料ノ三分一ニ相當スル手数料ヲ交付スヘシ
但鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者二名以上ノ電信電話線ヲ混用シタルトキハ鐵道電信取扱所ノ發信ニ係ルモノハ發信取扱所ヲ所轄スル官廳又ハ其所有者ニ郵便電信局又ハ電信局ノ發

二 信ニ係ルモノハ著信取扱所ヲ所轉スル官廳又ハ其所有者ニ之ヲ交付スルモノトス
鐵道電信取扱所ニ於テ別使配達又ハ解船配達ヲ爲シ若ハ電報受取證又ハ電報正寫ヲ交付シタルトキハ其配達料又ハ手数料ノ全額ニ相當スル手数料ヲ交付スヘシ

〔參照〕

閣令第二十號(明治二十一年十一月十七日)

明治二十一年勅令第七十八號鐵道所屬電信電話線公衆ノ通信取扱規則第三條ニ依リ逡信者ヨリ鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ交付スヘキ手数料金額ノ割合ヲ定ムル左ノ如シ

- 一 鐵道所屬ノ電信電話線ノミヲ用テ傳送シタルモノハ之方爲メ公衆ヨリ收納シタル電報料及手数料ノ全額ニ相當スル手数料ヲ交付スヘシ
- 二 逡信者ノ電信電話線ト鐵道所屬ノ電信電話線トヲ混用シテ傳送シタルモノハ之方爲メ公衆ヨリ收納シタル電報料及手数料ノ三分一ニ相當スル手数料ヲ交付スヘシ
- 三 鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ名以上ノ電信電話線ヲ混用シテ傳送シタルモノハ前各項ニ據リ其官廳又ハ所有者ニ交付スヘキ手数料金額ヲ平等ニ分割スヘシ

○閣令第四號

大勳位朝彦親王殿下薨去ニヨリ宮中喪被 仰出タルニ付令二十九日ヨリ三日間歌舞音曲ヲ停止シ
葬儀執行當日ハ京都府下ニ限リ尙ホ之ヲ停ム

明治二十四年十月二十九日

内閣總理大臣伯爵松方正義

法令全書

省令

○海軍省令第一號

明治二十二年六月省令第五號海軍志願兵徵募細則中左ノ通改正ス

海軍大臣子爵樺山資紀

明治二十四年一月九日

第三條中「四月一日」ヲ「三月十日」ト改ム

第五條中「五月一日」ヲ「四月一日」ト改ム

第十二條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

四 信號兵志願者ニ在テハ齒列齊正ニシテ五尺二寸

第十五條第十八條中「軍樂生」ノ上ニ「信號兵」ノ三字ヲ加フ

○大藏省令第一號

明治二十三年十二月勅令第二百九十六號ヲ以テ同年十月勅令第二百十九號船籍規則施行期限發布

相成候ニ付二十三年十一月當省令第三十五號船稅徵收手續ハ二十六年一月一日ヨリ施行ス

大藏大臣伯爵松方正義

明治二十四年一月十六日

○逓信省令第一號

電話交換規則第十五條第二項及第十六條左ノ通改正ス

逓信大臣伯爵後藤象二郎

明治二十四年一月二十四日

第十五條

二 加入者ハ通貨ヲ以テ其月分ノ電話料ヲ翌月十日迄ニ電話交換局ニ納付スヘシ

第十六條 加入者ニシテ第三條第三項ニ據リ電報ヲ各地ニ發送スル爲メ郵便電信局又ハ電信局

明治二十四年一月 省令 海軍省第一號 大藏省第一號 逓信省第一號

ニ電話通信ヲナシタルトキハ其月分ノ電報料ヲ通貨ヲ以テ翌月十日迄ニ其郵便電信局又ハ電信局ニ納付スヘシ

○農商務省令第一號

大林區署

官林ニ關スル事件ニシテ大林區署ノ司掌ニ屬スルモノ、民事訴訟ニ付テハ本年勅令第二號第三條ニ依リ所管大林區署長ニ國ヲ代表スルノ權利ヲ委任ス

明治二十四年一月二十六日

農商務大臣陸奥宗光

○陸軍省令第一號
陸軍教導團生徒召募規則左ノ通改正ス

明治二十四年二月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍教導團生徒召募規則

第一條 陸軍教導團生徒ハ華土族平民中歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ下士出身志願ノ者ニシテ年齢十八年以上二十五歳迄ノ者ヲ召募シ身體検査學科試験ノ成績ニ依リ必要人員ヲ採用スルモノトス但年齢ヲ算スルハ其年十二月ヲ以テス

第二條 左ニ記スル者ハ志願者タルノ資格ヲ有セス但志願者入團願書差出ノ後本條ノ事故ヲ生ゼシ者アラハ島司郡市(東京、京都、大阪ノ三市ニシテ)長ハ速ニ教導團ニ報告スヘシ

一 妻アル者

二 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

三 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

四 前項ノ外平常業行修マラス同郷ニ於テ擯斥セララル者

第三條 體格ハ砲兵、工兵科ハ身長五尺二寸以上歩兵、騎兵、輜重兵科ハ五尺以上ニシテ體質強壯ナルヲ要ス

第四條 學科試験科目左ノ如シ

其一 讀書 日本外史又ハ日本政記ノ類(通讀)

其二 作文 記事文(真片假名)及通俗文

但作文ニテ作字ノ巧拙ヲ検査ス

其三 數學 四則雜問、分數雜問、比例、開平、開立

試験ハ一科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其總點數ヲ比較シテ優劣ヲ定ム而シテ其一科ニ落第スル者ハ

假令總點數ニ於テ優等ナリト雖トモ採用セズ

第五條 生徒志願者ハ第一書式ノ願書ニ第二第三書式ノ履歷書及戶籍寫(各副書ヲ)ヲ添ヘ島司郡市長ノ與書ヲ經テ本籍府縣廳(寄留ノ者ハ其府縣廳)長官ヘ差出シ該長官ハ之ニ與書シテ且ツ各人ノ里程調書(其願書ニ基キ汽車路海陸路ノ區別ヲナシ若シテ二道アルモハ其二道トモ取調ヲ要ス)ヲ調製シテ四月盡日迄ニ教導團長ニ送附スヘシ而シテ此書類ニハ父兄親族等必ス一家ノ戶主ニシテ身元體ナル者ニ名ヲ以テ身元保證人トナシ書式ノ如ク連署スヘシ

第六條 教導團長ハ前條ノ願書ニ據リ各大隊區ニ區別シタル志願者連名簿ヲ調製シテ之ヲ當該大隊區司令官ニ送附スヘシ

第七條 志願者ノ身體檢査學科試驗ハ當該大隊區司令官其司令部所在地ニ於テ之ヲ行フ(身體檢査ハ檢査トシテ巡迴ノト)而シテ身體檢査ハ徵兵醫官之ニ從事シ大隊區司令官ハ身體檢査合格ノ者ニ就テ學科試驗ヲ爲スモノトス但受験ノ爲メ往復旅費及滞在費ハ志願者ノ自辨タルヘシ

第八條 大隊區司令官ハ教導團長ヨリ送附スル所ノ志願者連名簿ニ據リ檢査及試驗ノ時日ヲ定メ之ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ木人ニ通達スヘシ但其試驗時日ハ教導團ヘモ通報スヘシ

第九條 試驗ノ問題ハ教導團長ニ於テ調製シ密封シテ之ヲ大隊區司令官ニ送附スヘシ

第十條 大隊區司令官ハ試驗ヲ終レハ問題ノ答解ヲ八月盡日迄ニ教導團ニ送附スヘシ

第十一條 教導團長ハ大隊區司令官ヨリ送附スル所ノ試驗書類ヲ審查シ其優劣ニ因リ採用スヘキ者ヲ決定シ大隊區司令官及島司郡市長ヲ經テ之ニ入團ヲ命ス但其採用セザル者ハ當該大隊區司令官ヨリ島司郡市長ヲ經テ之ヲ木人ニ通達スヘシ

第十二條 生徒入團ノ上ハ教導團條例第十五條ニ據リ誓約ヲ爲サシムルコト左ノ如シ

誓文

今般陸軍出身志願ニ付教導團生徒奉願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且御定規ノ服役年間ハ假令病氣ト雖トモ醫官ノ診斷ニ依ラスシテ免役ヲ請願致候等ノ儀毛頭仕間敷候依テ誓文如件

年 月 日

姓 名 印

第十三條 志願者ハ必ス檢査時日ニ後レサル様指示スル地ノ大隊區司令官ニ届出指揮ヲ受クヘシ檢査及試驗時日ニ際シ志願者中疾病又ハ事故ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時日ヲ遷延スルコトナシ然トモ開場中疾病快復シ又ハ事故止ムトキハ受験スルコトヲ得

第十四條 受験者出場スルトキハ筆墨硯及小刀ノ外總テ書籍草紙等ヲ携持スルヲ許サス

第十五條 志願者ニシテ試驗ヲ受ケタル後テ其居住地ヲ轉スルトキハ速カニ舊居住地ノ大隊區司令部ヲ經テ教導團ニ届出且ツ之ト同時ニ新居住地ノ大隊區司令部ヘモ其旨ヲ届出ヘシ

第十六條 已ムヲ得サル事故ヲ生シ志願取消ノ儀ヲ願出ントスル者アルトキハ其願書ヲ直ニ教導團ヘ差出シ且ツ之ト同時ニ地方廳及當該大隊區司令部ヘモ其旨ヲ届出ヘシ

第十七條 出團ヲ命セラレタル者居住地出發前ニ於テ病氣其他ノ事故ヲ生シ延期ヲ願出ントスルモノハ入團期日ヨリ何日間猶豫ノ旨(病氣ハ醫師ノ診斷書其他ハ市町記職シタル願書ヲ速ニ當該大隊區司令部ヲ經テ教導團ニ差出シ又出團途中病氣其他止ムヲ得サル事故アリテ定期日限ニ到著シ難キ者ハ郵便若クハ電報ヲ以テ教導團ニ届出テ置キ病氣ハ醫師ノ診斷書其他ハ其地ノ市町村長若クハ船長等ノ證明書ヲ以テ到著ノ上直ニ届出ヘシ但夫レカ爲メ多數ノ日子ヲ費シ入團結了ニ著キ滯滞ヲ來ス者ハ除名スヘシ

第十八條 出團ヲ命シタル者ニハ居住地(受験當時ノ住所ヲ云故ニ附後假令轉住スル者アルモ)ヨリ教導團迄其里程ニ應シ舟車馬料及日當ヲ給ス其支給方ハ教導團ヨリ大隊區司令部ニ送附スル

ヲ以テ就テ受領スヘシ但自己ノ便宜ヲ以テ出團期日前早著シ滞在スル者ニハ日當ヲ増給スルノ限リニアラス

第十九條 出團ノ達ヲ受ケタル者猥リニ出發ヲ遲延シ又ハ無届ニテ期日ニ到著セス或ハ自己ノ不注意ヨリシテ期日ニ後レタル者ハ採用セサルノミナラス發ニ支給セシ出團旅費ヲ返納セシム
第二十條 採用スヘキ者出團ノ上ハ再ヒ身體ノ検査ヲ行ヒ入團セシムルモノトス而シテ此検査ニ因リ不合格トナリタル者ハ歸郷セシメ其趣ヲ教導團ヨリ當該大隊區司令官ニ通報ス若シ自己ノ不衛生等ヨリ發病スルモノト認ムルトキハ歸郷旅費ヲ給セサルノミナラス出團ノ旅費ヲ返納セシムルモノトス

第二十一條 教導團ヨリ連名簿ヲ大隊區司令官ニ送附シタル後尙ホ志願者アリテ願書等ヲ府縣廳ヘ差出シタルトキハ便宜ノ爲メ府縣廳ヨリ願書類ヲ教導團ニ送附スルト同時ニ其志願者ノ住所姓名族籍職業其子(弟)年齢及ヒ希望兵科ヲ詳記シ之ヲ當該大隊區司令官ニ通知シ他志願者ト同時ニ受驗セシムルコトヲ得但本文願書ハ第八條ノ試驗時日ニ充分餘日アルモノト見認ムルモノニ非サレハ之ヲ取扱ハサルモノトス

附則

第二十二條 市制町村制實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二十三條 沖繩縣下ニ志願者アルトキハ前條大隊區司令官ノ取扱ニ係ルモノハ當分ノ内沖繩分遣步兵隊長ニ於テ之ヲ行フモノトス

第一號書式

教導團入學願 用紙美濃白紙

某 敬

陸軍出身志願ニテ此度教導團生徒入團仕度候間御試験ノ上御採用被下度入團ノ上ハ固ヨリ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕萬一行狀不正又ハ卒業ノ目的無之ヨリ退團ヲ命セラレ候共決シテ違背不仕御定期ノ服役年限ヲ相替リ可申且又本人身上ノ體ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可仕依テ願書及ヒ戸籍寫相添保證人連署此段奉願候也

何國何郡(市)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印
年 號 月 日 生

身元保證人

姓 名 印

府(縣)何族(平民)

姓 名 印

何國何郡(市)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印

同上

姓 名 印

同上

姓 名 印

陸軍教導團長 官姓名殿

府(縣)島司(郡)(市長) 姓 名 印

右ノ通願出候ニ付取調候處相違無之候也

地方長官 姓 名 印

前書ノ通相違無之候也

第二號書式

履歷書 用紙願書用紙ニ同シ而シテ書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノアル時ハ悉ク記載スヘシ

何年何月種痘(天然痘)

府(縣)何族(平民)職業

一 家分放ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケテコトナシ(家分放ノ宣告ヲ受ケシ

戸主ニ非サレハ親子弟等

モ既ニ復權ヲ得タリ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシモ復權ノ辨償ハ既ニ完了シ

姓 名

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ及ヒ賭博犯ノ處分ヲ受ケシコトナシ

- 一 何年月日任何官(補何等出仕)(免本官)(出仕被免)(何官(府)(縣)(廳)等)
- 一 何年月日何職被中付(何職被免)(何官(府)(縣)(廳)等)
- 一 何年月日ヨリ何年月迄何學校(總)入學何科卒業(何學修業)
- 一 何年月日ヨリ何年月迄何學研究(商業)ノ爲メ何國(外國)ニ在留
- 一 何年月日徵兵(士官候補生、士官學校幼年學校、教導團生徒、海軍兵隊等)ノ検査ヲ受テ(留校)(身不具等)學科ニ合セス
- 一 何年月日何々ニ依テ賞典何々下賜
- 一 何年月日何々ノ科ニ依リテ何罰中付ラル

右ノ通相違無之候也

本人

姓名
身元保證人
姓名

名 名 名
印 印 印

第三號書式

戸籍寫 用紙美濃白紙

- 一 祖父 某
- 一 祖母 某
- 一 父 某
- 一 母 某
- 一 兄 某 何年月日生
- 一 弟 某 同右
- 一 姉 某 同右
- 一 妹 某 同右

本人

姓名
身元保證人
姓名

名 名 名
印 印 印

(備考) 此ニ掲ケルハ同戸籍中現在スル者ノミヲ載スヘシ
右ノ通相違無之候也

年 號 月 日

本人

姓名
身元保證人
姓名

名 名 名
印 印 印

○大藏省令第二號

明治二十一年四月當省令第三號烟草稅則施行細則第十五條左ノ通改正ス
大藏大臣伯爵松方正義

明治二十四年三月五日

第十五條 烟草營業者ハ商品見本トシテ每種刻烟草五匁紙卷烟草十本葉卷烟草五十本ニ超ヘサル包莖ヲ切抜キ之ヲ店頭ニ陳列シ又ハ出賣先ニ携帶スルコトヲ得

○農商務省令第二號

明治二十年十二月當省令第四號茶業組合規則第二十七條產額ノ下「又ハ開港地へ輸送額」ノ九字ヲ挿入ス
農商務大臣陸奥宗光

明治二十四年三月五日

○陸軍省令第二號

明治二十三年一月陸軍省令第二號中「第四年ノ者」ノ下ニ「野戰砲兵ニ在テハ第三年ノ者」ノ割註ヲ加ヘ「但」ノ下「工兵中電信通信術同建築術卒業證書ヲ所持スル者及」ノ二十三字ヲ削ル
陸軍大臣伯爵大山巖

明治二十四年三月十日

○文部省令第一號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第三十五條ニ基キ私立小學校代用ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
文部大臣芳川顯正

明治二十四年三月十日

私立小學校代用規則

第一條 市ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
町村及町村學校組合ハ其區域内ニアル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其

- 一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概ネ左ノ如シ
 - 一 代用ノ期限
 - 二 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域
 - 三 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員
 - 四 代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額
 - 五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項
- 第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得ス但期限滿ルノ後更ニ代用スルコトヲ得
- 第四條 私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ教育上相應ノ成績アルモノニアラサレハ代用私立小學校タルコトヲ得ス
- 第五條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セントスルトキ
 - 二 小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ
 - 三 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ
 - 四 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ
 - 五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第六條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市參事會、町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第一項ニ依リ尋常小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキ
 - 二 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第七條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ補習科ヲ設置廢止セントスルトキ
 - 二 單級ノ編制ヲ多級ノ編制ニ改メントスルトキ
 - 三 小學校令第十七條及第十八條ニ依リ尋常小學校ニ關シテ許可ヲ受ケントスルトキ
 - 四 學校長教員ヲ任用解罷セントスルトキ
 - 五 第二條第三ノ定員ニ滿タザル場合ニ於テ第二條第二ノ區域外ノ兒童ノ入學ヲ許サントスルトキ
 - 六 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第八條 代用私立小學校設立者ニ於テ市町村長等ニ報告スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定ス
- 第九條 代用私立小學校授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十條 代用私立小學校授業料ノ納付上ニ關シ設立者ノ取計ニ異存アル者ハ市町村長若クハ町村組合長ノ處分ヲ請フコトヲ得
- 第十一條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ學政上ニ必要ナラス若クハ不利ナリト認定スルト

- 一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概ネ左ノ如シ
 - 一 代用ノ期限
 - 二 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域
 - 三 代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員
 - 四 代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額
 - 五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項
- 第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得ス但期限滿ルノ後更ニ代用スルコトヲ得
- 第四條 私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ教育上相應ノ成績アルモノニアラサレハ代用私立小學校タルコトヲ得ス
- 第五條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セントスルトキ
 - 二 小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ
 - 三 多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ
 - 四 學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ
 - 五 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第六條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市參事會、町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第一項ニ依リ尋常小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキ
 - 二 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第七條 代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
 - 一 小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ補習科ヲ設置廢止セントスルトキ
 - 二 單級ノ編制ヲ多級ノ編制ニ改メントスルトキ
 - 三 小學校令第十七條及第十八條ニ依リ尋常小學校ニ關シテ許可ヲ受ケントスルトキ
 - 四 學校長教員ヲ任用解罷セントスルトキ
 - 五 第二條第三ノ定員ニ滿タザル場合ニ於テ第二條第二ノ區域外ノ兒童ノ入學ヲ許サントスルトキ
 - 六 其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合
- 第八條 代用私立小學校設立者ニ於テ市町村長等ニ報告スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定ス
- 第九條 代用私立小學校授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十條 代用私立小學校授業料ノ納付上ニ關シ設立者ノ取計ニ異存アル者ハ市町村長若クハ町村組合長ノ處分ヲ請フコトヲ得
- 第十一條 監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ學政上ニ必要ナラス若クハ不利ナリト認定スルト

キハ其代用ヲ解除セシムヘシ

第十二條 市町村及町村學校組合ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ監督官廳ノ處分ヲ請フコトヲ得
代用私立小學校設立者ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ市町村若クハ町村學校組合ト協議ノ上市内ニ在ル學校ニ就キテハ府縣知事町村内ニ在ル學校ニ就キテハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ府縣知事若クハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得
本條ノ許可又ハ處分ヲ請フハ三箇月前ニ於テスヘシ但特別ノ事情アル場合ニ於テハ此限ニアラ

第十三條 代用私立小學校設立者ハ先ツ代用解除ノ許可ヲ經ルニアラサレハ其學校ヲ廢止スルコトヲ得ス

○農商務省令第三號

明治二十三年九月當省令第十二號商業會議所條例施行規則ハ左ノ一條ヲ追加ス

明治二十四年三月十一日 農商務大臣陸奥宗光

第七條 第二條及第六條規定ノ期限内ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ詳記シ其期限内ニ延期ヲ請フコトヲ得

○大藏省令第三號

明治二十三年十一月當省令第三十四號印紙類賣下賣捌規則施行細則第五條左ノ通り改正ス

明治二十四年三月十二日 大藏大臣伯爵松方正義

第五條 印紙類賣捌人及賣捌人ハ各免許賣捌所ノ標札ヲ調製シ戶外ニ掲出スヘシ

○大藏省令第四號 北海道水産稅ノ算出價額ハ明治二十一年一月ヨリ同二十三年十二月マテ三箇年間水産物ノ平均產

出高並ニ賣買相場ニ依リ之ヲ改正シ二十五年度ヨリ施行ス

明治二十四年三月十三日

大藏大臣伯爵松方正義

○陸軍省令第三號

明治二十四年一勅令第三號第三條ニ據リ本大臣所管事務ニ係ル民事訴訟ノ内第二第三第四第五第六各師管内ニ於テ生シタル事件ニ就テハ當該師團監督部長ニ北海道ニ於テ生シタル事件ニ就テハ屯田兵監督部長ニ屯田兵監督部條例施行ニ國ヲ代表スルノ權利ヲ委任ス

明治二十四年三月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第二號

明治二十四年一勅令第三號ニ依リ各鎮守府所管事務ニ係ル民事訴訟ニ付テハ當該鎮守府造船部長主計部長建築部長ニ國ヲ代表スルノ權利ヲ委任ス

明治二十四年三月十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

○大藏省令第五號

明治二十四年一勅令第三號ニ據リ造幣局及各稅關ニ係ル民事訴訟ニ付テハ造幣局長當該稅關長ニ國ヲ代表スル權利ヲ委任ス

明治二十四年三月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

○農商務省令第四號

明治二十四年五月一日以後鑛山試掘若クハ借區ノ願書ニハ圖面三葉ヲ添フヘシ

明治二十四年三月二十七日

農商務大臣陸奥宗光

○大藏省令第六號

地租條例施行細則第九條左ノ通り改正ス

明治二十四年三月三十一日

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ便宜検査ヲ爲シ五箇年以内ニ檢了スヘシ

○陸軍省令第四號

明治二十三年四月 陸軍省令第十號陸軍給與令細則第九章旅費ノ部中左ノ通改正ス

明治二十四年四月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍給與令細則

第九章 旅費

第一條中「赴任歸郷旅行ハ日數ニ依リ日當ヲ給セス」ノ十八字ヲ削リ「計算ス」ノ下へ「ヘキ」ノ二字ヲ加フ

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

本令第七十五條ニ依リ陸路旅行ノ者海路ニアラサレハ到リ難キ里程ハ亦前項ノ改算法ニ依ル

第七條第八條ヲ削リ第九條以下順次繰上ク

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

營内居住ノ下士轉任轉職ノトキ事務引繼ノ爲メ滞在セシムルトキハ本令第三十五表ノ日當ヲ支給ス

第十一條ヲ左ノ如ク改ム

本令第七十七條第一項ノ旅費及第二項ノ宿舍料ハ其定額内ヲ以テ實費支辨スヘシ但准士官以上及營外居住ノ下士以下ニ在テハ宿舍料ヲ除クノ外時宜ニ依リ定額ヲ以テ支給スルコトヲ得

第十六條中「其甲額乙額ノ區別ハ其地方ニ依リ之ヲ定ムルモノトス」ノ二十四字ヲ削ル

第十九條第一項「軍隊」ノ下へ「及諸學生諸生徒」ノ七字ト第三項「先發後發」ノ下へ「傷疾其他公

シヨリ歸營ヲ命ノ割註ヲ加フ

第二十一條中「赴任及」ノ三字ヲ削ル

第二十三條ヲ左ノ如ク改ム

明治二十四年四月 省令 陸軍省第四號

本令第八十二條第二項歸郷ノ者ニ日當ヲ給スルハ本令第六十六條但書ニ依リ計算ス故ニ早著スルモ返納セシメス延著スルモ追給セス

第二十四條 第一項ノ次ヘ左ノ三項ヲ加フ

兵器彈藥軍馬護送患者附添ノ爲メ前項行程ノ例ニ據リ難キトキハ現日數ニ應シ日當ヲ給ス
請願休暇旅行中公務ヲ命スルトキハ公務日數間ハ本令第三十二表ノ日當ヲ給シ又其公務ノ爲メ旅行ヲ命スルトキハ同表ノ旅費ヲ給ス

赴任途中他ノ公務ヲ帶ヒ某地ニ迂回シ或ハ某地ニ滞在セシムルトキハ實際ノ經路ニ依リ本令第三十二表ノ旅費ヲ給シ而シテ新舊任地間ハ本令第三十三表ノ移轉料ヲ給ス

一乙表中四ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

五修技所教官及助教ハ官等ニ應シ班長又ハ測量掛ノ金額ヲ給ス

一丁表ヘ左ノ一項ヲ加フ

對馬及紀州友ヶ島ハ甲額其他ハ總テ乙額ヲ給ス

〔參照〕

陸軍省令第十號(明治二十三年四月一日)抄録

陸軍給與令細則

第九章 旅費

第一條 赴任歸郷旅行ハ日數ニ依リ日當ヲ給セス本令第六十六條但書ニ依リ計算ス汽車路海路陸路ノ端里數ハ之ヲ時間ニ改算シ十二時間ヲ以テ一日トス但十二時間ニ滿タサルモ一時間以上ハ一日分ニ算入ス

前項時間ノ算法ハ汽車路十六哩海路八哩陸路一哩ヲ以テ一時間ノ定里トス

第七條 本令第六十八條第八項ノ旅費計算ハ第一條及第二條ニ依ル

第八條 本令第六十八條第九項第七十四條第四項兵器彈藥軍馬護送中ハ其旅費定額内ヲ以テ實費支辨ス

第十一條 本令第七十七條軍隊旅行演習旅行又ハ陣營移轉ノトキ旅費及舟車馬料ハ其定額内ヲ以テ實費支辨セシム其途中

傷病疾病等ノ爲メ舟車馬旅行ヲ許可シタルトキモ亦實費トス

前項旅費中下士以下一泊料ハ朝夕食料各金六錢宿舎料金四錢トシテ之ヲ計算スヘシ

前項旅費及舟車馬料ノ演習及復習ニ係ルモノハ總テ演習及復習費ニ屬ス

第十六條 本令第八十四條砲臺建築等ノ爲メ派遣シ同一ノ地ニ滞在三十日以上ニ及フ者ハ著習日ヨリ三十日間ハ本令第三十二表ノ日當ヲ給シ爾後ハ丁表ノ派遣手當ヲ給ス其甲額乙額ノ區別ハ其地方ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第十九條 左ノ各項ニ該ル者ハ丙表ノ旅費ヲ給ス但演習及復習ニ係ルモノハ總テ演習及復習費ニ屬ス

一 軍隊演習ノトキ所屬長官等實視ノ爲メ出張ノ者又ハ該事ニ關シ旅行ノ者

二 軍隊演習ノ舉アルトキ見學ノ爲メ出張セシムル者

三 本隊旅行ノトキ先發後發ノ者但本隊ニ復シタルトキハ其翌日ヨリ本隊同一ノ給與法ニ依ル

第二十一條 赴任及歸郷旅費ハ支出シタル日ヲ以テ會計年度ヲ區別ス其他ノ旅行ニ在テ會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別スト雖モ汽車料船料ハ會計年度ニ係ラス到港地ニ著シタル日ヲ以テ之ヲ區別ス

第二十三條 赴任及歸郷旅行ハ順路ニ應シ旅費ヲ計算シテ之ヲ給ス故ニ早著スルモ返納セシメス延著スルモ之ヲ追給セスト雖モ航海不便ノ島嶼居住ノ者ニ限リ船待ノ爲メ滞在シ其事由確實ナルモノハ滞在日數ニ應シ日當ヲ給ス此場合ニ在テハ島嶼郡區市役所又ハ町村役場等ノ證明書ヲ要ス

前項赴任途中他ノ公務ヲ帶ヒ某地ニ迂回シ或ハ某地ニ滞在セシムルトキハ實際ノ經路ニ依リ本令第三十二表ノ旅費ヲ給シ而シテ新舊任地間ハ本令第三十三表ノ移轉料ヲ給ス

○遞信省令第二號

明治十八年五月第九號布達本文中「壹岐對馬及」ノ五字ヲ刪除シ及別紙第一第二第三第六第七ノ五項ヲ左ノ通り改正刪除シ本日ヨリ施行ス

明治二十四年四月一日

第一項ヲ左ノ如ク改ム

遞信大臣伯備後藤象二郎

一本邦ヨリ朝鮮國ニ發着スル釜山迄ノ電報一音信料四拾錢トス但對馬釜山間ハ三拾錢トス

第二項及第三項中
「壹岐對馬及朝鮮國」トアルヲ「本邦ヨリ朝鮮國釜山」ト改ム

第六項中
「壹岐對馬」ノ七字ヲ刪ル

第七項中
「壹岐對馬及」ノ五字並「浦長崎間、嚴原長崎間」ノ料金を刪ル

〔參照〕

第九號布達(明治十八年五月七日)抄錄

壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報ノ料金は並海外電報ノ國內傳達料金を別紙ノ通相定ム

(別紙)

第一項 壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報一音信ノ料金を左ノ如ク

内地各分局	正 三拾錢	嚴原分局	正 五拾錢	釜山分局	正 六拾錢
長崎分局	正 貳拾錢	正 四拾錢	正 五拾錢	正 五拾錢	正 五拾錢
郷ノ浦分局	正 貳拾錢	正 貳拾五錢	正 貳拾五錢	正 貳拾五錢	正 貳拾五錢
嚴原分局			正 三拾錢		

第二項 壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報ハ和文片假名七字歐文ハ一語ヲ以テ一音信トス片假名七字ニ滿タサルモノ亦同

第三項 壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報和文ハ受信人ノ住所氏名ヲ字數ニ算入セス歐文ハ受信人ノ住所氏名共ニ

字數ニ算入ス

第六項 海外電報ノ國內傳達料金は何地ヨリ發スルヲ問ハス一語毎ニ左ノ如ク長崎以外ノ傳達料金は海外各國ニ於テ定ムル所ニ依ル

歐羅巴及埃及以西

正貨 拾七錢

亞細亞(亞細亞露西亞及)

正貨 貳拾錢

香港(厦門福州上海吳淞)コソラフ及浦潮斯嶺ト長崎ト直達

正貨 拾錢

第七項 壹岐對馬及朝鮮國釜山浦ヨリ海外ニ發スル電報長崎迄一語ノ料金を左ノ如ク

歐羅巴及埃及以西	郷ノ浦長崎間正貨貳拾七錢	嚴原長崎間正貨五拾七錢
亞細亞(亞細亞露西亞及)其他地方	釜山長崎間正貨五拾七錢	
亞細亞(土耳其ヲ除ク)其他地方	郷ノ浦長崎間正貨三拾錢	嚴原長崎間正貨六拾錢
	釜山長崎間正貨六拾錢	

其餘ハ海外電報料表ニ依リ收ムヘシ

○逓信省令第三號

明治二十三年三月逓信省令第四號但書ハ本日ヨリ之ヲ刪除ス

明治二十四年四月一日

逓信大臣伯爵後藤象二郎

〔參照〕

逓信省令第四號(明治二十三年三月十四日)

本年四月一日以降電報取扱規則(明治十八年五月)

第三十七條中國内ノ下附註「及壹岐對馬」ノ五字ヲ刪除ス但歐文電報ニ限リ

明治二十四年四月 省令 逓信省第三號

自 至	歌	文	每	一	課	料
	内地	各	所	對	馬	
壹	岐	金	拾	錢	金	拾
對	馬	金	拾	五	錢	

○内務省令第一號

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第八條屆書ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル届出ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者、相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

明治二十四年四月七日

内務大臣 伯耆西郷從道

(参照)

法律第十號藥品營業並藥品取扱規則(明治二十二年三月十六日官報)抄録

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出(シ)

○文部省令第二號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十九條ニ基キ小學校設備準則ヲ定ムルコト左ノ如シ
明治二十四年四月八日 文部大臣 芳川顯正

小學校設備準則

第一條 校地ハ日當リ好ク且成ルヘク開豁乾爽ナルヲ要ス
校地ハ喧鬧ニシテ授業ニ妨アル場所、危險ナル場所、道德上嫌忌スヘキ場所、停滯セル池水其他凡テ惡臭アリ若クハ衛生上ニ害アル蒸發氣ヲ生スル場所ニ接近スヘカラス

校地ヲ擇フニ方リ衛生上ノ利害明ナラサルトキハ醫師ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス
第二條 校舍ニハ
天皇陛下及
皇后陛下ノ 御影並教育ニ關スル 勅語ノ階本ヲ奉置スヘキ場所ヲ一定シ置クヲ要ス

第三條 校舍ハ成ルヘク平屋造ナルヲ要ス若シ二階造ナルトキハ成ルヘク幼年生ノ教室ヲ階下ニ置クヲ要ス
校舍ヲ新築スルニ方リテハ將來増加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リテ成ルヘク將來ノ増築ニ便宜ナル計畫ヲ爲シ又ハ成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クルヲ要ス

第四條 各教室ノ大サハ其内ニ入ルヘキ机並坐席ノ數、大サ及排置方ニ應シテ之ヲ定メ生徒四人ニ付凡一坪ヨリ小ナルヘカラス
各教室ハ一教員ノ同時ニ教授シ得ヘキ員數ノ生徒ヲ容ル、ヨリ大ナルヘカラス

第五條 校舍ハ生徒ノ帽傘雨衣、足駄等ヲ置クヘキ場所ヲ備フルヲ要ス
校舍ハ成ルヘク講堂、物置等ヲ備フルヲ要ス
裁縫ノ科目ヲ設クル小學校ハ男女ヲ區別シテ教授セサル場合ニ於テハ該科目ノ爲成ルヘク特別ノ教室ヲ其校舍ニ備フルヲ要ス

手工又ハ工科ヲ設クル小學校ノ校舍ハ工作ノ實地練習ノ爲特別ノ教室ヲ備フルヲ要ス
大ナル小學校ノ校舍ハ圖書標本等ヲ置クカ爲成ルヘク特別ノ場所ヲ備フルヲ要ス

第六條 體操場ハ成ルヘク校舍ニ傍フテ備フルヲ要ス
第七條 農業練習場ハ成ルヘク校舍ニ遠サカラサルヲ要ス
第八條 校舍ニハ堀井戸又ハ水道等ニ依リテ飲料水ヲ供給スルノ備アルヲ要ス
第九條 便所ハ校外ニ於テ男女ヲ區別シテ備フルヲ要ス

第十條 校舍ニ傍フテ成ルヘク學校長若クハ首席教員ノ住居及菜園ヲ設クルヲ要ス

第十一條 校具ハ甲乙ノ二種トス

甲種ノ校具ハ專ラ教授ノ用ニ充ツル器具トス尋常小學校ニ於テハ假名ノ掛圖、教員用教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、地球儀、定木、兩脚規、指數器、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、庶物指敷用具ヲ備フルヲ常例トシ高等小學校ニ於テハ教員用教科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、萬國地圖、地球儀、定木、兩脚規、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、博物標本、理化器械、圖畫ノ手本、圖書用具、裁縫用具、樂器、體操器械ヲ備フルヲ常例トシ其他ハ學校ノ等級、學級ノ編制又ハ教科若クハ教科目ノ種類ニ應シテ備フヘキモノトス

乙種ノ校具ハ國旗、門札、生徒用及教員用ノ机及腰掛(腰掛ヲ用フル學校ニ限ル)、時計、諸帳簿、硯箱並附屬品、紙、書籍棚、戸棚、日用品其他學校ニ備付クルヲ必要トスル物件ニシテ甲種ノ校具ニ屬セサルモノトス

第十二條 生徒用ノ机及腰掛ノ構造ハ生徒ノ衛生上ニ害ナカラシメ及生徒ノ監視上等ニ便利ナラシムルヲ要ス

第十三條 第二條ニ掲グル場所、校舍ノ内部外部ノ壁、校舍ノ床階梯、出入口、廊下、屋根、教室ノ天井、戸、梁窓、便所、體操場、農業練習場、教員住居及井戸等ノ構造並教室天井ノ高さ、教室ノ幅及長さノ制限、暖室、通風、採光ノ方法等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十四條 校具ノ構造排置等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十五條 校舍、校地、校具等ノ掃除及保存ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十六條 設備規則中ノ條規ニシテ校舍ノ新築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其時ヲ待テ之ニ依ラシムヘキモノトス但猶豫スヘカラサル事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

〔參照〕

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月七日官報)抄錄

第十九條 校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣定ムル所ノ準則ニ基キ府縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘシ

○農商務省令第五號

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第三條ニ據リ社寺上地官林委託規則左ノ通之ヲ定ム

農商務大臣陸奥宗光

明治二十四年四月八日

社寺上地官林委託規則

第一條 社寺ニ於テ上地官林ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ願書ニ共ノ創立ノ年代由緒資格出願地ノ字名區域段別樹種別木數(竹ハ三寸回リ以上ノ數量)維持方法氏子檀徒信徒ノ概數等ヲ詳記シ年限ヲ定メ圖面ヲ添ヘ神官住職及氏子檀徒總代ノ氏子檀徒ナキモ三名以上連署シ寺院ハ管長ノ與書ヲ經テ所轄大林區署長ニ差出スヘシ

第二條 社寺上地官林ノ委託ハ此ノ規則中特ニ定メタル場合ノ外十五年ヲ以テ限度トス委託年限ヲ經過レ向ホ引續キ其ノ委託ヲ請ケント欲スルトキハ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 社寺ハ委託前他人ニ於テ採取ノ許可ヲ得其ノ期限内ニ係ルモノヲ除クノ外委託官林内ノ副產物(即チ樹實菌茸落葉落葉下草晚節ノ類)ヲ無代價ニテ收受スルコトヲ得

第四條 社寺ハ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ委託官林内ニ建造物ヲ設ケ又ハ竹木ヲ栽植シ若クハ

林地ヲ使用スルコトヲ得

前項ニ據リ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植地ノ委託ハ新植ノ年度ヨリ起算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補植ニ就テモ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許サス

第五條 社寺ハ風致其ノ他水源涵養土砂防止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ栽植ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社寺ハ其ノ伐採シタル竹木相當價格ノ二分ノ一ヲ所轄大林區署ニ納付スヘシ

第六條 社寺ハ其ノ建築又ハ修繕用ニ供セントスルトキハ委託官林內在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂防止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ特賣ヲ所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得

前項ニ據リ賣渡ヲ受ケタル竹木ヲ目的外ニ使用シ又ハ轉賣シ若クハ讓與シタルトキハ其ノ賣渡代價ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第七條 社寺ハ其ノ委託官林保護ノ責ニ任シ且ツ四至ニ境界標ヲ建設スヘシ

前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第八條 社寺ハ第四條ニ據リ委託官林內ニ竹木栽植ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其ノ栽植地ノ四至ニ標杭ヲ建設シ栽植地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林內ノ栽植地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第九條 社寺ニ於テ委託官林內ノ竹木ヲ斫伐シ副産物ヲ採取スルトキハ凡テ所轄大林區署長ノ指示スル方法ニ據ルヘシ

第十條 社寺ニ於テ委託官林ノ手入ヲナサントスルトキハ所轄大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願書ニハ神官任職及ヒ氏子檀徒若クハ信

徒總代ノ連署ヲ要ス

第十二條 斫伐ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ引渡ヲ受クルニアラサレハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

但引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其ノ根株ハ特ニ許可シタルモノノ外掘採スルコトヲ得ス

第十三條 社寺ハ其ノ委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ速ニ所轄大林區署長ニ届出ヘシ

但第二第三第四及ヒ第五ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ノ検査ヲ受クヘシ

- 一 看守人ヲ置キ又ハ廢シタルトキ
- 二 委託官林ニ係ル犯罪其ノ他異狀ノ事故アリタルトキ
- 三 道路電線耕地宅地家屋等ニ對スル障害木アリタルトキ
- 四 林地ノ使用若クハ栽植ヲ終ハリタルトキ但竹木ノ栽植ヲナシタルトキハ其ノ栽植實費取調書ヲ添付スヘシ

五 竹木ヲ斫伐シ及ヒ運搬ヲ終ハリタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ハ委託期限中ト雖モ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

一 官用又ハ公用ノ爲メ必要アルトキ但此場合ニ於テハ委託中社寺ノ費用ヲ以テ栽植シタル竹木ニ就テハ其ノ栽植實費ヲ賠償ス

二 此ノ規則ニ定メタル制限及ヒ條件ニ違背シタルトキ但社寺ノ栽植ニ係ル竹木ハ之ヲ官沒ス

第十六條 竹木及ヒ副産物ノ斫伐採取其ノ他林地使用ノ爲メ若クハ故意怠慢ニ依リ委託官林ニ傷害ヲ生シ又ハ生セントスルトキハ所轄大林區署長ハ其ノ斫伐採取使用ヲ停止若クハ禁止シ尙ホ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ損害アルトキハ社寺ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任スヘシ

第十七條 社寺ニ於テ此規則ヲ履行スルニ因リテ生スル費用ハ社寺ノ負擔トス

(參照)

勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則(明治二十三年四月五日官報)抄錄
第三條 農商務大臣ハ相當ノ年限ヲ定メ社寺上地官林ノ全部又ハ幾分ヲ該社寺ニ委託シ其林地ノ使用ヲ許可シ又ハ其林地ノ產物ヲ下附スルコトヲ得

○内務省令第二號

郡制第六十五條第三項ニ依リ郡歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ノ規定ヲ設ク
明治二十四年四月十三日 內務大臣伯爵西鄉從道

第一條 郡歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 歲入歲出豫算ニハ郡會參考ノ爲各款項ヲ各自ニ區別シ各共豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條 數年繼續費郡制第六十ノ年及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ
夫役現品ヲ増課スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ

第四條 歲入歲出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條 各款項ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス
各自豫算金額ニシテ不得已流用ヲ要スルノ必用アルトキハ郡參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

(第一號)
明治何年度某府縣某郡歲入歲出豫算書

歲入

經常部	
第一款 財產收入	金
第一項 不動產收入	金
第二項 動產收入	金
第二款 雜收入	金
第一項 授業料	金
第二項 物品賣拂代	金
第三項 各町村分賦額	金
第一項 各町村分賦額	金
經常部合計金	金
臨時部	
第一款 繰越金	金
第一項 前年度繰越金	金
第二款 府縣補助金	金
第一項 某費補助金	金
第二項 某費補助金	金
第三款 寄附金	金
第一項 某費寄附金	金
第二項 某費寄附金	金
第四款 財產賣拂代	金
第一項 公債證券賣拂代	金
第五款 郡債	金
第一項 郡債	金

臨時部合計金	
歲入總計金	
歲出	
經常部	
第一款 會議費	金
第二款 郡會議費	金
第三款 郡參事會議費	金
第四款 郡吏員費	金
第五款 委員費	金
第六款 土木費	金
第七款 道路橋梁費	金
第八款 治水堤防費	金
第九款 港灣費	金
第十款 教育費	金
第十一款 某學校費	金
第十二款 衛生及病院費	金
第十三款 衛生費	金
第十四款 某病院費	金
第十五款 救助費	金
第十六款 養育費	金
第十七款 勸業會費	金
第十八款 勸業會費	金

臨時部合計金	
歲出總計金	
明治何年何月何日提出	
臨時部合計金	
第一款 元金償還	金
第二款 郡債利子	金
第三款 雜費	金
臨時部合計金	
第一款 土木費	金
第二款 道路橋梁費	金
第三款 某費本年度支出額	金
第四款 某費ノ内某費	金
第五款 本年度支出額	金
第六款 雜備費	金
第七款 雜備費	金
第八款 維持費	金
第九款 管理費	金
第十款 臨時部合計金	
第一款 臨時部合計金	
第二款 臨時部合計金	
第三款 臨時部合計金	
第四款 臨時部合計金	
第五款 臨時部合計金	
第六款 臨時部合計金	
第七款 臨時部合計金	
第八款 臨時部合計金	
第九款 臨時部合計金	
第十款 臨時部合計金	

(第二號)
自明治何年度
至同何年度
某府縣某郡某費繼續年期及支出方法

某府縣某郡長 氏名 印

一金 内閣

金

右云々(議決ヲ要スヘキ事業ノ大要ヲ記載ス)

明治何年何月何日提出

某費中

明治何年度支出額

某府縣某郡長 氏名 印

(第三號) 明治何年度某府縣某郡夫役現品増課方法

一土木費中某費夫役

若干人

此見積金

内閣

若干人

此見積金

一同現品

此見積金

内閣

若干

此見積金

若干

此見積金

若干

此見積金

某村

某村

某村

某町

若干人

明治何年何月何日提出

某府縣某郡長 氏名 印

〔參照〕

法律第三十六號郡制(明治二十三年五月十七日)抄録

第六十五條第三項

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第六十六條第二項

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

○陸軍省令第五號

徵兵令第二十七條ニ依リ徵集スヘキ者ハ徵兵検査ノ際更ニ身體検査ヲ爲シ徵集ニ適スル者ノミ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘ入營セシム但徵集ニ適セサル者ハ尙ホ次年同一ノ處分ヲ爲スモノトス

明治二十四年四月十五日

陸軍大臣伯露大山 巖

〔參照〕

法律第一號徵兵令(明治二十二年一月二十二日官報)抄録

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

○司法省令第一號

大阪地方裁判所管内大阪區裁判所船場出張所明治二十四年四月三十日限り廢止シ同出張所管轄ノ登記事務ハ大阪區裁判所ノ管轄トス

明治二十四年四月二十二日

司法大臣伯露山田顯義

○大藏省令第七號

明治二十一年四月當省令第三號烟草稅則施行細則第二十八條及同第二十九條中「第二十八條」ノ五字ヲ刪除ス

明治二十四年四月二十四日

大藏大臣伯爵松方正義

〔參照〕

大藏省令第三號烟草稅則施行細則(明治二十一年四月二十六日抄録)
第二十八條 烟草營業者發案ノ節ハ租稅検査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受ケヘシ
第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條
第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一
圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○大藏省令第八號

明治二十三年大藏省令第十七號備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治二十四年四月二十五日

大藏大臣伯爵松方正義

第五 毎年度三月三十一日ヲ過キ發スル其年度所屬ノ仕拂命令若クハ仕拂請求書ニハ收入官吏官氏名ノ次ヘ「某年度歳入」ト記入スヘシ此某年度トハ仕拂命令若クハ仕拂請求書ヲ發スル日ノ屬スル年度ヲ云フ此場合ニ於テハ第二項ニ依リ報告スル年度ハ歳入ノ屬スル年度ヲ意味スルモノトス

〔參照〕

明治二十三年七月十日大藏省令第十七號ハ文官判任以上ノ者俸給支給ニ係ル仕拂命令仕拂請求書及金額氏名表表式ナリ
○陸軍省令第六號
陸軍豫備後備將校補充條例第二條ニ依リ勤務演習ヲ行フトキノ召集ニ關スル件左ノ通定ム

明治二十四年四月二十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 一 陸軍豫備後備將校補充條例第二條ニ依リ一年志願兵終末試験及第證書ヲ所持スル者ノ勤務演習ヲ行フトキハ近衛都督又ハ師團長ヨリ本人居住地所管ノ旅團長大隊區司令官及監視區長ヲ經テ召集ヲ命ス可シ但陸軍召集條例第五條式ノ演習令狀ヲ用フルモノトス
- 二 召集ノ命ヲ受ケタル者ハ監視區長ノ所在ニ就キ旅費ヲ受領シ令狀ニ示ス所ノ期日迄ニ召集地ニ到著シ隊長ニ届出可シ
- 三 疾病其他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キ者ハ證明書ヲ添ヘ大隊區司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督又ハ師團長ニ届出可シ
- 四 近衛ニ召集ノ者ト雖モ近衛兵集合地ニ參集スルニ及ハス直ニ召集地ニ到ル可シ
- 五 召集中ハ總テ在營セシメ豫備後備將校補充條例第二條但書ニ當ル者ハ該隊ヨリ通勤セシムルモノトス
- 六 召集中食餌被服等ノ支給方ハ陸軍給與令ニ依ル

〔參照〕

勅令第六十九號陸軍豫備後備將校補充條例(明治二十二年五月二十二日官報)抄録
第一條 陸軍豫備將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲ケル者ヲ以テス
第一 一年志願兵ニシテ一箇年服役ノ後終末試験及第證書ヲ得テ豫備役ニ入ル者
第二條 第一條第一ニ當ル者ハ豫備士官ト爲ス可キ爲メ現役ヲ終リタル次年ニ於テ少クモ三箇月間原隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サシム但志願軍吏志願軍醫生及志願藥劑生ノ勤務演習ハ原所屬ニ於テスルト其他ニ於テスルトハ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ得テ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長之ヲ定ム

○外務省令第一號

明治二十四年勅令第三十三號公使館領事館費用條例細則左ノ通定メ該條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十四年四月二十九日

外務大臣子青木周藏

公使館領事館費用條例細則

第一條 費用條例第十四條ノ代理者加給及口領專代理俸ハ事務引繼ヲ了リタル翌日ヨリ之ヲ給シ
 本任官歸任若クハ新任本官到著ノ日ニ到リテ止ム

第二條 補助員及傭員ノ月俸ハ毎月末之ヲ給ス但端日數ニ係ルモノハ日割計算ス

第三條 東京任所間往返ノ途次自己ノ都合ニ因リ滞在若クハ迂路ヲ回行シタルトキハ其日子ニ對
 スル日當及實費船車料ヲ給セス但船待セシ者又ハ病ニ罹リ醫師ノ診斷書ヲ添證明シタル者ハ此
 限ニ在ラス

第四條 公使館領事館ノ經費ハ左ノ如ク區分ス

實費精算ヲ要スル費目

修繕費 家屋牆壁溝渠渠旗竿等ノ修繕

裁判及囚徒費

朝鮮國居留地取締費

地所家屋借料

廳費

備品費ノ内

器具

國旗並網

官印

公務所椅子並机

書冊鐵函

窓飾戸帳 對客間食堂ニ限ル

椅子

食堂用テーブル

圖書用戸棚

圖書費ノ内

書籍地圖類

通信運搬費ノ内

電信料

運搬費 保險料及公館移轉ノ飾什器運搬ノ費用

見本品購入代

雜費

諸謝金

公館ヨリ訴訟若クハ要求ヲ爲サハルヘカ
ラサル場合ニ於テ代官人ニ依頼等ノ支拂

爲換料

火災保險料

道路疏水等ノ手當

在外國難民貸與金

受繼電信料

墓地管理費

精算ヲ問ハサル渡切費目

廳費

備品費ノ内

明治二十四年四月 省令 外務省第一號

三七

點火器
 圖書費ノ内
 新聞雜誌類 内外各種ノ新聞雜誌
 製本費 アルマナックノ類
 筆紙墨文具
 用紙封筒ノ類
 諸帳簿 會計諸帳簿
 消耗品
 薪炭油 朝鮮國護衛所及警察署ニ限ル
 通信運搬費ノ内
 郵便税 郵便發送ノ爲メニ要スル諸費用
 備入被服費 公使館ニ限ル
 雜費
 諸手數料
 廣告料
 印紙料
 器具器械其他借料
 雜給
 雇人料 僱員支關番公務所小使但公使館ニ限ル
 宴會費 領事館ハ天皇節ニ限ル
 第五條 前條科目外ノ費用ハ公使領事若クハ其代理者ノ負擔トス

第六條 渡切費用ハ各科目定額ヲ十二分シ共一分ヲ以テ一箇月分トシ毎月末之ヲ各館長官ニ交付シ當該長官ノ領收證書ヲ以テ支拂ヲ證明スヘシ

○大藏省令第九號

明治二十二年八月大藏省令第十一號書式中第十二號丙丁戊己ハ二十四年四月分ヨリ削除ス
 明治二十四年四月二十九日 大藏大臣 伯耆松方正義

〔參照〕

明治二十二年八月三日大藏省令第十一號書式ハ諸計算書仕拂命令領收證及諸帳簿ノ様式ナリ

○内務省令第三號
 コッホ結核病治療液(クリンベル)ハ官立府縣立病院ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得其他病院若クハ醫師
 ニシテ相當ノ準備アル病室ヲ有スル者之ヲ使用セントストキハ豫メ地方長官ヲ經由シテ内務大
 臣ノ認可ヲ受クヘシ内務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ之ヲ認可シ若クハ認可セサルコトアルヘシ
 該液ハ外來患者ニ使用スルコトヲ得ス
 地方長官ハ該液ノ使用ニ關シ特ニ監督者ヲ派出シテ臨檢セシムルコトアルヘシ
 該液ヲ使用シタル者ハ左ノ書式ニ依リ其使用終結ニ至リタル患者ノ治療表ヲ製シ毎月内務大臣ニ
 報告スヘシ
 本令第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以内ノ罰金ニ處ス
 明治二十四年五月二日
 内務大臣伯耆西郷從道

結核病治療液治療表
 年月日調
 第幾 患者 病名

醫師 住所 氏名 印
 職業 男女 何某 年齢

成 績	諸 症	反 應	及 其 量	注 入 ノ 月 日	現 在 症	既 往 症 及 注 入 ノ 月 日

既往ノ痲痺ヲ入前ノ痲痺及ヒ結核菌ノ有無ハ既往痲痺及現在痲痺ノ欄下ニ記入後ノ體温呼吸脈搏ノ狀況惡寒腹痛痲痺心發熱倦怠等ノ諸症ハ反痲痺症ノ欄下ニ檢査ノ増減及ヒ全治輕快無効死亡ハ成績ノ欄下ニ記スヘシ

○大藏省令第十號

歳入ノ調定額ニ超過シタル誤納アリタルキハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第四號收入報告書同第五號收入總報告書同第十三號主計簿同第十四號收入簿同第十五號歳入簿ノ調定濟額トアル下ニ括弧ニテ「及調定外誤納額」ノ七字ヲ加記シ誤納ニ係ル金額ヲ調定濟額ノ欄内ニ登記シ事由ヲ備考(帳簿ハ摘要ノ欄内ニ記入スヘシ)

明治二十四年五月二日

大藏大臣 伯耆松方正義

○陸軍省令第七號

本年省令第一號陸軍教導團生徒召募規則中左ノ通削除改正ス

明治二十四年五月六日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

第五條中且ツ各人ノ里程調書(其路程ニ基キ汽車路海陸路ノ區別ヲナシ若)ヲ調製シテヲ削ル第十八條中其支給方ハ教導團ヨリ大隊區司令部ニ送附スルヲ以テヲ削ルヲ以テ大隊區司令部ニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第一號陸軍教導團生徒召募規則(明治二十四年二月十六日抄録)
第五條 生徒志願者ハ第一書式ノ願書ニ第二書式ノ履歴書及戶籍寫(要セヨ)ヲ添ヘ島司部市長ノ與書ヲ經テ本籍府縣廳(市ノ所屬ハ之)長官ハ差出シ該長官ハ之ニ與書シテ且ツ各人ノ里程調書(其路程ニ基キ汽車路海陸路ノ區別ヲナシ若)ヲ調製シテ四月十日迄ニ教導團長ニ送附スヘシ而シテ此書類ニハ父兄親族等必ス一家ノ月去ニシテ身元確ナル者ニ名ヲ以テ身元保證人トナシ書式ノ如ク連署スヘシ
第十八條 出陣ヲ命ジタル者ニハ居住地(其居住地ニ在リテ居ル者ハ其居住地ニ在リテ居ル者トシテ)ヨリ教導團迄其里程ニ應

シ舟車馬料及日當ヲ給ス其支給方ハ教導團ヨリ大隊區司令部ニ送附スルヲ以テ削テ受領スヘシ但自己ノ便宜ヲ以テ出陣期日前早著シ滞在スル者ニハ日當ヲ増給スルノ限リニアラス

○文部省令第三號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第九十五條ニ基キ正教員准教員ノ別ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十四年五月八日

文部大臣 芳川 顯正

第一條 左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教員ノ本科正教員若クハ本科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル
一 明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身讀書、作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク
二 明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校教員免許狀ニシテ少クトモ修身讀書、作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ
三 明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ少クトモ修身讀書、作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ
四 明治十九年十二月文部省令第二十三號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル中等若クハ高等師範學校卒業證書
五 明治二十二年十月文部省令第七號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシタル小學校師範學校卒業證書

第二條

左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ本科准教員タルコトヲ得但第

二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一明治十九年八月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀
書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ
規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二明治二十二年八月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ修身、讀
書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年八月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令
第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、
理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

四明治二十年八月文部省令第七號ニ依リ授與シタル高等小學校教員假免許狀ニシテ修身、讀書、作
文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第三條

左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在ル者及第一條第四款若クハ第五款
ニ掲クル卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ專科正教員若クハ專科准教員
タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一明治十九年八月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱
歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ
規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二明治二十二年八月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ圖畫、唱
歌、體操、裁縫、英語ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年八月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令

第六號

依リ有効年限ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、工業
商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第四條

左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ專科准教員タルコトヲ得但第
三款第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一

明治二十年八月文部省令第七號ニ依リ授與シタル高等小學校教員假免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體
操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二

第三條ニ掲クル免許狀

第五條

左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ本科正教員若クハ本
科准教員タルコトヲ得

一

明治十九年八月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ
修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シ
タル授業生免許狀ヲ除ク

二

明治二十二年八月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習
字及算術ノ五科ヲ教授シ得ヘキモノ

三

明治十九年八月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令
第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科
ヲ教授シ得ヘキモノ

四

明治十九年八月文部省令第二十三號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若
クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル初等、中等若クハ高等師範學
科卒業證書

五

第一條第五款ニ掲クル卒業證書

第八條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ本科准教員タルコトヲ得

一明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身讀書作文習字算術地理歴史理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身讀書作文習字算術地理歴史理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ修身讀書作文習字算術地理歴史理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

四明治二十年八月文部省令第七號ニ依リ授與シタル小學校教員假免許狀ニシテ修身讀書作文習字算術地理歴史理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第七條 左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在ル者及第一條第五款若クハ第五條第四款ニ掲グル卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ專科正教員若クハ專科准教員タルコトヲ得

一明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第八條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ專科准教員タルコトヲ得

一明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二明治二十年八月文部省令第七號ニ依リ授與シタル小學校教員假免許狀ニシテ圖畫唱歌體操裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三第七條第二款若クハ第三款ニ掲グル免許狀

第九條 府縣知事ハ本令ノ規程ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

〔參照〕

勅令第二百十五號小學校令明治二十三年十月七日官報抄録
第九十五條 本令ニ依リシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其効力ヲ有スルモノトス但正教員准教員ノ別ハ文部大臣
之ヲ定ム

○司法省令第二號
明治二十三年八月司法省令第四號區裁判所出張所管轄區域表中左ノ通改正ス

一東京地方裁判所管内下谷區裁判所日暮里出張所ヲ削除シ其管轄町村ヲ同區裁判所千住出張所ノ管轄トス

一金澤地方裁判所管内輪島區裁判所門前出張所ヲ櫛比出張所ニ改稱シ其管轄町村ヲ野田出張所ト改ム
明治二十四年五月十四日 司法大臣伯耆山田顯義

○司法省令第三號
判事檢事登用試驗規則左ノ通相定ム
明治二十四年五月十五日 司法大臣伯耆山田顯義

判事檢事登用試験規則

第一章 試験委員

第一條 判事檢事登用試験委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織ス
第二條 判事檢事登用試験委員長及委員ハ大審院控訴院ノ判事檢事司法省高等官ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第三條 判事檢事登用試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 試験委員附屬ノ書記ハ司法官又ハ裁判所書記ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第二章 受験資格

第五條 判事檢事登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ノ各項ノ一ニ該ル者ニ限ル
一 第一及第三高等中學ニ於テ法科ヲ卒業シタル者

二 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

三 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第六條 裁判所構成法第六十六條ニ該ル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三章 第一回試験

第七條 第一回試験ハ司法省ニ於テ之ヲ行フ試験ノ期日ハ試験委員長之ヲ定メ官報ヲ以テ公告ス

第八條 試験志願者ハ其志願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ
一 履歷書

二 身分年齢及兵役ニ關スル證明書

三 第五條ニ定メタル要件ノ證明書

第九條 試験ハ受験者ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス

第十條 筆記試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ各法ニ就キ之ヲ施行ス

第十一條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第十二條 口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第十三條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對スル委員過半数ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十四條 志願者口述試験ニ闕席シタルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第十五條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十六條 帝國大學法律科卒業生ニシテ司法官ノ任用ヲ望ム者ハ第八條ノ規程ヲ準用シ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第四章 實地修習

第十七條 試補ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ一名若ハ數名ノ判事又ハ檢事ニ附屬シテ事務ヲ修習スヘシ

第十八條 修習事務直接ノ指揮監督ハ地方裁判所長之ヲ爲ス檢事ノ事務ヲ修習スルトキハ檢事正之ヲ爲ス

裁判所長若ハ檢事正ハ毎年末ニ試補ノ職務上及職務外ノ行狀並職務ニ關ル成績ノ證明書ヲ作り

控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十九條 試補ハ修習目錄ヲ作り其取扱ヒタル事件ヲ記載スヘシ

此目錄ハ毎月直接指揮監督者ニ差出シ檢閲ヲ受ケヘシ

第二十條 試補ノ疾病又ハ兵役履行ノ爲メ修習ヲ缺キタル日數一箇年間二箇月以内ハ修習日數ニ

算入ス

賜暇其他ノ原因ニ由リ修習ヲ缺キタル日數一箇年間一箇月以内亦同シ

第二十一條 試補ノ場合併起スルトキハ通計シテ二箇月以内ニ非サレハ算入スルコトヲ得ス

分ニ適セサル行狀アルトキハ之ヲ諭告スヘシ此場合ニ於テハ指揮監督者ハ諭告ヲ爲シタルコト

ヲ試補ノ履歴ニ記入スヘシ

第二十二條 試補職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分

ニシテ第二回試験ニ及第ノ見込ナキトキハ直接指揮監督者ハ控訴院長檢察長ヲ經由シテ之ヲ司

法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ試補ヲ免スルコトアルヘシ

第五章 第二回試験

第二十三條 第二回試験ハ控訴院ニ於テ之ヲ行フ

試験ノ場所ハ司法大臣之ヲ定メ試験ノ期日ハ試験委員長之ヲ定ム

第二十四條 試補第二回試験ヲ受クルニハ直接指揮監督者ヲ經由シテ志願書ヲ司法大臣ニ差出ス

ヘシ

志願書ニハ修習目錄ト陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコトヲ證明スル書面トヲ添フ

ヘシ

第二十五條 司法大臣ハ第二回試験ヲ受ケヘキ試補ノ氏名ヲ試験委員長ニ通知シ試験ヲ行ハシ

第二十六條 第二回試験ハ受験者ノ實務ニ習熟シタルヤ否ヲ試験スルヲ以テ主タル目的トシ筆記

口述ノ二様トス

第二十七條 試験委員ハ試補ニ筆記試験ノ爲メ二件以上ノ訴訟記録ヲ付與スヘシ

第二十八條 受験者ハ付與セラレタル訴訟記録ニ就キ事實及理由ヲ詳示シタル判決案ヲ答案トシ

テ差出スヘシ

答案ハ二十日ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ若シ此期間内ニ答案ヲ差出サハルトキハ試験ハ成立タ

サルモノトス

第二十九條 口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行

ス

又訴訟記録ニ就キ問ヲ發シ之ニ答ヘシムヘシ其記録ハ試験期日ノ三日前ニ之ヲ付與ス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ司法大臣ハ試験委員長ノ報告ニ因リ試補ヲ免ス

一 第二回試験ニ及第セサルトキ

二 第二回試験ノ成立タサルトキ

第三十一條 前條第二ノ場合ニ於テ試補已ムヲ得サル事故アリシコトヲ證明シ試験委員之ヲ正當

ト認メタルトキハ其旨ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其試補ニ一回ヲ限り次期ノ試験マテ引續キ修習ヲ爲サシ

ムルコトアルヘシ

第三十二條 第一回試験ニ關ル第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規程ハ第二回試験ニモ亦之ヲ

適用ス

〔參照〕

法律第六號裁判所組織法(明治二十三年二月十日官報)抄録

第六十六條 左に掲ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復権シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ預備ノ義務ヲ免レサル者

○司法省令第四號

裁判所書記登用試験規則左ノ通相定ム

明治二十四年五月十五日

司法大臣伯爵山田顯義

裁判所書記登用試験規則

第一章 試験

第一條 裁判所書記登用試験ハ文官試験ニ關ル勅令ノ外本則ノ規程ニ從フ

第二條 試験ハ各控訴院ニ於テ之ヲ行フ

第三條 試験委員ハ控訴院判事檢事書記長又ハ其管内地方裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

試驗委員長ハ委員中官等最モ高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 試験ハ作文筆寫書取算簿簿記ノ外民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中ニ就キ之ヲ施行ス

第五條 試驗委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ地方裁判所ニ於テ筆記試験ヲ受ケシムルコトヲ得此場合ニ於テ試験問題ノ答案ハ其裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラレム

第六條 試驗委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験ノ爲メ受験者ヲ呼出スヘシ

第七條 受験者口述試験ニ闕席シタルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第八條 試験ニ及第シタル者ニハ試驗委員長及試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第九條 試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其試験ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二章 實地修習

第十條 試験ニ及第シタル者ハ裁判所書記見習ヲ命セラル、コトヲ得

裁判所書記見習ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ實地修習ヲ爲スヘシ

第十一條 實地修習ノ順序ハ控訴院長檢事長協議シテ之ヲ定ム

第十二條 實地修習ノ指揮監督ハ地方裁判所長若ハ檢事正又ハ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事若ハ檢事之ヲ爲ス

指揮監督者ハ修習ノ事務ヲ直接ニ指示スヘキ官吏ヲ定ムヘシ

第十三條 裁判所書記見習職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ指揮監督者之ヲ諭告スヘシ

第十四條 裁判所書記見習職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分ナリト認ムルトキハ指揮監督者ハ控訴院長檢事長ニ之ヲ報告スヘシ

第十五條 指揮監督者ハ裁判所書記見習其指揮監督ニ係ル修習ヲ終リタルトキハ修習ニ關ル證明書ヲ作り修習ノ成績並職務上及職務外ノ行狀ヲ記載シテ之ヲ控訴院長檢事長ニ差出スヘシ

若シ行狀ニ就キ諭告シタルコトアルトキハ其旨ヲ證明書ニ附記スヘシ

控訴院長檢事長ハ證明書ニ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十六條 本章ノ規程ハ試驗ヲ經スシテ裁判所書記見習トナリタル者ノ實地修習ニモ亦之ヲ適用ス

○司法省令第五號

函館 札幌 根室各地方裁判所管内郡役所戸長役場廢合ニ付登記所位置左ノ通改正ス

一 明治十九年司法省令甲第四號登記所位置管轄區域表中函館地方裁判所管内久遠登記所ノ位置ヲ久遠外三箇村戸長役場ト改ム

一 明治二十二年司法省告示第四號登記所位置管轄區域改正表中札幌地方裁判所管内市來知登記所ノ位置ヲ市來知外三箇村夕張郡戸長役場ト月形登記所ノ位置ヲ月形村雨龍郡上川郡神居外二箇村戸長役場ト根室地方裁判所管内熊牛登記所ノ位置ヲ熊牛外四箇村戸長役場ト改ム

明治二十四年五月十六日

司法大臣 伯耆山田顯義

○內務省令第四號

新聞紙雜誌又ハ文書圖書ニ外交上ニ係ル事件ヲ記載セントスル者ハ本年勅令第四十六號ニ依リ豫メ其草案ヲ東京府下ハ內務省ヘ其他ノ地方ハ其管轄廳ヘ提出シ檢閲ヲ受クヘシ

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十四年五月十七日

內務大臣 伯耆西郷從道

○內務省令第五號

明治十九年六月省令第十號日本藥局方左ノ通改正シ明治二十五年一月一日ヨリ施行ス

但前日本藥局方所載ノ藥品ハ本方施行ノ後ト雖モ明治二十六年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ前日本藥局方ノ六字ヲ明記スヘシ

明治二十四年五月二十日

內務大臣 伯耆西郷從道

日本藥局方

緒言

明治二十一年四月內務省ニ於テ日本藥局方調査委員ヲ設ケ次テ委員長ヲ撰任セラレタリ委員ハ先ツ調査ノ順序ヲ定ムルカ爲メ初度ノ會議ヲ開キ各擔當ノ科目ヲ分チテ之ヲ調査シ其成績ヲ會議ニ提出スヘキコトヲ決定セリ然ルニ近時新藥ノ世ニ行ハルモノ多キヲ以テ先ツ現行藥局方ニ追加スヘキ新藥ノ目ヲ議シテ鹽酸古加乙涅及安知歇脫林ノ二品ヲ採ルニ決シ次テ其記載ノ稿案ヲ議定ス明治二十一年九月二十九日發布セラレタル內務省令第七號是ナリ次ニ藥局方中其改正スヘキ最モ急要ノ廉ヲ調査スルノ業ニ移リタルニ其條項最モ多岐ニシテ頗ル錯雜ヲ極メ就キテ増刪ヲ爲セハ却テ通覽ヲ缺クノ不便アリ故ニ寧ロ速ニ全篇ヲ修正シ改正藥局方ノ稿案ヲ定メテ現行藥局方ニ代ハラシムルノ必要ナルヲ認メ日ヲ期シテ其功ヲ竣ハルヘキニ決セリ依テ是歲九月ヨリ改正藥局方案起草ノ事ニ著手シ嗣後明治二十三年十月ニ至ルノ間委員會ヲ開クコト十五回協議會ヲ開クコト六十八回以テ全篇ノ改正ヲ終了シ之ヲ內務大臣ニ具申セリ此改正ニ於テ新タニ藥品ヲ收載セシモノ三十二品刪除セシモノ六十七品經驗及調査ニ由テ改正加除ヲナセシモノ無慮千四百七十三件其他字句文章ノ修正ハ各條殆ト皆之ヲ行ヘリ茲ニ改正ノ結果トシテ全篇ニ關係スル要目ヲ舉グレハ左ノ如シ

- (一) 各條記載ノ件項ニ一定ノ順序ヲ定メ逐次ニ製法性質實性反應試驗用法貯法ヲ列記セリ
- (二) 峻効アル生藥及其製劑ニ於テハ成ルヘク其主成分ノ試驗法ヲ記載セリ
- (三) 本邦産ノ生藥ニシテ從來慣用セル外國産藥品ニ代用シ若クハ併用シ得ヘキモノハ務メテ之ヲ加入セリ
- (四) 丁幾劑ノ如キ製劑ニハ成ルヘク比重ヲ掲ケテ品質檢定ノ便ニ供セリ
- (五) 各種製劑ノ通則ハ其羅列名ニ從ヒ本文中適當ノ位置ニ挿入セリ
- (六) 藥品ノ名稱ハ錯誤ト煩雜トヲ避クルカ爲メ成ルヘク簡單ノモノニ改定セリ

(七) 化學藥ノ羅匈名ハ獨逸及澳地利ニ行ハル、モノヲ取り生藥ノ羅匈名ニハ其藥用部分ヲモ明記セリ例之舊名 Kali Acetas 改正名 Kalium aceticum 舊名 Rheum 改正名 Radix Rheiノ如キ是ナリ

凡例

- 一 藥局方中藥品ノ順序ハ其羅匈名ノ「アルファベット」ニ隨フ
- 一 藥品各條ノ首ニハ日本及羅匈ノ主名ヲ掲クルノ外汎ク使用セラル、別名アルモノハ之ヲ附記ス
- 一 藥品各條ノ記載ハ(一)製法(二)性質(三)實性反應(四)試驗(五)用法(六)貯法ノ順序ニ據ル但此諸項中必要ナキモノハ闕如ス
- 一 生藥ニ於テハ其基本タル植物及動物ノ名稱ヲ掲ク
- 一 製法ハ藥品一定ノ集積ヲ確保スルカ爲メ必要トスル場合ニ於テ之ヲ掲ク
- 一 製法ヲ掲ケサル場合ニ於テハ性質實性反應若クハ試驗ノ記載ニ由テ其藥品ノ純雜眞偽ヲ確定ス
- 一 貯法ハ藥品ノ性質ニ由リ特別ノ注意ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ掲ク
- 一 藥局方中重量、尺度及容量ハ「メートル」系統ニ依ル
- 一 藥局方中溫度ハ總テ攝爾度氏ノ度標(百分度)ニ依リ其十五度ヲ以テ定規溫度トナス
- 一 藥局方中若干分ト記スルハ總テ重量ヲ指ス
- 一 藥局方中溶液ノ比例ヲ掲ケテ(1:1)(1:2)ト記スルモノハ溶液十分二十分等ノ中ニ藥品一分ヲ含ムノ記標ニシテ總テ其大概ヲ指ス
- 一 藥品各條ノ下性質試驗ノ諸項ニ於テ單ニ水ト記スルモノハ總テ蒸餾水ヲ指ス
- 一 藥局方中藥品ノ定質試驗ハ特ニ記載スルモノ、外其被驗藥品ノ溶液大約十立方センチメートルヲ取り試験管中ニ於テ之ヲ行フ

- 一 藥局方中試驗ニ就キ單ニ溶液ト稱シテ特ニ其溶解藥ヲ云ハサルモノハ總テ水溶液ヲ指ス又簡便ノ爲メ單ニ試驗名ヲ記シテ溶液ノ字ヲ省略スルモノアリ
- 一 藥局方中ニ掲クル冷浸ハ十五度乃至二十五度ニ於テ行ヒ温浸ハ三十五度乃至四十五度ニ於テ行フ
- 一 藥局方中光ヲ遮リ貯フヘント記載セル藥品ヲ硝子壺ニ容ル、ニハ黑色或ハ黃褐色ノモノヲ撰用ス
- 一 生藥ハ特別ニ記載セル外總テ乾燥品ヲ供用ス但其乾燥ハ四十度ニ超エサル温ヲ以テ行フ
- 一 藥局方ノ末尾ニハ試驗及定規液ノ目ヲ掲ケ定規液ノ各條下ニハ各之ニ對應スル被驗藥品ノ量ヲ記ス
- 一 藥局方ニハ左ノ諸表ヲ附ス
 - 第一表 常ニ藥局ニ貯藏スルヲ要スル藥品ノ表
 - 第二表 此種ノ藥品ハ各條藥名ノ上〇標ヲ附シテ之ヲ別ツ
 - 第三表 此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「最モ注意シテ貯フヘント」ト記ス
 - 第四表 此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「注意シテ貯フヘント」ト記ス
 - 第五表 此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「注意シテ貯フヘント」ト記ス
- 一 第一表 常ニ藥局ニ貯藏スルヲ要スル藥品ノ表
- 一 第二表 此種ノ藥品ハ各條藥名ノ上〇標ヲ附シテ之ヲ別ツ
- 一 第三表 此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「最モ注意シテ貯フヘント」ト記ス
- 一 第四表 此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「注意シテ貯フヘント」ト記ス
- 一 第五表 此種ノ藥品ハ各條貯法ノ項ニ於テ「注意シテ貯フヘント」ト記ス

日本藥局方

醋酸

Acidum aceticum.

醋酸ハ澄明無色ノ液ニシテ重湯煎ノ温ニ於テ全ク揮散ス比重一・〇四八ナリ
本品ハ安母尼亞ヲ以テ中和シタル後過格魯兒鐵ニ由テ血紅色ヲ呈ス
本品ハ那篤倫滴液ヲ以テ中和スルニ焦臭ヲ放ツ可カラス又同容量ノ硫酸ヲ混和スルニ染色ス可カ
ラス又此混和液ニ注意シテ硫酸鐵飽和溶液ヲ加ヘ二液層トナスニ其境界ニ於テ類褐色ヲ呈ス可カ
ラス

本品一分ニ水五分ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸拔留誤、硝酸銀、安母尼亞又硫化水素ニ由テ濁濁
或ハ染色ス可カラス此稀釋酸五十立方「センチメートル」ニ過滿飽和加留誤溶液一立方「センチメー
トル」ヲ加ヘ二三分時ヲ經ルモノ之ヲ脱色ス可カラス
本品二グラムハ定規亞爾加里液十二立方「センチメートル」ヲ中和スヘシ是レ本品百分中三十六分
ノ純醋酸(CH₃CO₂H)ヲ徵スルモノトス

稀醋酸

Acidum aceticum dilutum.

稀醋酸ハ

醋酸

蒸餾水

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ澄明無色ノ液ナリ

本品ノ試験ハ醋酸ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

本品七グラムハ定規亞爾加里液十立方「センチメートル」ヲ中和スヘシ是レ本品百分中六分ノ純醋

十七分
八十三分

酸(CH₃CO₂H)ヲ徵スルモノトス

氷醋酸

Acidum aceticum glaciale.

氷醋酸ハ澄明無色ノ液ニシテ刺スカ如キ酸臭ヲ有シ重湯煎ノ温ニ於テ全ク揮散シ寒冷ニ逢ヘハ凝
固シテ結晶塊トナリ大約十六度ニ於テ再ヒ熔融シ沸騰點ハ大約百十七度ナリ水、酒精及依的兒ニ
ハ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和ス比重一・〇五六乃至一・〇六四ナリ

本品ノ試験ハ醋酸ノ條ニ掲クル所ニ準據スヘシ

本品三グラムハ定規亞爾加里液少ナクモ四十八立方「センチメートル」ヲ中和スヘシ是レ本品百分
中純醋酸(CH₃CO₂H)ノ最少含量九十六分ヲ徵スルモノトス

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

亞砒酸

Acidum arsenicosum.

亞砒酸ハ白色多少透明或ハ瓷質様ノ塊片或ハ白色ノ粉末ニシテ十五分ノ沸湯ニハ徐々ナルモ全ク
溶解シ木炭上ニ熱スレハ蒜臭ヲ放チテ揮散ス

本品ノ水溶液ニ鹽酸ヲ和シタルモノハ硫化水素ニ由テ安母尼亞ニ溶解スヘキ黄色ノ沈澱ヲ生ス

本品ヲ硝子管内ニ熱スレハ全ク昇華シテ固性物ヲ殘留ス可カラス或ハ之アルモ僅微ニ止マル可シ

本品〇・五グラムヲ重炭酸那篤倫誤三グラムト共ニ沸湯中ニ溶解シ冷後水ヲ加ヘテ百立方「センチ
メートル」トナシ共十立方「センチメートル」ハ十分定規沃度液少ナクモ九八立方「センチメー
トル」ヲ脱色スヘシ是レ本品百分中純亞砒酸(As₂O₃)ノ最少含量九十七分ヲ徵スルモノトス

最モ注意シテ貯フヘシ

安息香酸

Acidum benzoicum.

妥息香酸ハ光澤アル白色或ハ類黃色ノ小葉狀結晶若クハ鍼狀結晶ニシテ熱スレハ昇華シ熔融點ハ大約百二十度ナリ酒精依的兒嘔囉仿讓及那篤倫瀉液ニ溶解シ水ニハ僅少ニ沸湯ニハ多量ニ溶解ス

本品ノ水溶液ハ過格魯兒鐵ニ由テ類黃色ノ沈澱ヲ生ス
本品ハ尿臭ヲ放ツ可カラス又熱スレハ全ク揮散シテ固性物ヲ殘留ス可カラス
本品〇・二グラムヲ沸湯五立方センチメートルニ溶解シ之ヲ過滿飽酸加價讓〇・二グラムト共ニ試験管ニ入レ寬ク栓塞シ少時微熱ヲ與ヘ冷後之ヲ開クノ際揮發苦扁桃油ニ類スル香氣ヲ放ツ可カラス又本品ノ水溶液ハ過格魯兒鐵ニ由テ紫色ヲ呈ス可カラス
本品〇・一グラムニ炭酸那篤倫瀉液ヲ加ヘテ亞爾加里性トナシ蒸發乾涸スル後燒灼シ其炭化セシ殘留物ヲ水三十立方センチメートルニ溶解シ濾過シテ硝酸性トナシタルモノハ硝酸銀ヲ加フルニ蛋白石濁ヲ起スニ過ク可カラス

○硼酸

Acidum boricum.

硼酸ハ具珠樣ノ光澤ヲ有スル無色ノ小葉狀結晶ニシテ熱スレハ水蒸氣ヲ發シテ熔融シ次ニ膨大シ冷後固結シテ透映無色硝子樣ノ物質ニ變シ沸湯及沸騰酒精ニハ容易ニ溶解ス

本品ノ水溶液ニ鹽酸二三滴ヲ和シタルモノハ黃色試験紙ヲ褐色ニ染ム

本品ノ水溶液(1:10)ハ硫化水素安母尼亞亞硫酸化安母紐讓ニ由テ濁濁若クハ染色ス可カラス又硝酸二三滴ヲ和シタル後硝酸銀並硝酸拔價讓ニ由テ蛋白石濁ヲ起スニ過ク可カラス

○石炭酸

Acidum carboicum.

石炭酸ハ無色或ハ微ニ紅色ヲ帶フル長キ尖銳ノ結晶ヨリ成レル塊ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ其反應ハ中性ナリ酒精依的兒嘔囉仿讓個里設林及那篤倫瀉液ニハ隨意ノ比例ニ於テ證明ニ溶解シ大約

三十八度ニ於テ熔融シ大約百八十度ニ於テ沸騰ス

本品ノ水溶液ハ過格魯兒鐵ニ由テ紫色ヲ呈シ靛羅讓水ニ由テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス

本品ハ焦性若クハ不快ノ臭氣ヲ有ス可カラス又本品ヲ熱シテ之ニ點火スレハ全ク燃燒シテ固性物ヲ殘留ス可カラス

本品十分ニ水一分ヲ混和スレハ證明ノ液トナリ更ニ多量ノ水ヲ加フレハ濁濁シニ百分ニ至レハ全ク溶解シテ證明ノ液トナルヘシ

注意シテ貯フヘシ

粗製石炭酸

Acidum carboicum crudum.

粗製石炭酸ハ多少帶赤褐色ヲ有スル證明ノ液ニシテ多クハ焦臭ヲ有シ水ニハ充分ニ溶解セス酒精及依的兒ニ溶ケ易ク那篤倫瀉液ニハ殆ト全ク溶解ス

本品ノ水溶液ハ過格魯兒鐵ニ由テ紫色ヲ呈シ靛羅讓水ニ由テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス

本品十容量ニ那篤倫瀉液及水各同容量ヨリ成レル混和液九十容量ヲ加ヘテ振盪スレハ油樣ノ不溶解分ヲ留ムルモ一容量ニ過ク可カラス

注意シテ貯フヘシ

格羅讓酸

Acidum chromicum.

格羅讓酸ハ猩紅色ノ結晶或ハ鮮紅色鬆疎ナル絨毛樣ノ塊ニシテ大氣ニ觸ルレハ潮解シ水ニ溶解シ易シ酒精其他酸化シ易キ物質ニ混和スレハ爆發シ又ハ火ヲ發スルコトアリ

本品ヲ熱スレハ熔融シテ酸素瓦斯ヲ發シ暗綠色ニ變ス又鹽酸ヲ和シテ熱スレハ格魯兒瓦斯ヲ發ス

本品ノ水溶液(1:10)ニ鹽酸ヲ和シタル後格魯兒拔價讓ヲ加フルモ僅微ノ濁濁ヲ生スルニ過ク可カラス

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

枸橼酸

Acidum citricum.

枸橼酸ハ透映無色ノ結晶ニシテ〇・六分ノ水一分ノ酒精及大約五十分ノ依的兒ニ溶解ス

本品ノ水溶液ニ石灰水ヲ過飽シテ煮沸スレハ白泥ヲ生シ冷後再々溶解ス

本品ヲ白金板上ニ熱灼スレハ熔融シ次ニ炭化シ終ニ全ク燃化シテ固性物ヲ殘留ス可カラズ或ハ之アルモ痕跡ニ止マルヘシ又本品一グラムヲ硫酸十グラムニ和シ重湯煎上ニ一時間之ヲ熱スルモ赤褐色ヲ呈ス可カラズ

本品ノ水溶液(1110)ハ硫酸加爾斐謨溶液ヲ加フルニ澄明ヲ失セス硝酸拔留謨並ニ尿酸安母紐謨ニ由テ濁濁セス或ハ僅微ノ蛋白石濁ヲ生スルニ過ク可カラズ又安母尼亞ヲ加ヘテ大抵中和シタル後硫化水素ヲ和スルニ變化ス可カラズ

鹽酸

Acidum hydrochloricum.

鹽酸ハ澄明無色ノ液ニシテ氣中ニ於テ白霧ヲ放チ熱ニ逢フテ全ク揮散ス比重一・二五ナリ

本品ハ硝酸銀ニ由テ安母尼亞ニ全溶スヘキ白色乾酪樣ノ沈澱ヲ生ス

本品一分ニ水六分ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硫化水素ヲ以テ飽和スルニ變化セス之ヲ密閉セル器中ニ於テ少時間温ムルモ黃色ヲ呈ス可カラズ又硝酸拔留謨ヲ加ヘテ五分時ヲ經ルモ濁濁セス又沃度亞鉛粉溶液ニ由テ藍色ヲ呈ス可カラズ又安母尼亞ヲ以テ過飽スルニ沈澱ヲ生セス或ハ染色ス可カラズ且此液ニ硫化安母紐謨ヲ加フルモ微ニ綠色ヲ呈スルニ過ク可カラズ

本品三六五グラムハ定規亞爾加里液三十立方センチメートルヲ中和スヘシ是レ本品百分中三十分ノ格魯兒水素(HCl)ヲ微スルモノトス

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

粗製鹽酸

Acidum hydrochloricum crudum.

粗製鹽酸ハ氣中ニ於テ白霧ヲ發スル澄明ノ液ニシテ多クハ類黃色ヲ有シ比重大約一・二六ナリ

本品ハ百分中三十分以上ノ格魯兒水素(HCl)ヲ含有ス

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

稀鹽酸

Acidum hydrochloricum dilutum.

稀鹽酸ハ

鹽酸

一分
二分

蒸餾水

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ澄明無色ノ液ニシテ比重一・〇五ナリ

本品ノ試驗ハ鹽酸ノ條ニ掲グル所ニ準據スヘシ

本品三六五グラムハ定規亞爾加里液十立方センチメートルヲ中和スヘシ是レ本品百分中十分ノ格魯兒水素(HCl)ヲ微スルモノトス

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

硝酸

Acidum nitricum.

硝酸ハ澄明無色ノ液ニシテ熱ニ逢フテ全ク揮散ス比重一・三二七ナリ

本品ニ銅屑ヲ投スレハ黃赤色ノ蒸氣ヲ發シ其液ハ藍色ヲ呈ス

本品一分ニ水四分ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ硝酸銀並ニ硫化水素ニ由テ變化セス硝酸拔留謨ヲ加ヘテ五分時ヲ經ルモ微ニ蛋白石濁ヲ起スニ過ク可カラズ又純亞鉛少許ヲ加ヘテ微熱ヲ與ヘタル後少

量ノ呀囉仿誤ニ和シテ振盪スルニ之ヲ紫色ニ染ム可カラス又安母尼亞ヲ以テ過飽スルニ變化セス
其液ニ硫化安母紐誤ヲ加フルモ綠色ヲ呈スルニ過ク可カラス
本品六三ニ「グラム」ハ定規亞爾加里液五十立方「センチメートル」ヲ中和スヘシ是レ本品百分中五十
分ノ純硝酸(HNO₃)ヲ徵スルモノトス
壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

稀硝酸

Acidum nitricum dilutum.

稀硝酸ハ

硝酸

蒸餾水

一分
四分

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ透明無色ノ液ニシテ比重一・〇五九ナリ

本品ノ試験ハ硝酸ノ條ニ掲グル所ニ準據スヘシ

本品六三ニ「グラム」ハ定規亞爾加里液十立方「センチメートル」ヲ中和スヘシ是レ本品百分中十分ノ
純硝酸(HNO₃)ヲ徵スルモノトス

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

發烟硝酸

Acidum nitricum fumans.

發烟硝酸ハ透明赤色ノ液ニシテ大氣ニ觸ルレハ窒息性ノ赤色蒸氣ヲ放ツ比重大約一・五ナリ

本品一分ニ水大約百分ヲ和シテ稀釋セルモノハ硝酸銀並硝酸拔留誤ニ由テ濁濁ヲ生スルニ過ク可
カラス

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ冷處ニ貯フヘシ

磷酸

Acidum phosphoricum.

磷酸ハ透明無色無臭ノ液ナリ比重一・二ニシテ其百分中二十分ノ純磷酸(H₃PO₄)ヲ含有ス
本品ハ炭酸那篤留誤ヲ以テ中和シタル後磷酸銀ヲ加フレハ硝酸並安母尼亞ニ全溶スヘキ黃色ノ沈
澱ヲ生ス

本品ハ炭酸那篤留誤ヲ以テ過飽スルニ濁濁セス又硫化水素ヲ以テ飽和シ密閉セル器中ニ於テ少時
間之ヲ温ムルモ黃色或ハ黒褐色ヲ呈ス可カラス又同容量ノ硫酸ヲ混和シ冷後注意シテ硫酸鐵ノ飽
和溶液ヲ加ハテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ヲ呈ス可カラス又硝酸銀ヲ加フルニ濁濁ヲ起
ス可カラス之ヲ熱スルトキモ亦然リ又三倍容量ノ水ヲ以テ稀釋シ之ニ硝酸拔留誤ヲ加フルニ直チ
ニ濁濁ス可カラス又四倍容量ノ酒精ヲ混和スルニ澄明ヲ失フ可カラス

稀磷酸

Acidum phosphoricum dilutum.

稀磷酸ハ

磷酸

蒸餾水

一分
一分

ヲ取り混和シ製スヘシ

本品ハ透明無色ノ液ナリ比重一・〇五七ニシテ其百分中十分ノ純磷酸(H₃PO₄)ヲ含有ス

本品ノ試験ハ磷酸ノ條ニ掲グル所ニ準據スヘシ

壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

撒里矢爾酸

Acidum salicylicum.

撒里夫爾酸ハ白色鹹狀ノ結晶或ハ輕鬆ノ結晶粉ヲナシ臭氣ナク其味甘酸ニシテ稍奇癖ナリ大約百六十度ニ於テ熔融シ大約六百分ノ水ニ溶ケ熱湯、酒精及依的兒ニ溶解シ易シ其水溶液ハ酸性ノ反應ヲ徴ス

本品ノ水溶液ハ過格魯兒鐵ニ由テ紫色ヲ呈ス
本品ヲ白金板上ニ熱スレハ固性物ヲ殘留セスシテ燃化スヘシ又本品ニ硫酸ヲ和スレハ全ク或ハ殆ト染色セスシテ溶解スヘシ
本品一分ヲ酒精大約十分ニ溶解シ少量ノ硝酸ヲ和シテ後硝酸銀ヲ加フルモ濁濁ヲ起スニ過ク可カラス又本品〇二グラムヲ炭酸那篤留液大約五立方センチメートルニ溶解シ依的兒大約五立方センチメートルニ和シテ振盪シタル後其依的兒液ヲ蒸發スルニ殘留物アルモ僅微ニ過キ且石炭酸ノ臭氣ヲ有ス可カラス

硫酸

Acidum sulfuricum.

硫酸ハ無臭無臭油稠ノ液ニシテ白金板上ニ熱スレハ全ク揮散ス比重大約一・八三ナリ
本品ハ水ヲ以テ稀釋セル後硝酸被留膜ニ由テ酸類ニ溶解セサル白色ノ沈澱ヲ生ス
本品ニ酒精二倍容量ヲ和シテ久シキヲ經ルモ濁濁ス可カラス又硫酸飽和溶液ヲ加ヘ注意シテ二液層トナスニ其接界ニ於テ類褐色ヲ呈ス可カラス又大約五分ノ水ヲ以テ稀釋セルモノハ澄明ヲ失セス硝酸銀ニ由テ變化ス可カラス又硫化水素ヲ以テ飽和スルニ變化ス可カラス之ヲ密閉セル器中ニ於テ少時間温ムルモ黄色ヲ呈ス可カラス又安母尼亞ヲ以テ過飽セル後硫化安母紐ヲ加フルモ綠色ヲ呈スルニ過ク可カラス又此稀薄酸二五立方センチメートルニ同容量ノ水ヲ和シ一立方センチメートルヲ過滿飽酸加留液ヲ和スルニ直チニ之ヲ脱色ス可カラス
本品二四五グラムハ少ナクモ定規亞爾加里液四十七立方センチメートルヲ中和スヘシ是レ本品百分中純硫酸(H₂SO₄)ノ最少含量九十四分ヲ徴スルモノトス
壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

粗製硫酸

Acidum sulfuricum crudum.

粗製硫酸ハ無色或ハ類褐色澄明油稠ノ液ニシテ比重ハ少ナクモ一・八三ナリ
本品ハ百分中九十一分以上ノ純硫酸(H₂SO₄)ヲ含有ス
壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ注意シテ貯フヘシ

稀硫酸

Acidum sulfuricum dilutum.

稀硫酸ハ
硫酸
一分
蒸餾水
九分
ヲ取り絶ヘス蒸餾水ヲ攪拌シ注意シテ徐々ニ硫酸ヲ注加シ製スヘシ
本品ハ澄明無色ノ液ニシテ比重一・〇六三乃至一・〇六七ナリ
本品ノ試験ハ硫酸ノ條ニ掲グル所ニ準據スヘシ
本品四・九グラムハ定規亞爾加里液九・四乃至十立方センチメートルヲ中和スヘシ是レ本品百分中九四乃至十分ノ純硫酸(H₂SO₄)ヲ徴スルモノトス
壺中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ貯フヘシ

單寧酸

Acidum tannicum.

單寧酸ハ帶黃白色ノ粉末或ハ閃輝アル薄キ鱗屑片ニシテ酸性ノ反應ヲ徴シ其味甚タ澁ク酒精ニ全ク溶解シ依的兒、阿羅仿及偏蘇爾ニ溶解セス
本品ノ水溶液ハ膠或ハ蛋白ノ溶液ニ由テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生シ過格魯兒鐵ニ由テ藍黑色ノ沈澱ヲ生ス

本品ヲ白金板上ニ熱スレハ固性物ヲ殘留セスシテ燃化スヘシ或ハ之アルモ痕跡ニ止マルヘシ
本品一分ヲ五分ノ溫湯ニ溶解スレハ全ク或ハ殆ト透明ノ液トナリ冷後毫モ樹脂様ノ物質ヲ析出ス
可カラス又稀酒精五分ニ溶解セルモノハ證明微褐色ニシテ半容量ノ依的兒ヲ和スルモ濁濁ス可カ
ラス

○酒石酸

Acidum tartaricum.

酒石酸ハ無色無臭柱狀ノ結晶ニシテ多クハ層片狀ニ集合シ或ハ白色ノ結晶粉ヲナシ等分ノ水及三
分ノ酒精ニ全溶シ依的兒嘔嘔仿誤及偏蘇爾ニハ殆ト溶解セス燃燒スレハ砂糖ヲ燒灼スル如キ臭
氣ヲ放ツ

本品ノ水溶液ハ醋酸加價誤ニ由テ結晶性ノ沈澱ヲ生ス

本品ヲ白金板上ニ熱灼スレハ始メ炭化シ終ニ全ク燃化シテ固性物ヲ殘留ス可カラス或ハ之アルモ
痕跡ニ止マルヘシ

本品ノ水溶液(1:10)ハ安母尼亞ヲ加ヘテ大抵中和シタル後硫化水素ヲ和スルニ變化ス可カラス
又硫酸加爾斐誤硝酸銀或醋酸安母紐誤ニ由テ濁濁セス又硝酸拔價誤ヲ加フルモ濁濁ヲ起スニ過
ク可カラス

豚脂

Adeps suillus.

Sus scrofa. Linn.

豚脂ハ豚ノ脂肪組織ヨリ熔出シ水ヲ以テ之ヲ洗滌シタル後水分ヲ除却シテ得タル白色ノ脂肪ナリ
本品ハ三十五度乃至四十度ニ於テ熔融シ全ク無色透明ニシテ敗油臭ヲ帶ヒサル液トナルヘシ此液
ニ酒精ヲ和シ振盪シ冷後濾過シテ得タル液ニ水ヲ加ヘテ稀釋シタルモノハ試験紙ヲ變色ス可カ
ラス

○依的兒

Aether.

依的兒ハ透明無色揮散シ易キ液ニシテ中性ノ反應ヲ儼シ特異ノ香氣ヲ有ス大約三十五度ニ於テ沸
騰シ酒精、水醋酸及脂肪油ニハ隨意ノ比例ニ於テ混和ス比重大約〇・七二八ナリ

本品ハ潤滑セル試験紙ヲ變色セス又其十五立方センチメートルノ皿上ニ取リ自然ニ蒸散セシム
ルニ臭氣ヲ遺サス仍ホ重湯煎上ニ蒸發スルモ殘留物ヲ見ル可カラス

本品ニ同容量ノ水ヲ加ヘテ振盪スルニ水ノ容量ヲ増スコト十分一二過ク可カラス
場中ニ容レ密栓シ冷暗處ニ貯フヘシ

○蘆薈

Aloe.

喜望峯地方ニ産スル *Aloe* 屬ノ諸種

蘆薈ハ本植物ノ津汁ヲ煎稠シテ得タルモノニシテ暗褐色ノ塊ヲナシ破碎シ易ク其破碎面ハ貝殼狀
ヲ呈シ硝子様ノ光澤ヲ帶ヒ其邊緣ハ類赤色或ハ淡褐色ニ透映ス臭氣ハ特異ニシテ味ハ極メテ苦シ

微細ニ粉碎スレハ黄色ノ粉末ヲナシ重湯煎上ニ熱スレハ軟化スルモ融合セス
本品一分ニ沸湯二分ヲ和スレハ殆ト透明ナル溶液トナリ之ヲ冷却スレハ大約半量ハ其液中ヨリ析
出スヘシ

本品一分ハ溫酒精十分ニ殆ト透明ニ溶解シ冷後濁濁ス可カラス

明礬

Alumen.

明礬ハ無色透映堅硬ナル正整八面晶或ハ結晶塊ヲナシ其味微甘ニシテ澁ク酸性ノ反應ヲ儼シ十五
分ノ水ニ溶解シ酒精ニ溶解セス熱スレハ熔融シ次ニ甚ク膨起シ終ニ疎鬆白色ノ塊トナル
本品ノ水溶液ハ那篤倫瀉液ニ由テ凝膠様ノ白澱ヲ生シ其過剩ヲ加フレハ溶解ス之ニ過剩ノ格魯兒

安母紐誤ヲ和スレハ更ニ白濁ヲ生ス
本品ノ水溶液(110)ハ硫化水素ニ由テ變化セス又一滴ノ黃色血鹵鹽ヲ加フルモ微ニ類藍色ヲ呈ス
ルニ過ク可カラス又過剰ノ那篤倫鹵液ヲ加ヘテ熱スルモ安母尼亞ヲ發ス可カラス冷後硫化水素ニ
由テ沈澱ヲ生ス可カラス

枯礬

Alumen exsiccatum.

枯礬ハ白色細微ノ粉末ニシテ水ニハ徐々ナレトモ殆ト全ク溶解ス其試驗ハ明礬ノ條ニ掲クル所ニ
準據スヘシ
本品ヲ弱ク燥スルニ其重量ヲ減失スルコト百分ニ付キ十分ニ過ク可カラス
燥中ニ容レ密栓シテ貯フヘシ

安母尼亞屈誤

Ammoniacum.

Dorema Ammoniacum Don.

安母尼亞屈誤ハ相結合シ或ハ箇々分離セル顆粒ヨリ成リ又ハ稍、巨大ナル塊片ヲナシ帶黃褐色ヲ
有ス其新破碎面ハ曇白色ヲ呈シ寒冷ノ時ハ脆ク熱ニ逢ハハ軟化スレトモ澄明ニ熔融スルコトナシ
臭氣ハ特異ニシテ味ハ苦ク且辛烈ナリ
本品五グラムニ水十五グラムヲ加ヘテ研磨スレハ白色ノ乳樣液トナリ之ニ那篤倫鹵液ヲ加フレ
ハ黃色ヲ呈シ終ニ褐色トナル
本品ハ鹽酸ヲ注キ微温ヲ與フルニ紅色或ハ紫色ヲ呈ス可カラス又其粉末ヲ灰化スルモ百分ニ付キ
六分以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラス
本品ハ寒冷ニ依テ固結セシメ粉末トナシ篩過シテ不潔物ヲ除去シ用ニ供スヘシ

貌羅誤安母紐誤

Ammonium bromatum.

貌羅誤安母紐誤ハ無色ノ結晶或ハ白色ノ結晶性粉末ニシテ久シク大氣ニ觸ルレハ微黃色ヲ呈シ
一五分ノ水及大約百五十分ノ酒精ニ溶解ス
本品ノ水溶液ハ格魯兒水ニ由テ黃褐色ヲ呈シ又那篤倫鹵液ヲ加ヘテ熱スレハ安母尼亞ヲ發ス
本品ヲ熱スレハ全ク揮散スヘシ又本品ノ少量ヲ盜皿ニ取り之ニ稀硫酸二三滴ヲ注クニ直チニ黃色
ヲ呈ス可カラス
本品ノ水溶液(110)ハ藍色試驗紙ヲ直チニ赤變ス可カラス又硝酸拔留誤ヲ加フルニ僅微ノ濁濁
ヲ生スルニ止マルヘシ又硫化水素ニ由テ變化ス可カラス又其五立方センチメートルニ少量ノ噶
囉仿誤ヲ和シタル後一滴ノ過格魯兒鐵ヲ加ヘテ振盪スルニ其噶囉仿誤ニ紫色ヲ呈ス可カラス
本品ノ乾燥セルモノ一グラムヲ水百立方センチメートルニ溶解シ此溶液十立方センチメートル
ルニ格羅誤酸加留誤一二滴ヲ加ヘテ十分定規硝酸銀液ヲ滴下シテ赤色ヲ呈スルニ至ルニハ其
銀液ヲ費スコト十四立方センチメートルニ過ク可カラス

炭酸安母紐誤

Ammonium carbonicum.

炭酸安母紐誤ハ白色緻密堅硬多少透映ナル纖維狀ノ結晶塊ニシテ強キ安母尼亞臭ヲ有シ大氣中ニ
風化シテ不透映白色トナリ熱ニ逢フテ揮散ス五分ノ水ニ溶解シ稀酸類ニハ強ク泡沸シテ溶解ス
本品ノ水溶液(110)ハ稀硝酸ヲ以テ過飽シタル後硝酸拔留誤並硝酸銀ニ由テ濁濁ス可カラス又
其水溶液ニ稀硫酸ヲ加ヘテ過飽セルモノハ硫化水素ニ由テ變化ス可カラス又此液ノ五立方センチ
ンチメートルニ一立方センチメートルノ過飽飽酸加留誤溶液ヲ加フルモ五分時内ニ於テ著シク
變色ス可カラス
本品一グラムニ過剰ノ硝酸ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發スレハ無色ノ殘留物ヲ得ヘシ此殘留物ハ高度
ノ熱ニ逢フテ全ク揮散シ黑色ヲ呈ス可カラス

礮砂

Ammonium chloratum.

明治二十四年五月、會令、內務省第五號（日本藥局方）

鹽砂ハ白色ノ結晶性粉末或ハ堅硬ナル纖維狀ノ結晶塊ニシテ臭氣ナク氣中ニ於テ變化セス熱ニ達
 フテ揮散シ三分ノ水及大約等分ノ沸湯ニ溶解シ酒精ニハ殆ト溶解セス
 本品ノ水溶液ニ硝酸銀ヲ和スレハ稀硝酸ニ溶解セサル白澱ヲ生ス又那篤倫濾液ヲ和シテ熱スレハ
 安母尼亞ヲ發ス
 本品ノ水溶液(1:10)ハ硫化水素、硝酸拔留濾液及稀硫酸ニ由テ變化セス硫化安母紐誤ニ由テ沈澱ヲ
 生ス可カラス
 本品大約一グラムニ少量ノ硝酸ヲ加ヘ重湯煎上ニ蒸發スレハ白色ノ殘留物ヲ得ヘシ此殘留物ハ
 高度ノ熱ニ達フテ全ク揮散シ黑色ヲ呈ス可カラス

亞硝酸亞密爾

Amylinum nitosum.

亞硝酸亞密爾ハ澄明類黃色ノ液ニシテ果糖ノ香氣ヲ有シ其味芳香性ニシテ灼クカ如ク中性或ハ弱
 酸性ノ反應ヲ徵シ大約九十八度ニ於テ沸騰ス水ニハ殆ト溶解セス酒精、依的兒、嘔囉仿誤及偏蘇爾
 ニハ隨意ノ比例ニ於テ溶解ス之ニ點火スレハ光輝強ク且煤烟ヲ發スル黃焰ヲ放テ燃燒ス比重大約
 〇・八七三ナリ
 本品ニ過剩ノ加里濾液ヲ和シテ煮沸スレハ亞密爾亞爾爾爾爾ノ臭氣ヲ放チ冷後沃度加留誤ヲ加ヘ
 醋酸ヲ以テ酸性トナストキハ沃度ヲ析出ス
 本品五立方センチメートルニ十分定規亞爾爾加里液五立方センチメートルヲ和シ振盪シテ得タル
 液ハ藍色試験紙ヲ赤變ス可カラス又本品一立方センチメートルヲ硝酸銀及純酒精各一五立方センチ
 メートルニヨリ成レル混和液ニ和シ之ニ二三滴ノ安母尼亞ヲ加ヘテ微熱ヲ與フルモ褐色或ハ
 黑色ヲ呈ス可カラス
 小撮ニ容レ光ヲ遮リ注意シテ貯フヘシ

澱粉

Amylum.

(甲) *Erythronium dens canis Linn. (カマグリ)*
 本品ハ純白色無臭無味細微ノ粉末ニシテ顯微鏡下ニ檢視スレハ大小不同多クハ卵圓形ノ顆粒ヲナ
 シ通例其狹端ニ近キ處ニ小孔ヲ有シ同心性ノ層ヲ呈ス

(乙) *Pueraria Thunbergiana Benth. (葛)*

本品ハ白色細小不整ノ塊片ニシテ之ヲ粉碎スレハ純白色無臭無味ノ粉末トナル顯微鏡下ニ檢視ス
 レハ大小不同多クハ數面ヨリ成レル有角性ノ顆粒ヲ呈ス
 澱粉ハ冷水及酒精ニ溶解ス可カラス百分ノ水ニ攪和シ煮沸シテ放冷スルトキハ異臭異味ヲ有セサ
 ル中性稀薄ノ粘漿トナリ此粘漿ハ沃度溶液ヲ加フレハ暗藍色ヲ呈ス
 本品ヲ灰化スルモ百分ニ付キ一分以上ノ固性物ヲ殘留ス可カラス

砒石解毒劑

Antidotum Arsenici.

砒石解毒劑ハ
 過硫酸鐵液 百分
 常水 二百五十分
 ヲ取り混和シテ後豫メ

常水 二百五十分

ト親密ニ研和セル

煨製麻痺涅矢亞

十五分

ヲ加ヘ全質均等ノ糜粥トナルニ至ル迄注意シテ振盪シ製スヘシ

本品ハ用ニ臨テ製スヘシ但當ニ過硫酸鐵液百グラム及煨製麻痺涅矢亞十五グラムヲ各別ニ秤量

シ貯フルヲ要ス